2021 年 7 月

Falcon®+ オペレータマニュアル

9306900OM-JA **改訂版 21-02** **使用説明書の原文の翻訳**

Falcon®+ ドキュメント スキャナー

警告

本機を操作または保守点検する前に、本マニュアルをよくお読みください。
参照用に最新版を保管しておいてください。

© 2019, 2021 OPEX® Corporation
無断複写・複製・転載を禁ず。本書は、OPEX により、顧客、パートナー、ディーラーに提供されます。これらの資料のいかなる部分も OPEX Corporation の書面による事前の同意なしに、使用目的以外に、再製、出版、あるいはデータベースまたは情報検索システムに格納することはできません。

0.1. OPEX へのお問い合わせ

技術サポート：

OPEX テクニカル サポート
835 Lancer Drive
Moorestown, NJ 08057 USA

南北アメリカ：1 800.673.9288 - または - 856.727.1950

ヨーロッパ、中東、アフリカ：+1 800.673.9288

オーストラリア：+1 800.945247

Service@opex.com

製品のモデル名とシリアル番号をご用意してください（詳細については、「本機のモデル / シリアル番号の位置」（22 ページ）を参照）。

その他のお問い合わせ：

OPEX® Corporation
305 Commerce Dr.
Moorestown, NJ 08057-4234 USA
電話：+1 856.727.1100
Fax：+1 856.727.1955
https://www.opex.com/

本書における誤記載や不明確な点などに関しては、
OPEX の Technical Writers 部門に電子メールでお問い合わせください。
GroupDMATechWriters@opex.com

opexservice.com の Web サイトの問題に関するサポートについては、メールで OPEX Web Developers 部門までお問い合わせください。
GroupWebDev@opex.com

0.2. EC 適合宣言書

適合宣言書

理事会指令の適用: 2014/35/EU (低電圧); 2014/30/EU (電磁適合性); 2011/65/EU (RoHS); EC No. 1907/2006 (REACH)

適合が宣言される規格: IEC 62368-1:2014 (第2版); CISPR32:2015 版 2.0; CISPR24 版:2010/08/24 Ed:2; EN IEC 63000:2018

製造元名: OPEX Corporation

製造元住所: 835 Lancer Drive
Moorestown, New Jersey 08057- 4225
United States of America

輸入業者名: OPEX Corporation
輸入業者住所: Parc Technopolis – ZA de Courtaboeuf
3 avenue du Canada
Les Ulis, France

装置種別: ドキュメントスキャナ

型番: Falcon+, FalconV+

型番:

製造年:

ここに署名する私は、上記の装置が上述の指令および規格に適合することをここに宣言します。

場所: Moorestown, New Jersey USA

(署名)

日付: 2019年11月5日

H. Scott Maurer
(氏名)

OPEX International 社長
(職位)

Ref. Certif. No.
US/6554/ITS-M1

IEC SYSTEM FOR MUTUAL RECOGNITION OF TEST CERTIFICATES FOR ELECTRICAL EQUIPMENT (IECEE) CB SCHEME

CB TEST CERTIFICATE

Product	Document Scanner
Name and address of the applicant	Opex Corp. 305 Commerce Drive Moorestown, NJ 08057 United States of America
Name and address of the manufacturer	Opex Corp. 305 Commerce Drive Moorestown, NJ 08057 United States of America
Name and address of the factory Note: *When more than one factory, please report on page 2*	☐ Additional information on page 2 OPEX Corporation 853 Lancer Drive Moorestown, NJ 08057 United States of America
Ratings and principal characteristics	Falcon 120Vac, 1.9A, 60hz 220-240Vac, .9A 50hz Falcon V 120Vac, 2.2A, 60hz 220-240Vac, 1.2A 50hz Falcon V+ 120Vac, 2.2A, 60hz 220-240Vac, 1.2A 50hz Falcon + 120Vac, 2.2A, 60hz 220-240Vac, 1.2A 50hz
Trademark (if any)	
Customer's Testing Facility (CTF) Stage used	
Model / Type Ref.	Falcon, Falcon V, Falcon V+, Falcon +
Additional information (if necessary may also be reported on page 2)	☐ Additional information on page 2 M1: Added model numbers Falcon V+ and Falcon +, Added new alternate power supply Mean Well model RSP-320-36. Original certificate issued: 2/28/17.
A sample of the product was tested and found to be in conformity with	IEC 62368-1:2014 National differences: AT, AU, CA, CH, DE, DK, ES, FI, FR, GB, IE, IT, KR, NL, NO, SE, SI, US

This CB Test Certificate is issued by the National Certification Body

Intertek Testing Services N.A., Inc.
545 E. Algonquin Road, Suite F, Arlington Heights IL 60005, United States of America

Date: 2019-10-23

Signature: John Quigley

page 1 of 2

0.3. 改訂履歴

改訂番号	日付	変更内容（青い文字をクリックすると、対象ページに移動します）
19-01	2019 年 12 月 9 日	初版。
21-01	2021 年 5 月 10 日	完全に書き直され、新しいフォーマットと最新の内容で構成されています。
21-02	2021 年 7 月 14 日	2 ページ - テクニカルサポートとテクニカルライターのメールアドレスを更新しました。 5 ページ - 個別の翻訳履歴表を削除しました。

目次

0.1.OPEX へのお問い合わせ 2
0.2.EC 適合宣言書 3
0.3. 改訂履歴 5

1 章
はじめに

1.1. 本書について 12
1.1.1. マニュアルのナビゲーション補助 12
1.2. 安全メッセージ表記規則 13
1.3. 安全ガイドライン 14
1.3.1. 安全ガイドライン 14
1.3.2. 人間工学に基づいた作業方法 15

第 2 章
概要

2.1. 主制御部とシステムコンポーネント 18
2.2. 本機のモデル / シリアル番号の位置 22
2.3. Falcon+ システムコンポーネント 23
2.3.1. ソフトウェア 23
2.4. 仕様 24

第 3 章
操作

3.1. システムの電源を入れ、CertainScan を起動する 28
3.2. CertainScan オペレータアカウント 29
3.3. CertainScan にログインする 30
3.4. CertainScan メインインターフェース 31
3.5. ジョブを選択して CertainScan 実行画面を起動する 32
3.6. ジョブ実行画面 34
3.6.1. 実行画面の各種ボタン 35

3.6.2. 実行画面プレビュー画像のアイコン 36
3.7. 実行画面表示ビュー 38
3.8. 画像ビューア機能 49
3.9. 情報ウィンドウの選択 51
3.9.1. 他の情報ウィンドウ 53
3.10. 文書の作成 54
3.10.1. 文書の傾き 55
3.10.2. 文書をスキャンする 55
3.11. ジョブの実行と文書のスキャン 56
3.11.1. 文書積み重ねフィード 56
3.12. オペレータアカウントの管理 57
3.12.1. 新規オペレータの追加 59
3.12.2. ジョブへのグループ別アクセス 60

第 4 章
ジョブの実行

4.1. 概要 67
4.2. ルール化されたジョブとルール化されていないジョブ 67
4.3. ページタイプを割り当てる 68
4.4. ページタイプのロック 69
4.5. ページサブタイプ 70
4.6. 画質の調整 71
4.6.1. 読み込みパラメータの調整画面のボタン 71
4.7. 文書の再スキャン 74
4.8. バッチから文書を削除する 75
4.9. 新しいバッチを開始する 76
4.10. 文書とセット / トランザクションの無効化 77
4.11. スキャン中のバッチの編集 80
4.12. 複数バッチの中断と再開 81
4.12.1.CertainScan に搭載されているバッチエディタ 82
4.12.2. バッチを閉じる 83
4.13. 再スキャンフィーダー 84
4.13.1. スキャナの一時停止と再スキャンフィーダーの使用 84

4.13.2. スキャン中止時の再スキャンフィーダーの使用 85
4.14. マルチフィード検出（MFD）..... 87
4.14.1. スキャン中の MFD 無効化 87
4.14.2. スキャナの一時停止と MFD の無効化 88
4.14.3. スキャン中止時の MFD フィーダー経路の使用 88
4.15.ID Assist 89
4.15.1.ID Assist の使用 89
4.16. マルチスロット ID Assist 91
4.17. Key Assist 93
4.18. 紙詰まりを解消する 94
4.19. トレイから文書を取り出す 96

第 5 章
メンテナンス

5.1. タッチスクリーンモニターの較正 98
5.2. プリンタカートリッジの取り外し / 交換 99
5.3. グラフィックプリンタの取り外し / 交換 101
5.4. トレイとペーパーガイドの取り付け 105
5.4.1. 下部のペーパーガイド 105
5.4.2. 上部のペーパーガイド 106
5.4.3. ペーパーガイドの取り付け 107
5.5. トレイ 109
5.6. スキャナの清掃 110
5.6.1. コンベアと搬送ブロック 110
5.6.2. コンタクトイメージセンサー 111
5.6.3. フィードブロック 112

第 6 章
統計とバッチ出力ファイル拡張子

6.1.Falcon+ 統計情報 114
6.1.1. 統計レポートの生成 114
6.1.2. 一般情報 116
6.1.3. 全体的なシステム性能指標 117

6.1.4. システム性能の詳細 118
6.1.5. リジェクト用語 119
6.1.6. 詰まり 122
6.1.7. 停止 128
6.2. バッチ出力ファイル拡張子 130
6.2.1. 拡張子： 130

（このページは意図的に白紙にしています）

1. はじめに

1.1. 本書について 12
1.1.1. マニュアルのナビゲーション補助 12
1.2. 安全メッセージ表記規則 13
1.3. 安全ガイドライン 14
1.3.1. 安全上のご注意 14
1.3.2. 人間工学に基づいた作業方法 15

Falcon®+

オペレータマニュアル

1.1. 本書について

警告

本機を使用する前に、この章をよくお読みください。

本書には、OPEX Falcon+ シリーズのスキャナと以下を含む操作手順、安全関連コンポーネントについての情報が掲載されています。

- 安全情報、安全上の問題、注意事項
- 主要コンポーネントの識別および機能
- システム仕様
- 簡単なメンテナンスと清掃

本書の情報は、Falcon+ オペレータを対象としています。オペレータは装置の電源を入れて作業を開始し、コンベア上に文書を配置します。また、簡単なメンテナンスを実行することもできます。

本書は機器の設計変更を反映するため、またはエラーを修正するために更新されます（文書の改訂履歴の詳細が記載された表は、5 ページで確認できます）。参照用に、必ず最新の電子版マニュアルを保持してください。最新リリースは PDF 形式で www.opexservice.com からダウンロードできます。

1.1.1. マニュアルのナビゲーション補助

本マニュアルは、主にタブレット端末で使用するように設計されています。ナビゲーションを向上させるために、マニュアルには青い下線が付いたリンクが記載されており、これをクリックまたはタップすると特定のページや Web アドレスに直接アクセスできます。また、「目次」内のすべての項目と PDF ファイルのサイドバーにあるブックマークをクリックまたはタップすると特定のページに直接移動できます。最適なパフォーマンスを得るため、必ず最新版の Adobe® Acrobat Reader®* をお使いください。

*Adobe および Acrobat Reader は Adobe Systems Incorporated の登録商標です。

1.2. 安全メッセージ表記規則

本マニュアルでは、特定の手順や状況に関連する安全上の問題について警告するため、以下の表記規則を使用します。本書を読んで機器を操作するときは、以下の表記規則にご注意ください。

危険

回避しない場合は死亡または重傷を招く危険な状況を指します。この警告表示の使用は最も極端な状況に限定されます。

警告

回避しない場合は死亡または重傷を招く可能性がある危険な状況を指します。

注意

回避しない場合は軽度または中程度の傷害を招く可能性がある状況を指します。

通告

物的損害に関連するメッセージなど、危険に関連する内容ではないが重要とみなされる情報を指します。

1.3. 安全ガイドライン

本章は、OPEX 機器の操作やメンテナンスに関するさまざまな安全上の問題について説明することを目的とし、この機器を扱う際に守らなければならない安全上のガイドラインを説明します。

***備考**：本書では、Falcon+ スキャナシリーズの操作方法について説明します。違うモデルやオプション機能をお持ちの場合は、本マニュアルの先に進む前に該当する製品のマニュアルを参照してください。*

1.3.1. 安全上のご注意

警告

本機の操作または保守を行う際は、損傷を避けるため本書に記載された安全ガイドラインに必ず従ってください。これらの注意事項に従わない場合、重傷や装置の損傷を招く可能性があります。

- AC 電源に接続する場合は注意が必要です。電源に接続している限り、装置の作動状態を問わず電流が流れている可能性があります。注意を怠ると、感電や死亡事故をまねく危険があります。
- 装置内部に流れ落ちるおそれがあるため、スキャナ上に飲み物や液体を置かないでください。
- 剥き出しの可動部に巻き込まれる可能性があるので、装置に異物を近付けないでください。Falcon+ の可動部が異物により詰まる可能性や損傷する可能性があります。また、手、髪、衣服、装飾品などを可動部に近づけないでください。
- 本機の作動中に清掃をしないでください。ベルトやローラーなどの可動部は、布などを使って掃除しないでください。布などの素材を可動部に使用すると、機械の破損や重度の人身事故につながる恐れがあります。
- 本機に付着した紙屑や埃を取り除くために、可燃性の高圧エアースプレー缶を使わないでください。
- 電源が入っている間は、本機を移動させないでください。移動時は、予めコンセントを電源をから抜いてください。

1.3.2. 人間工学に基づいた作業方法

反復運動を繰り返す業務では、作業方法を検討することが重要です。スキャナを操作する際は、常に適切な操作手順に従ってください。椅子とスキャナの使用や調節方法については、使用説明書に従ってください。誤った手順で使用すると、重傷を負う可能性があります。Falcon+ スキャナは、95%以上のユーザが安全に操作できるように設計されています。本機を操作するのに十分な身長がない方や、本書に記載されている推奨手順を実行できない方は、本機の操作を避けるか、あるいは操作時間を制限する必要があります。

リスクを軽減するために、以下の提案に従ってください。

- 体の姿勢を真直ぐに維持し、椅子にもたれかからないようにして座っている間は、胴体と太ももの角度を常に 90 度近くに保つこと
- 椅子やスキャナの高さを調整し、腕を体の横に付け、両足を床に平らに置いた状態で肘が作業面の高さとほぼ等しくなるようにすること
- 胴体がスキャナ作業面の前端に触れるように椅子の位置を調整し、この姿勢を妨げるような肘掛け付きの椅子は使用しないこと
- 処理中によく触る部分への手の動きを最小限にするように、タッチスクリーンの位置を調整すること
- 頻繁に使用するピックアップエリアや、頻繁にタッチするタッチスクリーンのボタンは、腕を大きく伸ばしたり、姿勢を変えたりしなくても簡単に手が届くよう調整すること
- 座る角度をときどき変え、可能であれば作業内容に変化をつけて反復動作中に短い休憩を入れられるようにすること
- 1 回のシフトでの 8 時間以上の本機の操作は避けること

労働災害を完全に防ぐ方法はありませんが、Falcon+ を操作する際に上記の提案を実践していただければ、快適性と安全性は確実に向上します。本機はユーザを念頭に置いて設計されています。適切な方法で使用すれば、快適にご利用いただけます。

（このページは意図的に白紙にしています）

2. 概要

2.1. 主制御部とシステムコンポーネント 18
2.2. 本機のモデル/シリアル番号の位置 22
2.3. Falcon+ システムコンポーネント 23
2.3.1. ソフトウェア 23
2.4. 仕様 24

2.1. 主制御部とシステムコンポーネント

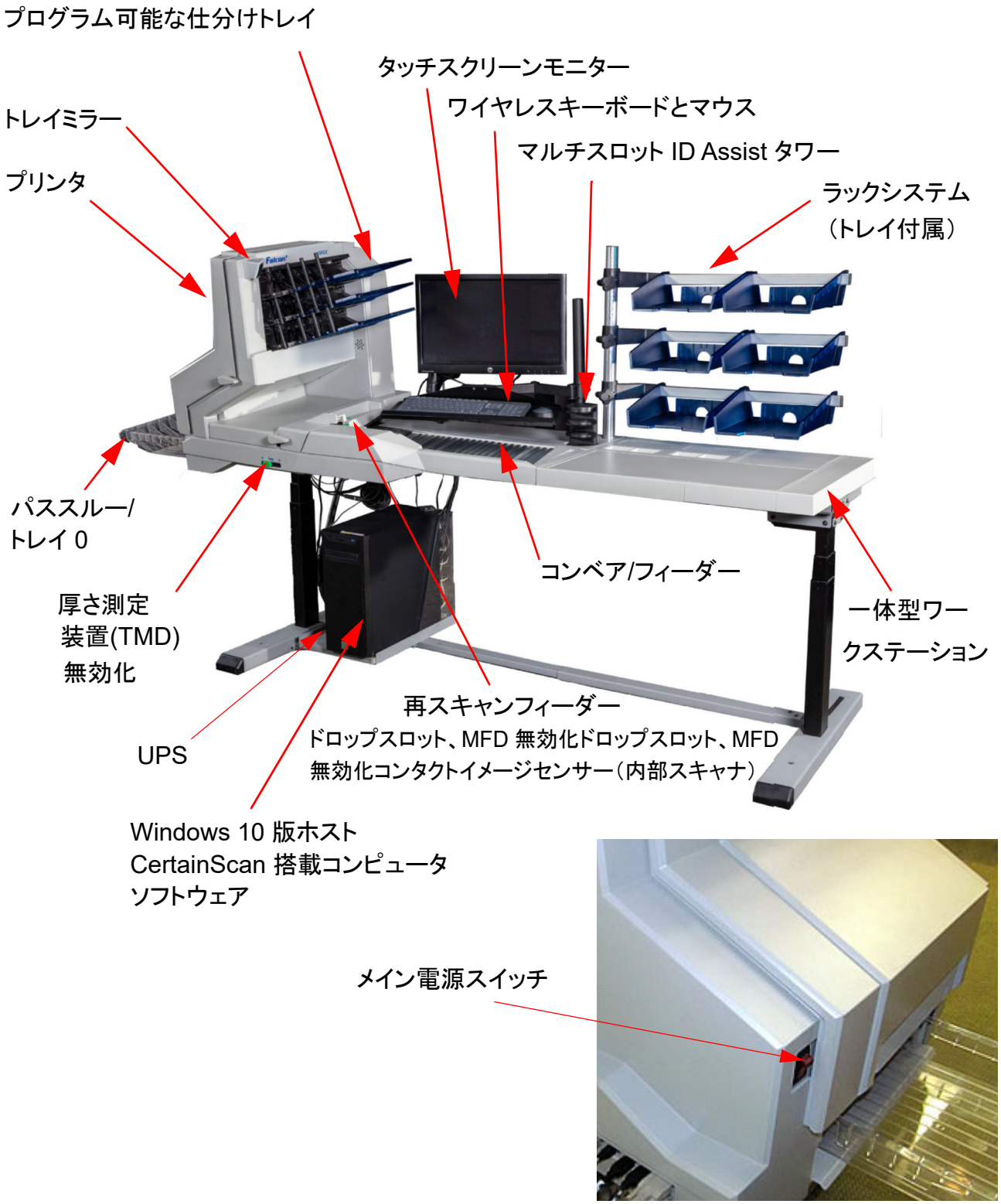


図 2-1 :　主制御部と各コンポーネント

以下のリストには、Falcon+ システムの制御部とコンポーネントの説明が記載されています。18 ページの図 2-1 を参照してください。

メイン電源スイッチ　メイン電源スイッチは左側のカバーの上に配置されています。これは Falcon+ スキャナーのメインスイッチです。

UPS（停電時作動用電源装置）　UPS は、バッテリからコンピュータとモニターに電源を供給して、Windows OS が強制的にシャットダウンされるのを防ぎます。スキャナは、UPS ではなく壁の AC 電源に差し込んでください。

ホストコンピュータ　64 ビット版の Windows 10 搭載 PC に、OPEX の独自機能を多く備えた CertainScan 5.0 （ホストソフトウェア）が搭載されています。

タッチスクリーンモニター　Falcon+ システムでは、ログインやログアウトにモニターを使用します。モニターのタッチスクリーンは、システムの操作やジョブの実行に使用します。

ワイヤレスキーボードとマウス（トレイ付属）　キーボードとマウスは通常、ジョブ設定時や他のソフトウェアの使用時にのみ必要になります。ジョブの実行やスキャナの操作には、タッチスクリーンモニターを使用します。

コンベア　文書がフィーダーに入る前に文書の端を揃える傾斜したローラーシステムです。

フィーダー　フィーダーは電子機械デバイスを使用して、個々の文書や文書の束を処理し、1 枚ずつスキャナへ供給します。

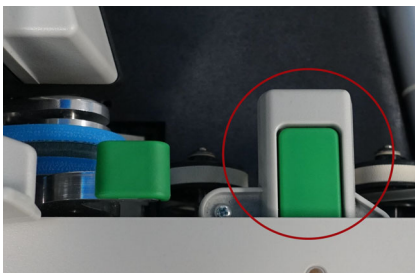
再スキャンフィーダー　スキャンが中止になった文書や、自動フィーダーが処理できない文書を（一度に 1 枚ずつ）給紙できます。

コンタクトイメージセンサー　コンタクトイメージセンサー（CIS）は、スキャン対象の文書とほぼ直接接触します。このセンサーは、照明系、光学系、感光系からなる一体型のスキャンモジュールで、搬送ドアの下に配置されています。

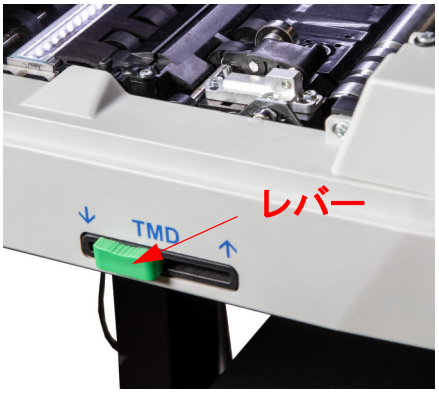
仕分けトレイ　スキャンされた文書は、仕分けトレイに分類されます。Falcon+ には 3 個、FalconV+ には 5 個のプログラム可能な仕分けトレイが付属します。各スキャナには大型の文書や繊細な文書を仕分けるためのパススルーのトレイ（トレイ 0）もあります。

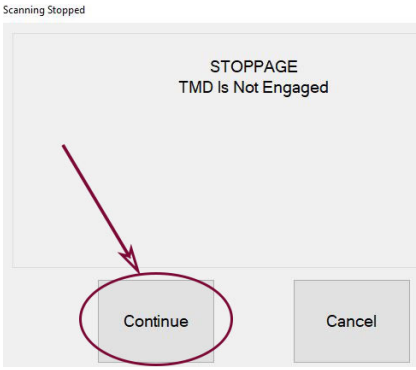
トレイミラー　トレイミラーは上部トレイの左上のパネルに搭載されています。上部トレイの内容が見やすくなります。

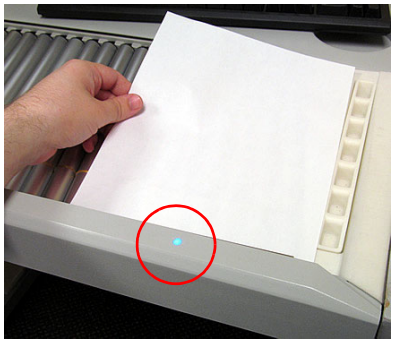
マルチフィード（MFD）無効化ボタン　付箋が貼られているページなどの厚い原稿をスキャンする際は、MFD 無効化ボタンを押すことで、超音波マルチフィード検出器を無効化できます。



厚さ測定装置 (TMD) の無効化　厚さ測定装置の無効化は、開いたペーパーパスを作成する機能であり、大型の文書や繊細な文書の処理に最適です。レバーを右にスライドさせて厚さ測定装置を外します。ジョブに TMD が必要な場合、オペレータには TMD が連結されていないことを述べる画面があらわれ、オペレータは **continue（続行）** かその文書を上書きするかを選択するよう求められます。



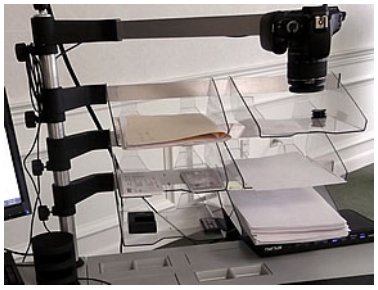




IDAssist インジケータ　IDAssist を含むジョブを実行すると、青色 LED の IDAssist インジケータが点灯します。また、オペレータが IDAssist を起動すると LED が短時間消え、IDAssist がアクティブになったことを知らせます。

マルチスロット ID Assist（オプション）　このオプションにより、タワーあたり最大 9 種類の機能を実行できます。この機能は、タワーの 3 個の投入口で文書をスワイプする方法により決定されます。これでは不十分な場合、スキャナあたり最大 2 つのタワーを使用できるので、合計 18 種類の機能を実行できます。

外付け画像キャプチャ装置（オプション）



Falcon+ でスキャンできない画像は、カメラに利用可能なオプションのポールと取り付けアームを使い、これで文書の画像をキャプチャして直接バッチに挿入できます。

備考：このオプションにはカメラが含まれず、必要なのはポール、取り付けアーム、ソフトウェアだけです。

検査履歴プリンタ（オプション）　オプションの検査履歴プリンタは、仕分けトレイの背後に設置されています。検査履歴は、スキャンされた各文書の裏表両面に印字できます。

裏面画像プリンタ（オプション）　標準の裏面検査履歴用プリンタの代わりに、このオプションの プリンタにて、署名やロゴや Code 39 バーコードなどの画像を印刷できます。最大 5 種類の記号を印字できます。

2.2. 本機のモデル / シリアル番号の位置

OPEX 技術サポートにお問い合わせの際は、担当技術者に参照シリアル番号（図 2-2）を伝えられるよう、あらかじめ本機のモデル / シリアルラベルをご確認ください。

お問い合わせ先の詳細については、2 ページをご覧ください。

図 2-2 :　モデル / シリアルラベル

2.3. Falcon+ システムコンポーネント

Falcon+ は、Windows 10 版ホストコンピューターに OPEX のソフトウェアをインストールして装置の機能を制御し、オペレータにグラフィカルユーザーインターフェイスを提供しています。文書はジョブとページタイプの設定に応じてスキャンされます。スキャナは MICR や OCR の情報を取り込み、監査証跡を印刷し、ジョブごとに設定された指定のトレイに振り分けます。

2.3.1. ソフトウェア

Falcon+ では、次の 2 つのソフトウェアアプリケーションを使用してスキャナを制御します。

CertainScan：設定されたジョブを選択して実行するためのオペレータ インターフェイスと、ジョブの設定、ページタイプの設定、オペレータのメンテナンス、OPEX スキャナの管理を担当する管理者用のインターフェイスです。

- **ジョブ**：ジョブは全スキャン作業を定義します。ジョブは、ページタイプの選択とジョブパラメータ（バッチ、イメージキャプチャ、仕分けなど）の定義によって設定されます。実行するジョブを選択すると、スキャンされた文書は、自動的にジョブのページタイプと照合され、すべてのメタデータが設定通りに取り込まれます。
- **ページタイプ**：ページタイプとは、スキャンする文書の種類（フォルダ、書類、小切手、封筒など）を表す用語です。ページタイプは、修飾子とパラメータ（バーコード、MICR、マーク検出など）を定義することで設定されます。ページタイプを設定して保存すると、ジョブの設定時に選択できるようになります。
- **文書仕分け**：CertainScan では、スキャン時に 4 つのレベルの文書仕分けが可能です。文書仕分けに使う用語は、選択した CertainScan 顧客タイプに基づいています。
  - サービスデスク用語：Batch（バッチ）> Set（セット）> Group（グループ）> Page（ページ）
  - 入金処理条件：Batch（バッチ）> Transaction（トランザクション）> Group（グループ）> Page（ページ）

INtime コントローラ：このソフトウェアはバックグラウンドで動作し、CertainScan の初回起動時に起動します。INtime はスキャナに関連するすべての機械的機能を制御します。INtime コントローラにアクセスする必要はありません。CertainScan の使用時は、INtime を閉じないでください。

2.4. 仕様

表 2-1: Falcon+ 仕様

文書のフィード	• 大容量自動フィード • 連続ドロップフィード • 文書束フィード • 再スキャンフィード
対応可能な文書	• 高さ：5.08 ～ 30.48 cm （2.0 ～ 12.0 インチ） 長さ：8.89 ～ 64.77 cm （3.5 ～ 25.5 インチ ） • 仕分けされた用紙の厚さ：0.008 ～ 0.03 cm （0.003 ～ 0.012 インチ ） • スルーパス用紙の厚さ：0.008 ～ 0.16 cm （0.003 ～ 0.062 インチ ）
スキャン速度	最高 120 ppm / 220 ipm @ 300 dpi
インライン認識	OCR、OMR、バーコード、原稿タイプ ID
メディア検出	マルチフィード（複数ページの重なり）、長さ、傾き、厚さ、封筒などの検出
文書仕分け	• 3 個または 5 個のプログラム可能な仕分けトレイ • 分厚い文書や繊細な文書用のプログラム可能なストレートパス収納トレイ（1 個）
1 日あたりのデューティサイクル	無制限
最大寸法 （高さ x 幅 x 厚さ）	162.81 cm x 219.71 cm x 82.04 cm （64.1 x 86.50 x 32.3 インチ）
最小寸法 （高さ x 幅 x 厚さ）	128.78 cm x 194.31 cm x 82.04 cm (50.7 x 76.5 x 32.3 インチ)
重量	ベースマシン：159 kg(350lbs.)
電気的特性	• 北米：100 - 120 VAC 1 A 50 / 60Hz • ヨーロッパ：220 - 240 VAC 0.6A 50 / 60Hz

表 2-1: Falcon+ 仕様（続き）

電気規格	UL/ANSI-62368-1、CAN/CSA STD.C22.2 No. 62368-1、IEC 62368-1
電源	264 ワット（902 BTU/ 時）
搭載ソフト	CertainScan™ 5.5 ホストソフトウェア（64 ビット版）、CertainScan Edit™、OPEX Transform™、OPEX 標準バーコードパッケージ、Windows 10（64 ビット版）
その他の特徴	• OPEX 提供：Windows 10 版ホストコンピュータ • タッチスクリーン付き 22 インチフラットパネル • ワイヤレスキーボードとマウス • トレイミラー • 積み重ねた文書の検知技術 • Key Assist • ID Assist™ • 一体型ワークステーション • 厚さ測定装置の無効化 • *VRS テクノロジーによる画像補正機能（*VRS は Kofax, Inc. の登録商標です。）
オプション	• 参照 ID • MICR 認識装置 • 検査履歴印刷（表裏両面対応) • 裏面用画像プリンタ（署名印刷や Code 39 バーコード用) • 外付けデジタル読み取り装置用の汎用マウント（OPEX 製） • マルチスロット ID Assist タワー（スキャナあたり最大 2）
販売中のモデル	Falcon+、FalconV+、Falcon RED+、FalconV Red+、Falcon Transportable+

（このページは意図的に白紙にしています）

3. 操作

3.1. システムの電源を入れ、CertainScan を起動する 28
3.2. CertainScan オペレータアカウント 29
3.3. CertainScan にログインする 30
3.4. CertainScan メインインターフェイス 31
3.5. ジョブを選択して CertainScan 実行画面を起動する 32
3.6. ジョブ実行画面 34
3.6.1. 実行画面の各種ボタン 35
3.6.2. 実行画面プレビュー画像のアイコン 36
3.7. 実行画面表示ビュー 38
3.8. 画像ビューア機能 49
3.9. 情報ウィンドウの選択 51
3.9.1. Additional Information Windows（他の情報）ウィンドウ 53
3.10. 文書の作成 54
3.10.1. Skew（傾き） 55
3.10.2. 文書をスキャンする 55
3.11. ジョブの実行と文書のスキャン 56
3.11.1. Stack Feeding (文書積み重ねフィード) 56
3.12. オペレータアカウントの管理 57
3.12.1. 新規オペレータの追加 59
3.12.2. ジョブへのグループ別アクセス 60

3.1. システムの電源を入れ、CertainScan を起動する

1. スキャナのメイン電源スイッチをオンにします。
2. UPS をオンにします。モニターの電源が入り、コンピュータ が起動します。UPS の電源が入っていて、コンピュータの電源が入っていない場合は、コンピュータの電源を入れます。
3. ローカルネットワークアクセスに設定されていない場合、Windows はログインのプロンプト表示なしで起動します。ローカルネットワークアクセスに設定されている場合、ユーザー名とパスワードで Windows にログインします。
4. デスクトップ上の CS アイコン (図 3-1) をダブルクリックして、CertainScan を起動します。

図 3-1 :　CertainScan のアイコン

5. オペレータがログインするための CertainScan メイン画面が表示されます（図 3-2）。

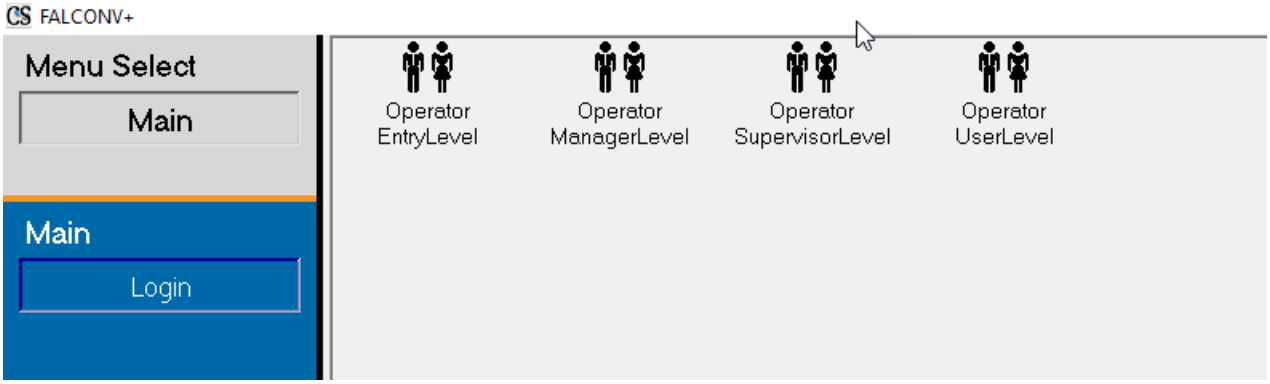


図 3-2 :　CertainScan メインログイン

3.2. CertainScan オペレータアカウント

CertainScan には 4 つのオペレータアカウントがデフォルトで用意されています。各オペレータアカウントでは、CertainScan の機能や設定に対する権限が異なり、「Entry Level」が最低レベル、「Manager Level」が最高レベルとなります。これらのデフォルトアカウントはパスワードを必要とせず、そのままの形式でスキャナを操作できます。しかし、セキュリティの観点から、OPEX はユーザーごとにパスワードで保護された固有のオペレータアカウントを作成し、各ユーザーに適切なオペレータレベルを設定した上で、デフォルトの 4 つのアカウントを削除することをお勧めします。

Entry Level（初心者レベル）：ジョブを実行するためのメインレベルのアクセスです。

User Level（ユーザーレベル）：ジョブの実行、バッチジョブの再開、ジョブの編集、バッチ番号のリセット、統計レポートの作成のためのメインレベルのアクセスです。

Supervisor Level（担当者レベル）：ユーティリティーへのアクセスと限られたシステム設定レベルのアクセスを含めた、初心者およびユーザーレベルのオペレータとしての全メインレベルのアクセスです。担当者は初心者、ユーザー、担当者のオペレータアカウントを作成できます。

Manager Level（管理者レベル）：管理者レベルのアカウントは、CertainScan レベル全てにアクセスできます。管理者は初心者、ユーザー、担当者、管理者のオペレータアカウントを作成できます。また、管理者レベルには、ジョブ設定へのアクセスも含まれます。

3.3. CertainScan にログインする

1. オペレータアカウントを選択します。
2. パスワードを入力します（図 3-3）。
3. **OK** を押します。

備考：デフォルトのオペレータアカウントが表示されず、ユーザアカウントを所有していない場合は、Falcon+ 管理者に問い合わせてください。

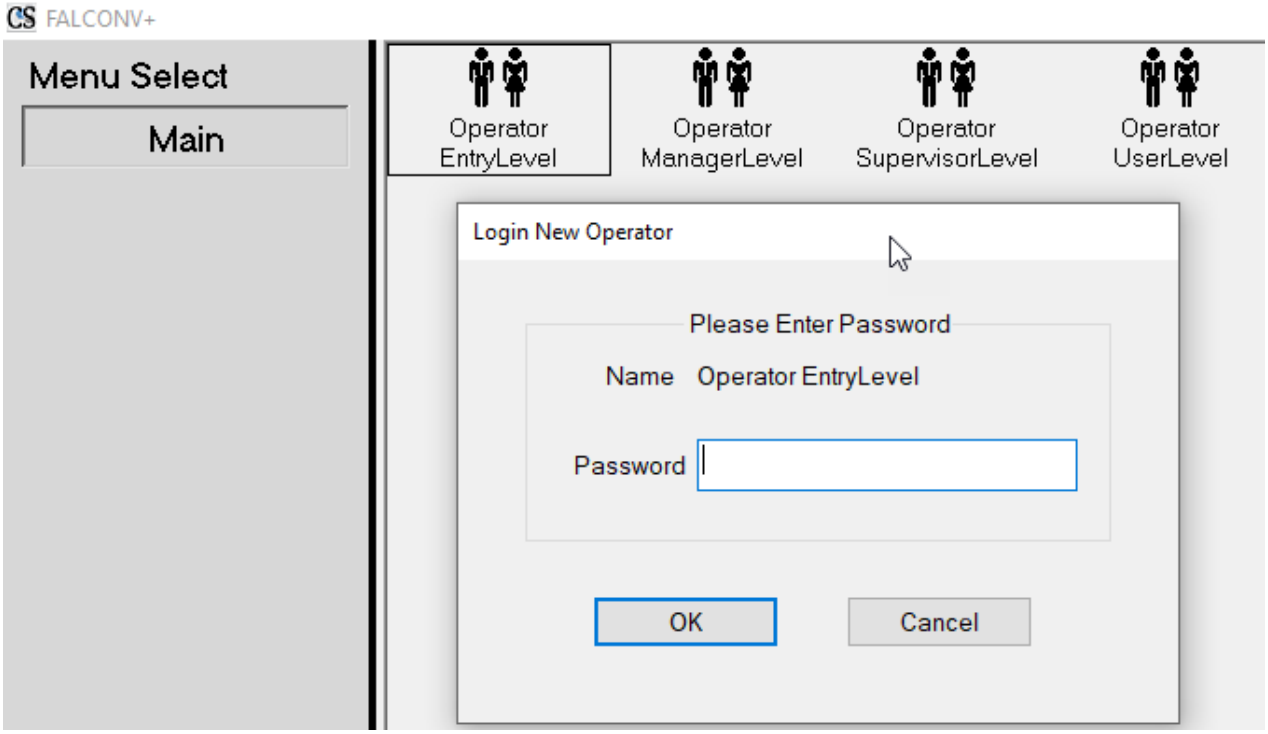


図 3-3： パスワードの入力

3.4. CertainScan メインインターフェイス

メインインターフェイス画面（図 3-4）は、下記の 4 つのセクションに分かれています。なお、管理者レベルのログインでは、すべてのメニュー選択カテゴリーと機能が表示されます。

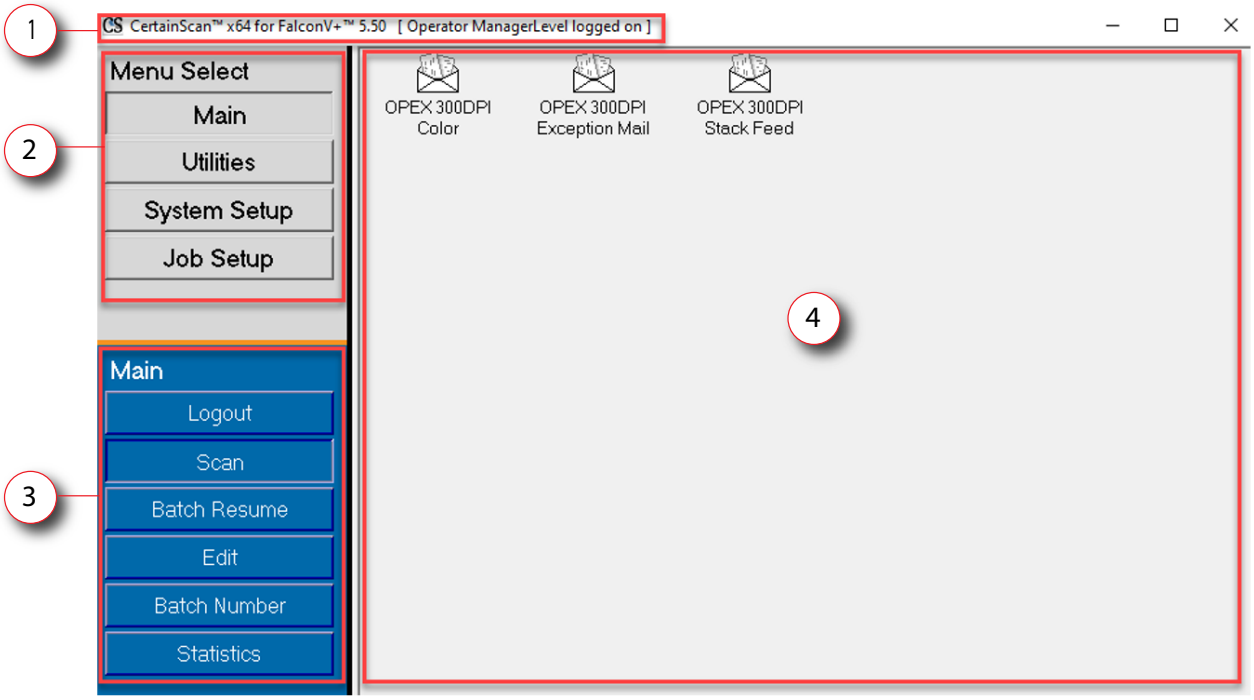


図 3-4： CertainScan メインインターフェイスのディスプレイ

1. **タイトルバー**：現在のオペレータの CertainScan のバージョンと名前が表示されます。
2. **メニュー選択**：オペレータのレベルに応じてカテゴリーを選択できます。メインカテゴリーはログアウトとスキャン機能を持つ全オペレータが利用できます。他のカテゴリーを選択すると、そのカテゴリーの機能が以下のセクションに表示されます。
3. **メニューで選択された機能**：メニュー選択カテゴリーで選択された機能が表示されます。
4. **メインディスプレイ**：「Displays Jobs to run（実行するジョブの表示）」は、ジョブを実行するときの実行画面で、CertainScan の機能を設定するときのディスプレイです。また、3 つのデフォルト OPEX ジョブが含まれています。
   - **OPEX 300DPI Color**：シングルフィード、表と裏のカラーキャプチャのためのジョブ
   - **OPEX 300DPI Exception Mail**：スタブや小切手などの入金処理ジョブ
   - **OPEX 300DPI Stack Feed**：スタックフィード、表と裏のカラーキャプチャのためのジョブ

3.5. ジョブを選択して CertainScan 実行画面を起動する

メイン画面のジョブをクリックして、実行画面を開きます。デフォルトの OPEX ジョブは 図 3-5 に表示されます。通常、カスタムジョブは設定時にここに表示されます。

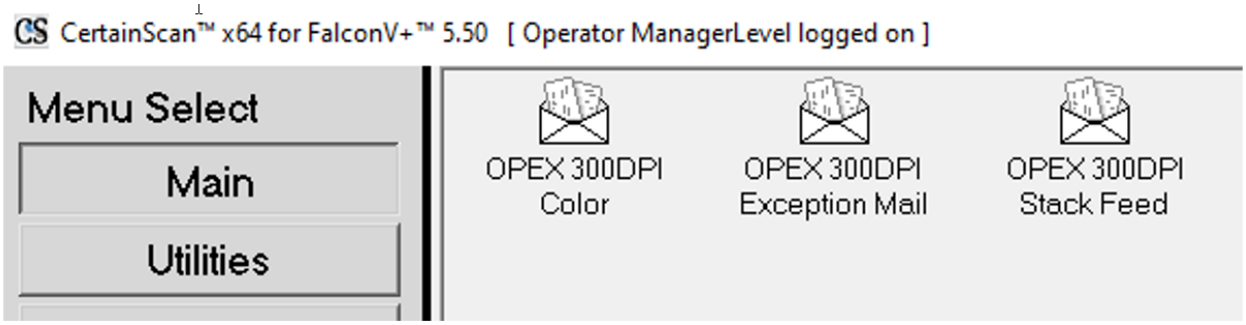


図 3-5 :　メイン画面

実行するために選択されたジョブに基づいて、実行画面か、ジョブタイプまたは処理日と受信日を選択する画面のどちらかが表示されます。

- 実行画面：ジョブのページタイプが表示されたら、**Go（開始）**ボタンをクリックしてスキャンを開始します。バッチデータの入力は不要です（図 3-6）。

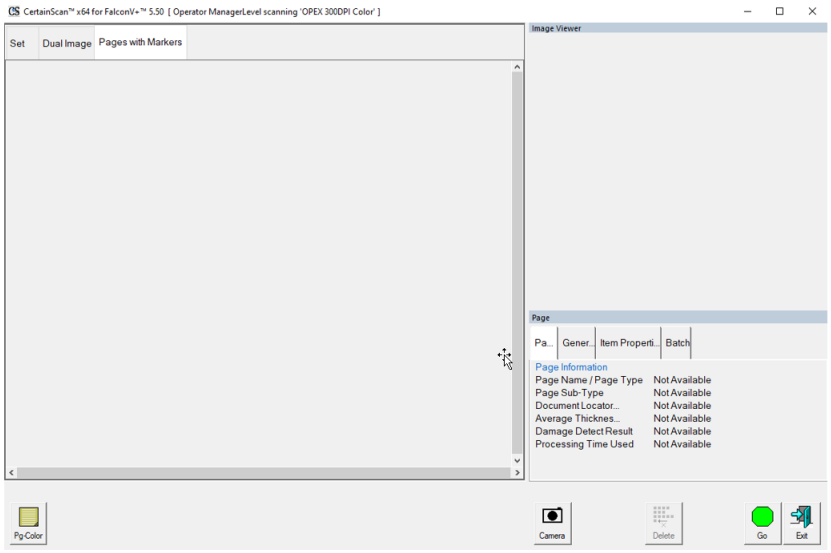


図 3-6 :　実行画面

- ジョブタイプ、処理日、受信日の変更を促すプロンプトが表示され、オペレータは、ジョブタイプや処理日の選択を求められます。選択した後、OK ボタンをクリックして続行します（図 3-7）。

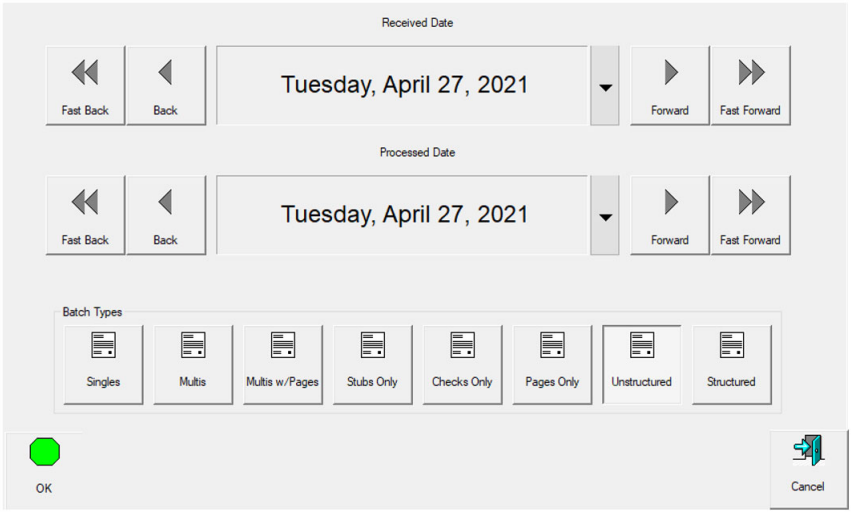


図 3-7 :　日付とバッチタイプの入力を促すプロンプト

- カスタムバッチ ID オペレータ入力 : オペレータはジョブに設定された選択肢を、手動で入力または選択するように求められます。入力または選択した後、**OK** ボタンをクリックして続行します。

  備考 : *バッチ ID をジョブ（図 3-8）で設定する際に、実行画面で* **Go（開始）** *をクリックするとこの画面が表示されます。*

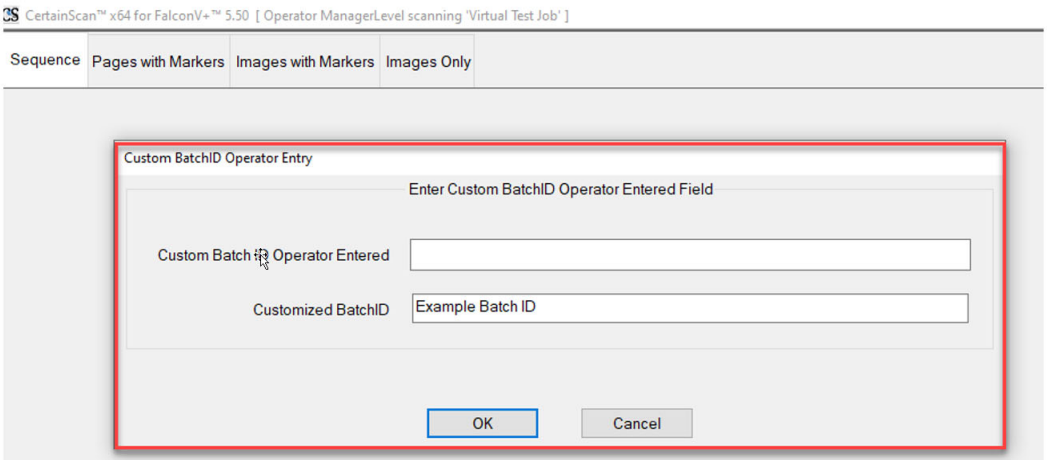


図 3-8 :　オペレータに入力を促すプロンプト

備考 : *ファイル名には次の文字や記号を使用できません。*
*" / \ [ ] : ; \| = , + * ? < >.*

3.6. ジョブ実行画面

新しいジョブを開くと、実行画面の下のページタイプと、スキャンを開始するための **Go**（**開始**）ボタンが表示されます。図 3-9 の例は、ジョブ実行中に実行画面がどのように表示されるかを示しています。

1. スキャンした文書のビューを表示します。選択項目のヘッダーを右クリックします。
2. バッチビューア：表示ビューに応じてスキャンされた文書のサムネイル画像です。
3. 選択したジョブに応じたページタイプです。
4. 画像を拡大表示します。選択したサムネイルを拡大または縮小します。
5. 回転およびフィルタボタンです。
6. 選択したサムネイルの拡大画像を別画面で表示するイメージビューアです（「実行画面プレビュー画像のアイコン」（36 ページ）も参照）。
7. スキャンしたジョブの情報ウィンドウ選択項目のヘッダーを右クリックします。
8. ジョブ操作ボタン

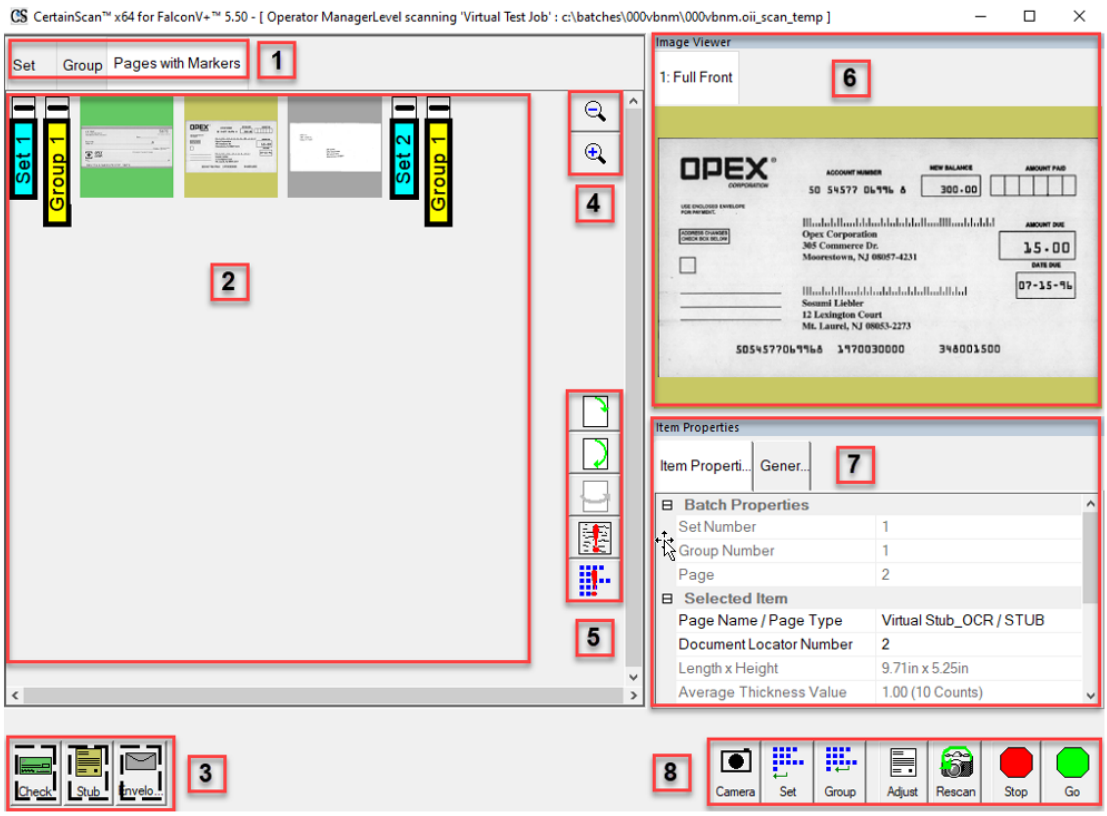


図 3-9 :　実行画面

3.6.1. 実行画面の各種ボタン

設定したジョブに応じて、実行画面にボタンが表示されます。一部のボタンは、有効化されていないと使用できません。

表 3-1: 実行画面の各種ボタン

	このボタンを押すと、スキャナが起動します。
	Page Type（ページタイプ）ボタンは、現在のジョブに割り当てるページタイプを指定します。ボタンの使用方法はジョブ設定によって異なります。
	Rotate（回転）は、選択した文書の画像を回転させます。3 個のボタンは、90 度時計回り、180 度時計回り、表裏反転にそれぞれ対応します。
	Filter（フィルタ）ボタンを押すと、CertainScan Edit の使用時に編集する必要がある文書のみを表示できます。
	サムネイル画面で空白画像を非表示にするには、このボタンを押します。
	Adjust（調整）は、Capture Parameters（読み込みパラメータ）ウィンドウから設定を変更し、画質を上げることができます。
	Rescan（再スキャン）ボタンは、以前にスキャンされた画像を新しい画像で置き換えます。
	Delete （削除）は、バッチから文書を削除します。これはスキャナが停止している時だけ使用できます。
	Void（無効）は、選択した文書やセットを無効にします。
	Set/Transaction （セット / トランザクション）を開始 / 終了します。
	Group （グループ）を開始 / 終了します。
	New Batch（新規バッチ）を開始します。
	Action（アクション）ボタンを押すと、Rescan（再スキャン）、New Batch（新規バッチ）、Void（無効化）の各ボタンにアクセスできます。Action（アクション）ボタンは、Rescan（再スキャン）、New Batch（新規バッチ）、Void（無効化）の各ボタンが 2 つ以上有効になっている場合にのみ使用できます。

表 3-1: 実行画面の各種ボタン （続き）

	Camera（カメラ）ボタンは、外部カメラで撮影した画像を、2 枚までバッチに挿入できます。
	Pause（一時停止）は、装置を一時停止します。このボタンを押すと、Resume（再開）ボタンが表示されます。
	Resume（再開）は、スキャンを再開します。このボタンを押すと、Pause（一時停止）ボタンが表示されます。
	Stop（停止）は、装置を停止します。現在のバッチまたはセットは終了されません。
	Close （閉じる）は、現在のバッチを閉じます。バッチを閉じる確認メッセージが表示されます。
	Exit（終了）は、現在のジョブを終了して実行画面を閉じます。

3.6.2. 実行画面プレビュー画像のアイコン

特定の条件下では、画像がすぐに入手できない場合、CertainScan はサムネイル画像の代わりに 表 3-2 に掲載されたアイコンの 1 つを表示することがあります（34 ページ も参照）。

備考：CertainScan または Edit でバッチを開くと、同じアイコンのサブセットが表示されます。表示の有無は、最後の列に記載されます。

表 3-2: 実行画面のサムネイルとプレビュー画像アイコン

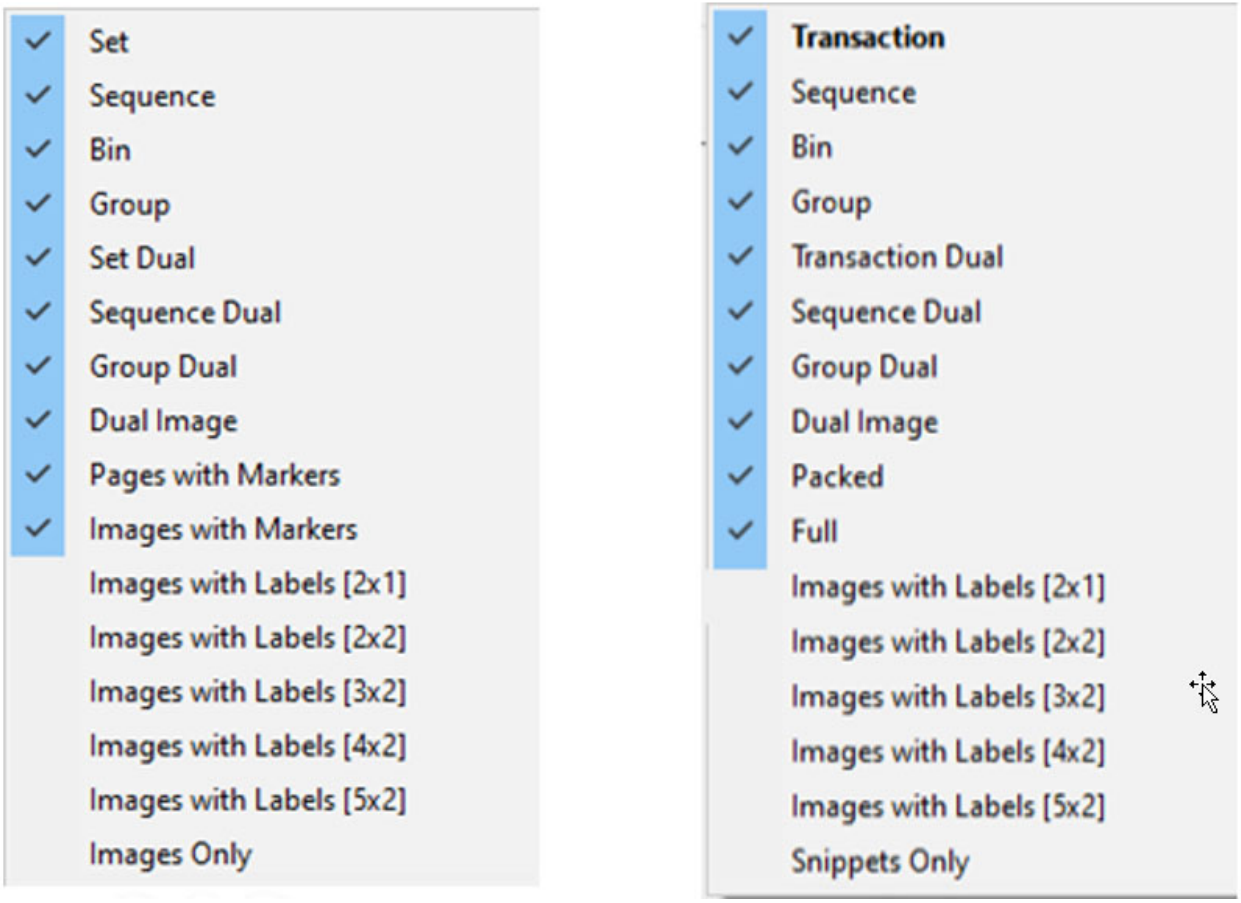
アイコン	説明	CertainScan Edit に表示されるか？
	空白画像 - バッチの画像データにより、画像が空白だと判断されました。	はい
	スニペット（小片画像）メタデータなし - 画像情報がバッチに保存されませんでした。これはページタイプから設定されました。	はい

表 3-2: 実行画面のサムネイルとプレビュー画像アイコン （続き）

アイコン	説明	CertainScan Edit に表示されるか？
	処理中 - 画像は準備中です。ほとんどの場合、スキャン作業中であるためです。	表示されません
	画像が保存されない - 画像にはメタデータはありますが、画像ファイルはありません。ページタイプが、この画像をディスクに保存しないように設定されています。	はい
	スニペット（小片画像）がスキャン可能範囲外 - この画像は、文書の一部であるという設定がなされています。ただし、バッチ出力の画像を引用したところ、指定された領域は文書端の完全な外側にあることが判明しました。このため、画像はディスクに保存されません。	はい
	画像が存在しない - ディスクからの画像の読み込みに失敗しました。要求はタイムアウトしていないので、保存先のディスクが停止しているか接続が切断されている可能性があります。	はい
	画像のタイムアウト - ディスクからの画像の読み込みを試みましたが、要求がタイムアウトになりました。ネットワークがビジー状態であるか、ホストが他の文書をディスクに書き込み中である可能性があります。	はい
	システムがビジー - 画像はキャッシュされていませんが、システムがビジー状態であるため、ディスクからの読み取りを実行できませんでした。システムがビジー状態でないときに実行されます。ホストソフトウェアがスキャン中か、スキャンした画像を書き込み中である可能性があります。	表示されません

3.7. 実行画面表示ビュー

スキャンを開始する前に、実行画面でのスキャンした文書の表示方法を選択できます。表示ビューのヘッダーのあたりを右クリックして、ヘッダーで表示する表示ビューのチェックを入れるか、またはチェックを外します。顧客タイプが「サービスデスク」と「入金処理」のどちらに設定されているかによって、文書仕分け用の 2 つのどちらかの表示ビュー名前付けスキームが表示されます（図 3-10）。



サービスデスク　　**入金処理**

図 3-10： 顧客タイプの説明的な名前

備考： *管理者レベルのアクセス権があるオペレータは、System Setup（システム設定）→ System（システム）→ User Interface Settings（UI 設定）から文書仕分けの説明的な名前の顧客タイプを設定できます。*

利用できる表示ビューは表 4 に掲載されています。各表示ビューのスクリーンキャプチャ例が提示されます。各ビューの横にあるリンクをクリックして、詳細を確認します（表 4）。

表 4: 実行画面表示ビュー

Set/Transaction （セット / トランザクション）表示（ 40 ページを参照）。	Group Dual （グループ二面）表示（44 ページを参照）。
Sequence （スキャン順）の表示（40 ページを参照）。	Dual Image（二面の画像）表示（44 ページを参照）。
Bin （仕分けトレイ順）の表示（41 ページを参照）。	Pages with Markers（マーカー付きページ）表示（45 ページを参照）。
Group（グループ）表示（41 ページを参照）。	Images with Markers（マーカー付き画像）表示（46 ページを参照）。
Set/Transaction Dual （セット / トランザクション毎の二面）表示（ 42 ページを参照）。	Images with Labels（ラベル付き画像）表示（47 ページを参照）。
Sequence Dual （スキャン順二面）表示（43 ページを参照）。	Images Only （画像のみ）表示（48 ページを参照）。

セットまたはトランザクション（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

スキャンされたすべてのページがスキャン順に左から右に一列に表示され、その後に次のセットが表示されます。1 ページごとに、サムネイルが 1 枚表示されます。サムネイル数が 6 枚以上になると、最初に表示されるサムネイルページの左側にスクロールボタンが表示されます（図 3-11）。

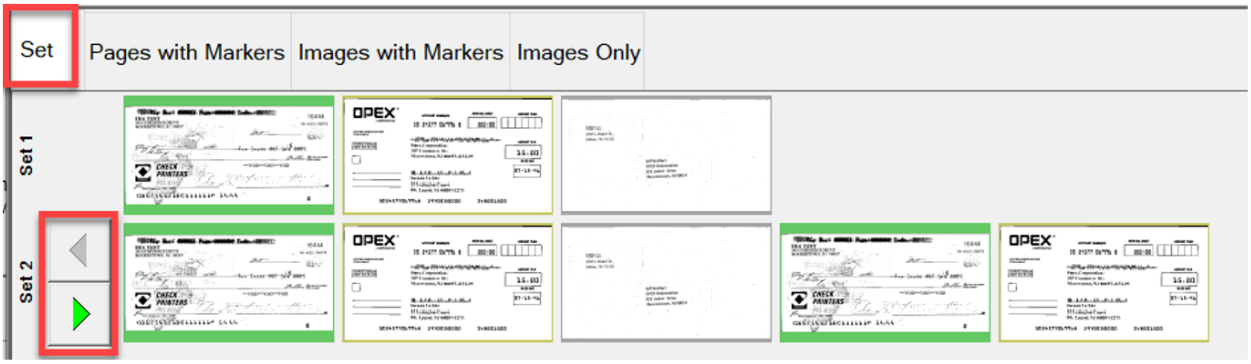


図 3-11： Set（セット毎）の表示

シーケンス

スキャンされたすべてのページがスキャン順に左から右に一列に表示され、行のヘッダーにはそれぞれのシーケンス番号が表示されます。新しい行は、5 番目のサムネイルの後に始まります（図 3-12）。

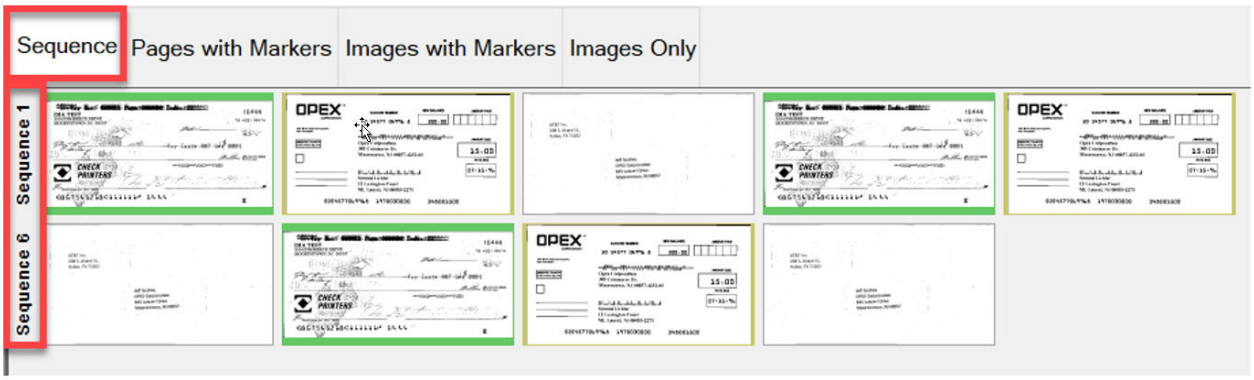


図 3-12： Sequence（スキャン順）の表示

トレイ

各ページは、「ジョブ」の「ページタイプ」に割り当てられた出力トレイに仕分けされます（図 3-13）。

図 3-13： Bin（仕分けトレイ）表示

グループ

スキャンされた全ページは、左から右へスキャン順に一列に表示され、グループが存在する場合はセット内に追加されます。グループ間をスクロールするためのスクロールボタンが左側に表示されます（図 3-14）。

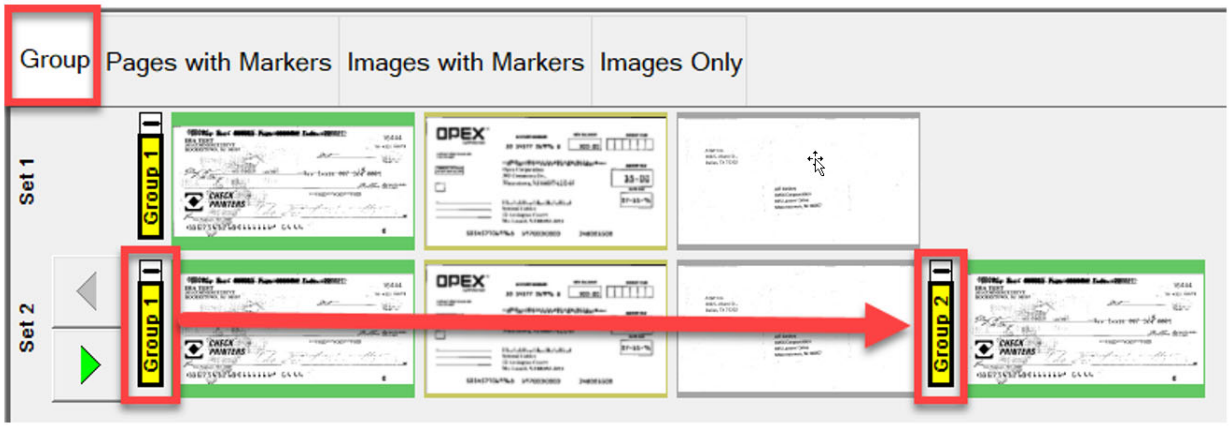


図 3-14： Group（グループ）表示

セットまたはトランザクション毎の二面（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

ページタイプが表面および裏面または 2 番目の画像に設定されている場合、表示ビューには 2 つのサムネイルが表示されます。最初の行には表面ページが表示され、その下には裏面ページや 2 番目の画像が表示されます。スキャンされた全ページは、スキャン順に左から右に表示され、行のヘッダーにはセット番号が表示されます。セット間をスクロールするためのスクロールボタンが右側に表示されます（図 3-15）。

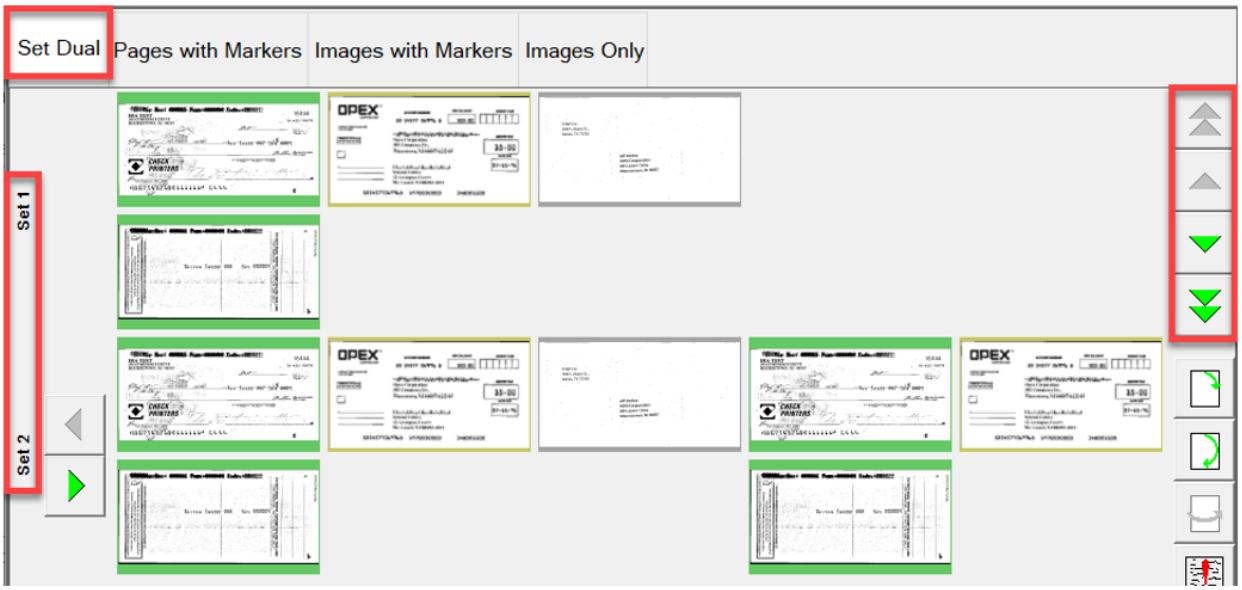


図 3-15 ： Set Dual/Transaction Dual
（セット / トランザクション毎の二面）表示

シーケンスデュアル

ページタイプが表面および裏面または 2 番目の画像に設定されている場合、表示ビューには 2 つのサムネイルが表示されます。最初の行には表面ページが表示され、その下には裏面ページや 2 番目の画像が表示されます。スキャンされた全ページは、スキャン順に左から右に表示され、行のヘッダーにはシーケンス番号が表示されます。新しい行は、5 枚目の画像を挟んで始まります。シーケンス番号間をスクロールするためのスクロールボタンが右側に表示されます（図 3-16）。

図 3-16 ： Sequence Dual（スキャン順の二面）表示

グループデュアル

ページタイプが表面および裏面または 2 番目の画像に設定されている場合、表示ビューには 2 つのサムネイルが表示されます。最初の行には表面ページが表示され、その下には裏面ページや 2 番目の画像が表示されます。スキャンされた全ページは、左から右へスキャン順に一列に表示され、グループが存在する場合はセット内に追加されます。セット内またはセット間でスクロールするためのスクロール機能が表示されます（図 3-17）。

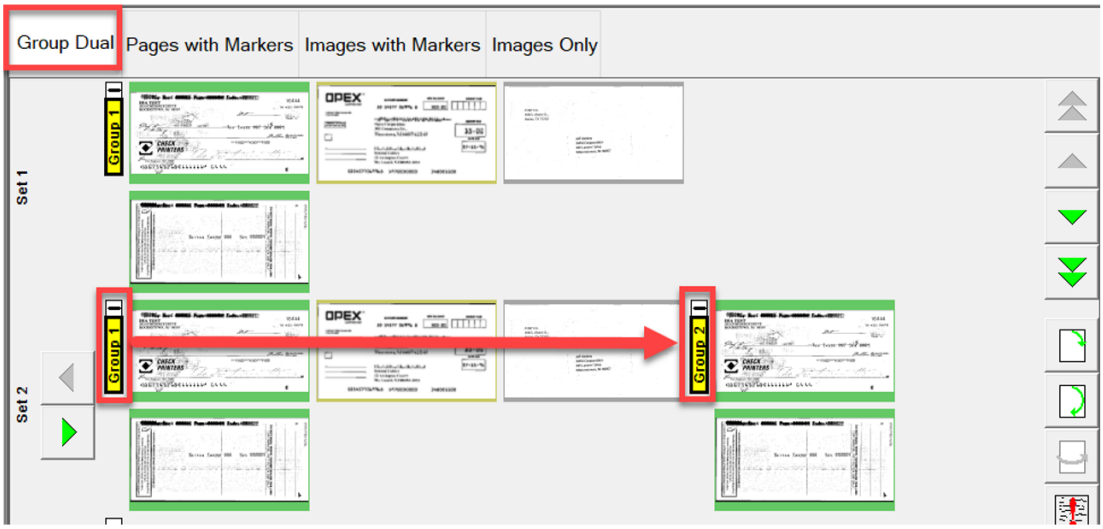


図 3-17 ： Group Dual（グループ二面）表示

デュアル画像

ジョブ設定あたりの選択された表面および裏面または 2 番目の画像を表示します。ページをスクロールするためのスクロール機能が表示されます（図 3-18）。

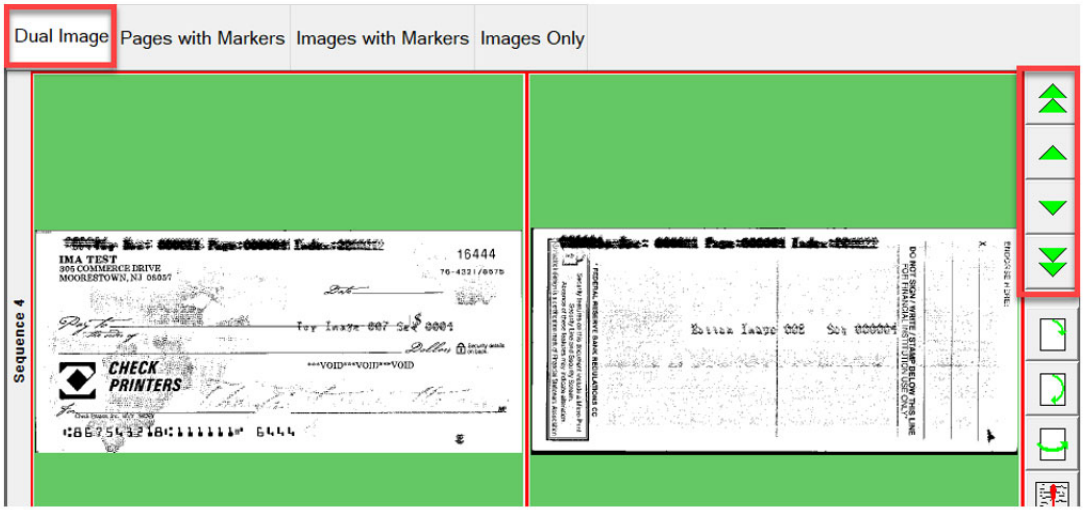


図 3-18 ： Dual Image（二枚の画像）表示

マーカー付き、または詰込み後のページ（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

スキャンされた全ページがスキャン順に左から右に一列に表示されます。連番が付けられたセットとグループのカラーマーカーにより、スキャンされた順番を識別します。マーカーの上にある「＋」と「－」のアイコンをクリックして、セットやグループを展開または折りたためます（図 3-19）。

- 例 1：セットとグループを展開すると、各マーカーの上に「－」のアイコンが表示されます。セット内のグループページが表示されます。
- 例 2：セットを折りたたむと、セットのマーカーの上に「＋」のアイコンが表示されます。グループとページは表示されません。
- 例 3：グループを折りたたむと、グループのマーカーの上に「＋」のアイコンが表示されます。ページは表示されません。

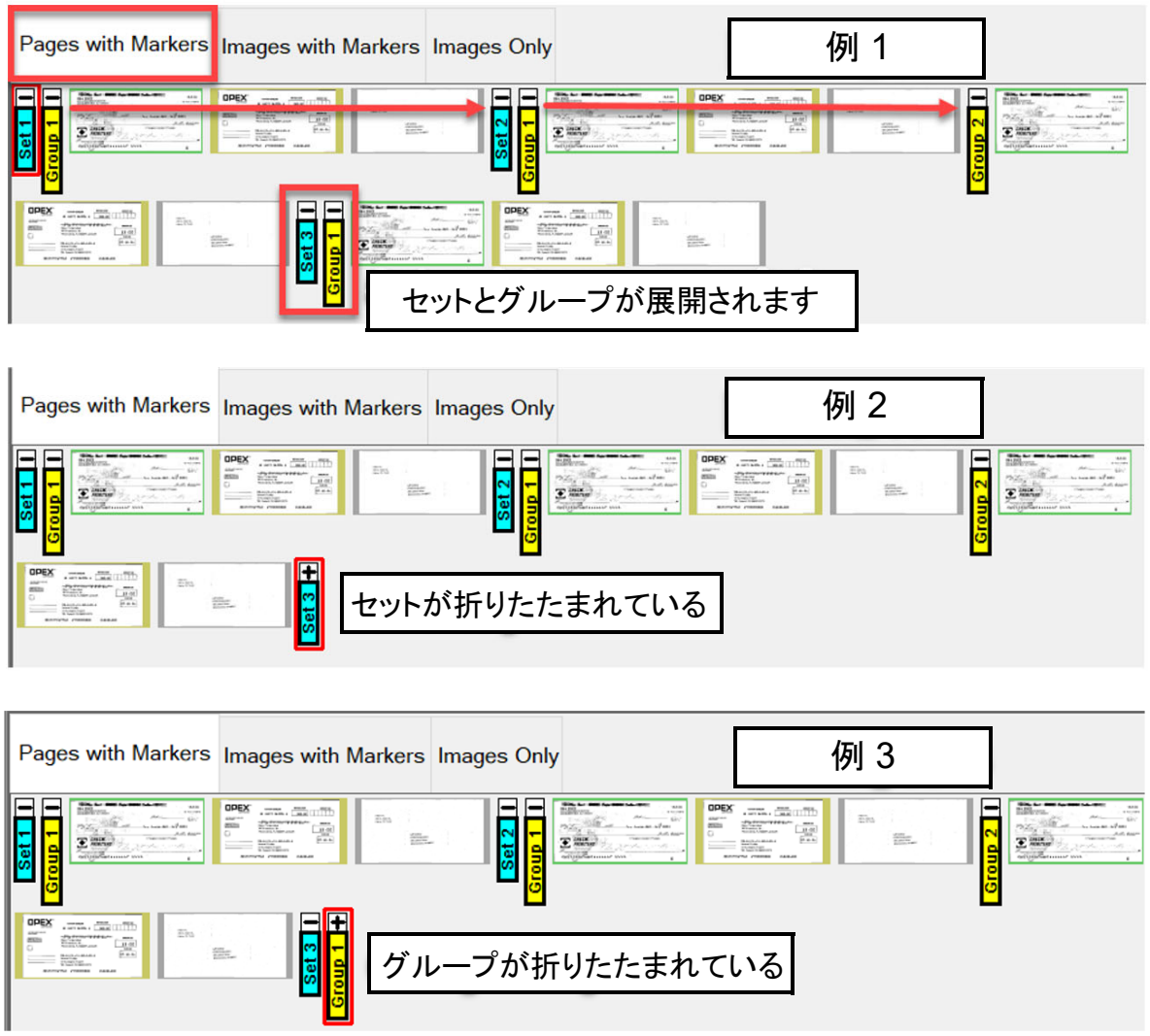


図 3-19： マーカー付き、または詰込み後のページの表示

マーカー付き画像、または全画像（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

全ページはスキャン順に縦に表示されます。連番が付けられたセット、グループ、ページのカラーマーカーにより、スキャンされた順番を識別します。マーカーの横にある「＋」と「－」のアイコンをクリックして、セット、グループ、ページを展開または折りたためます（図 3-20）。

- 例 1：展開されたセット、グループ、ページです。「－」アイコンはマーカーの左にあります。全て表示されています。
- 例 2：セットは折りたたまれ、「＋」アイコンはセットのマーカーの左に表示され、グループとページは表示されていません。
- 例 3：グループを折りたたむと、グループのマーカーの左に「＋」のアイコンが表示されます。ページは表示されません。ページを折りたたむと、ページのマーカーの左に「＋」のアイコンが表示されます。ページは表示されません。

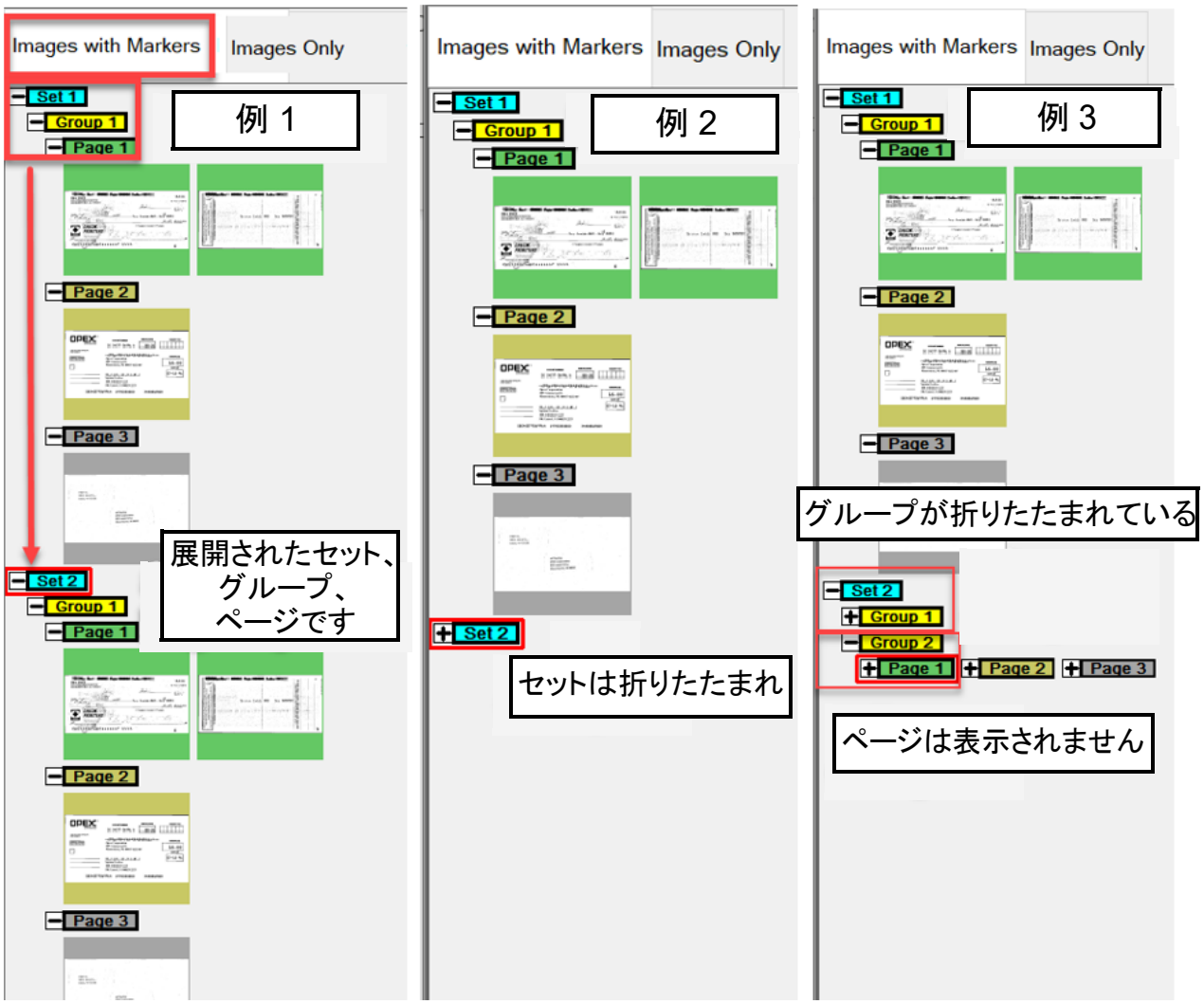


図 3-20： マーカー付き画像、または全画像表示

Images with Labels（ラベル付き画像）表示

これらの表示ビューは、ページを列や行ごとに並べて表示します。各ページの上には、下記を表示するヘッダーラベルがあります。ページ、グループ、セット、スキャンされたシーケンス番号（図 3-21）

- ラベル付き画像 [2 x 1]：ページが 2 列 1 行で配列されます
- ラベル付き画像 [2 x 2]：ページが 2 列 2 行で配列されます
- ラベル付き画像 [3 x 2]：ページが 3 列 2 行で配列されます
- ラベル付き画像 [4 x 2]：ページが 4 列 2 行で配列されます
- ラベル付き画像 [5 x 2]：ページが 5 列 2 行で配列されます

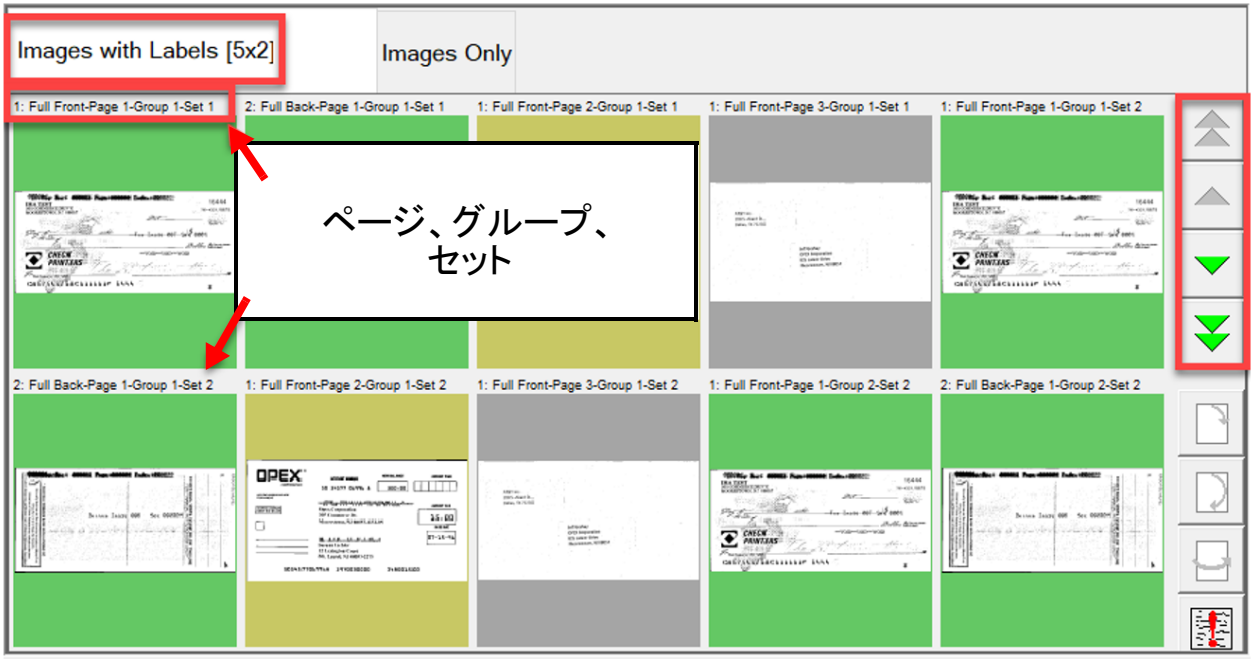


図 3-21： Images with Labels（ラベル付き画像）表示

画像のみ、またはスニペットのみ（顧客タイプが入金処理用に設定された場合）

全ページがスキャン順に左から右に一列に表示されます。セット、グループ、ページのカラーマーカーはありません。表示を見やすくするための拡大表示機能が搭載されています（図 3-22）。

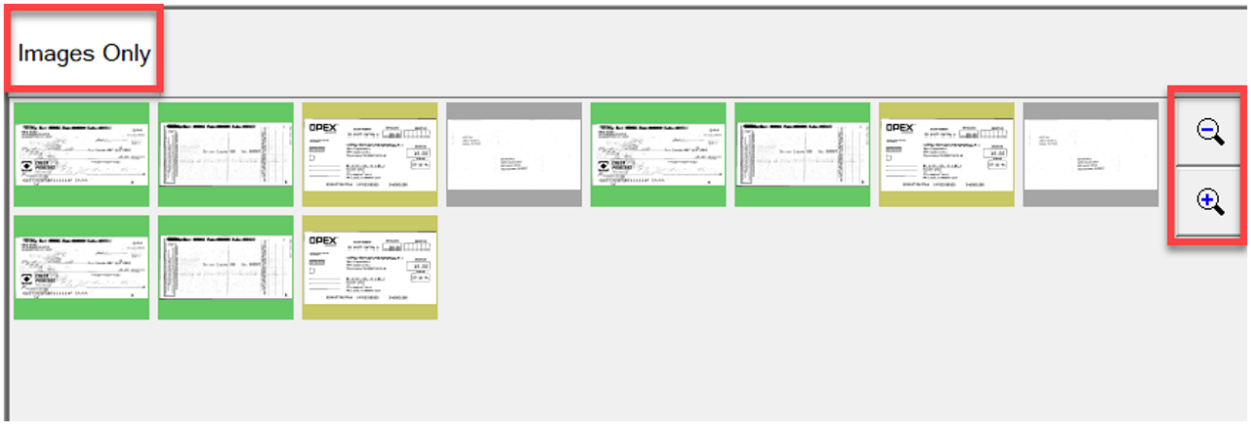


図 3-22： 画像のみ、またはスニペットのみの表示

3.8. 画像ビューア機能

画像ビューアで、モニター上の画像をクリックまたはタッチして、全表示画面を開きます。実行画面で選択した文書をさらに確認するための機能ツールが表示されます（図 3-23）。

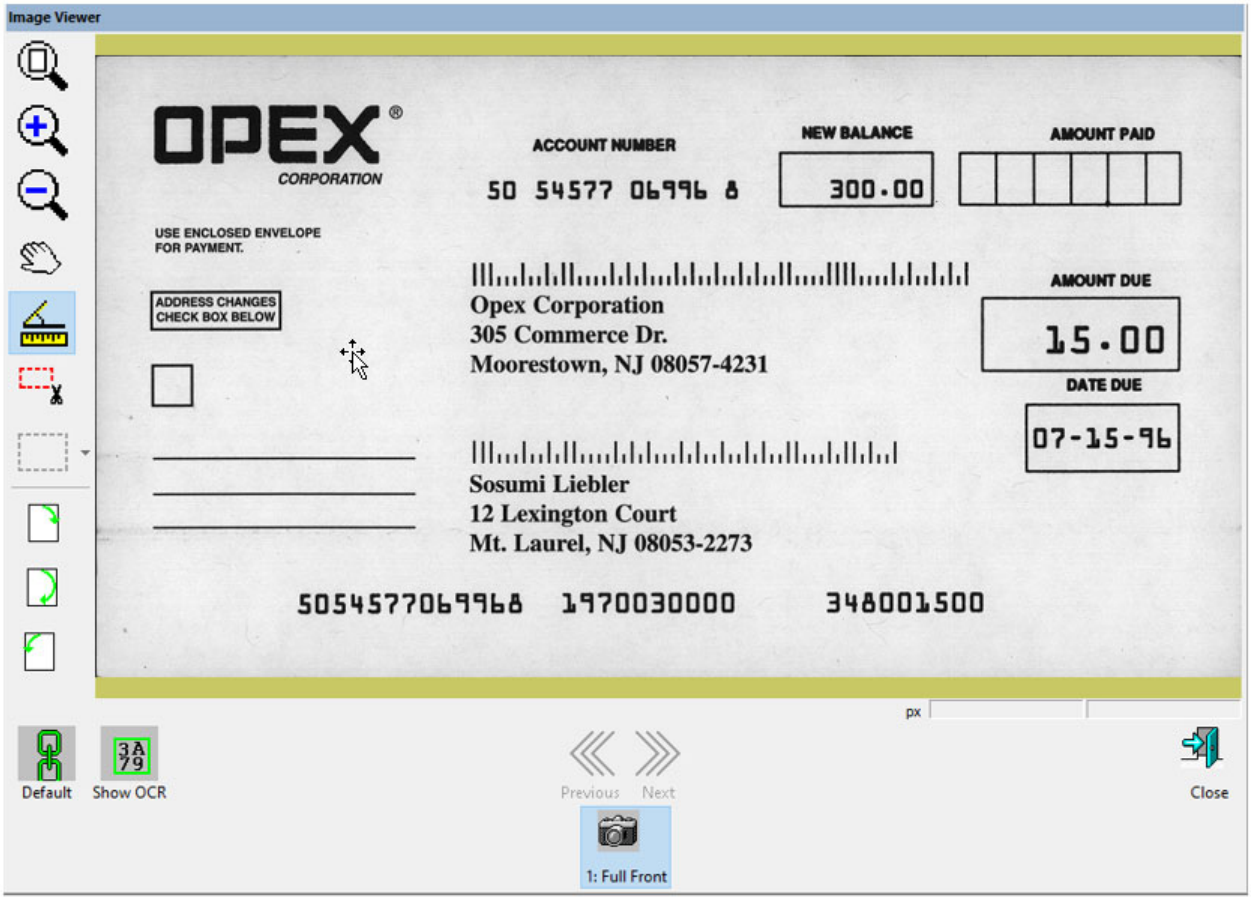
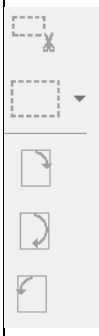
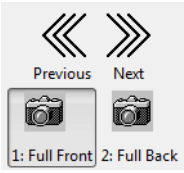


図 3-23： 画像ビューア - 全表示画面

表 3-1: 画像ビューアのツールバー

	リセットボタンを押すと、画像が元の状態に戻ります。
	Zoom In、Zoom Out（ズームイン、ズームアウト）ボタンは、Zoom（ズーム）画面で画像を拡大および縮小します。ズームの中心位置を調整するには、モニター上で中心にしたい位置をタッチするか、またはマウスを使用します。キーボードのプラス（+）キーやマイナス（-）キーを使用して拡大や縮小をすることもできます。

表 3-1: 画像ビューアのツールバー （続き）

	Ruler（定規）は、画像上の任意の位置から別の位置までの距離を表示します。定規ボタンをマウスでクリックし、任意の位置で左ボタンをクリックしたまま、カーソルを別の位置にドラッグします。カーソルを移動させると、正確な位置がフィールドに表示されます。
	トリミング、充填 / 編集、回転ボタン
	このボタンを有効にすると、OCR/MICR スキャンラインの指定された光学サーチ範囲が表示されます。
	このボタンをクリックすると、選択中の画像が現在のページタイプの Default（デフォルト）になります。
	Close（閉じる）ボタンをクリックすると、プレビューウィンドウが閉じます。
	Previous/Next（前へ / 次へ）矢印ボタンは、バッチ間をスクロールする時に使用します。ページタイプに関連付けられた画像を表示するには、Full Front、Full Back（表面全面表示、裏面全面表示）（または Partial Front/Partial Back（表面部分表示、裏面部分表示））ボタンを使用します。

3.9. 情報ウィンドウの選択

情報ウィンドウは実行画面の右下隅に表示されます。情報ウィンドウのヘッダーエリアを右クリックします。ヘッダーエリアの選択項目を表示するためチェックを入れるか、またはチェックを外します（図 3-24）。

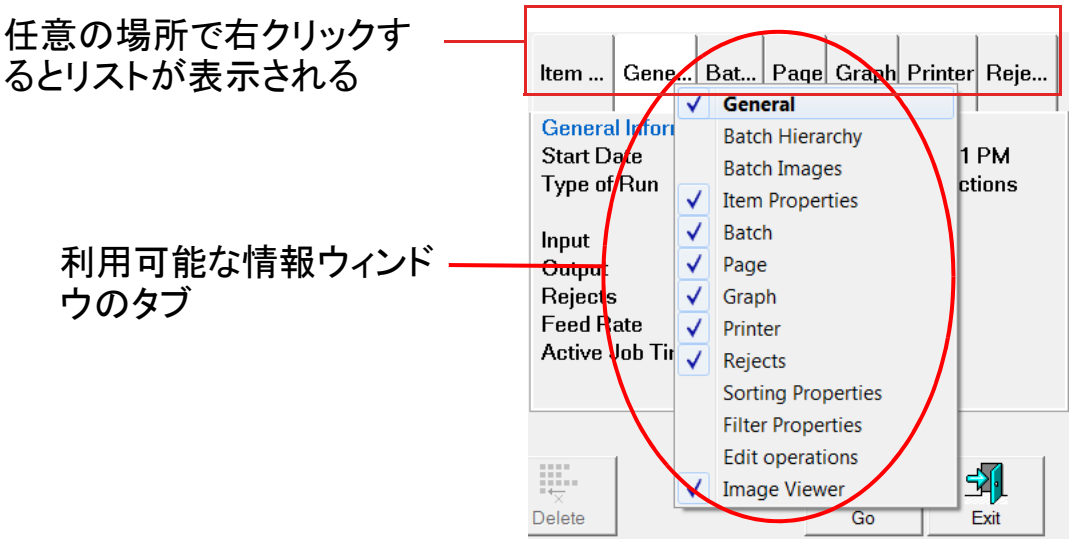


図 3-24： 情報ウィンドウのタブを選択する

選択した顧客タイプに応じて名前が表示されます（38 ページの図 3-10）。

情報ウィンドウでタブを選択すると、次の情報が表示されます。

- **アイテムのプロパティ**：ジョブとページの設定に応じて、選択したページまたはマーカーの情報が表示されます。ヘッダー名の横にある「＋」と「－」のアイコンをクリックして、情報ヘッダーを展開または折りたためます。このウィンドウは表示された一部のデータの編集にも使用できます。
- **バッチ階層**：次のバッチ構造を表示します：セット、グループ、ページのタイプヘッダー名の横にある「＋」と「－」のアイコンをクリックして、境界ヘッダーを展開または折りたためます。ビューにあるアイテムをクリックすると、イメージビューアのアイテム画像が表示されます。
- **バッチ画像**：バッチ内の全ページと画像を表示します。ページの上をクリックすると、実行画面でそのページに移動し、イメージビューアに表示されます。

- **全般**：ジョブ情報を表示します。ウィンドウ内を左クリックすると、追加情報が表示されます。
- **バッチ**：バッチ情報を提供します。ウィンドウ内を左クリックすると、追加情報が表示されます。
- **ページ / 用紙**：選択したページに関する情報を提供します。ウィンドウ内を左クリックすると、追加情報が表示されます。
- **インデックスデータ**：選択されたページに定義されたインデックスフィールドと、適用されたバッチ、セット、グループフィールドを提供します。このウィンドウは表示されたデータの編集にも使用できます。
- **グラフ**：1 時間あたりのページ数または 1 時間あたりのセット数などのパフォーマンスグラフを表示します。
- **プリンタ**：監査証跡プリンタのステータスを表示します。
- **スキャン中止**：スキャンジョブ中に発生する可能性のあるスキャン中止と、スキャン中止の回数を一覧表示します。
- **次のロケータ番号**：ジョブレベルで設定され Transform で使用されるロケータ番号を表示します。
- **バッチ検証エラー**：Transform と使用してバッチ検証を実行する時のエラーのリストを表示します。エラーが修正されたら、ボックスにチェックを入れます。
- **プロパティの並べ替え**：Display view（表示ビュー）> Images Only（画像のみ）/ Remittance（入金処理）、Display view（表示ビュー）> Snippets Only（スニペットのみ）スキャンした画像をもとに、実行画面に表示される画像を分類します。
- **フィルタープロパティ**：フィルタープロパティは、あらゆる種類の表示ビューで使用できます。しかし、表示ビュータイプの場合は、フィルターの種類が限定されます。フィルタータイプとドロップダウンをクリックすると、選択可能な項目が表示されます。各フィルタータイプでは、「このパラメータを無視する」がデフォルトになっています。フィルターが定義されると、真上にある Apply Filter (フィルターの適用) ボタンがアクティブになり、適用できるようになります。適用すると、表示ビュータブにも Filtered (フィルター処理済み) が表示されます。
- **編集操作**：バッチを編集する際、すべての編集操作（挿入、削除、回転など）は、バッチエディターのライブラリによって追跡され、最後から最初の順に表示されます。編集操作は元に戻すことができます。編集操作を元に戻す場合、各操作をクリックして、「Ctrl」と「Z」を同時に押します。元に戻された操作は、編集リストから削除されます。編集したバッチを保

存すると、編集操作のリストは消去されます。次のバッチからは、新しい編集操作リストが始まります。

- **イメージビューア**：右上に画像を表示したくない時は、チェックを外します。情報ウィンドウは、実行画面の横にだけ表示されるようになります。
- **スロットル**：スキャン中に減速モードに切り替わると減速タブ内に通知が表示され、減速モードが有効であることがバッチ内で保留中の文書数と合わせて確認できます。デフォルトでは、この設定は有効になっていません。管理者のログインにより有効になります。System Setup（システム設定）→ System（システム）→ User Interface Settings（UI 設定）

3.9.1. Additional Information Windows （他の情報）ウィンドウ

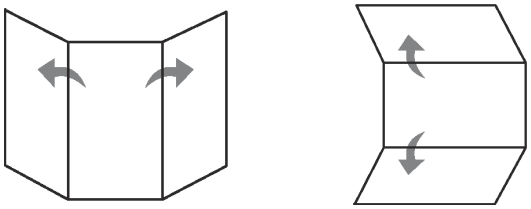
ジョブの設定方法に応じて、下記の追加情報タブを使用できます。

- **Job Information（ジョブ情報）**：ジョブの処理方法に関するオペレータへの指示が表示されます。
- **Multi-Assist（マルチアシスト）**：タブは、オプションのマルチスロット ID Assist タワーを使用するようにジョブが設定されている場合に表示されます。ジョブにプログラミングされているスロット、スワイプ方法、アクションについての情報を表示します。
- **Reference IDs（参照 ID）**：ジョブに設定されている参照 ID を表示します。タブ内の値は、後続の文書に付与される参照 ID を表示します。また、バッチの記録方法も示します。バッチの参照 ID はバッチを閉じるまで確定されないため、それまでは参照 ID をいつでも変更できます。ただし、ページの参照 ID は、対象文書を再スキャンすると変更されます。
- **ScanLink**：このパネルは、実行中のジョブの ScanLink プラグインによって制御されます。プラグインが定義されていない場合は表示されません。
- **WholesaleWorks 0（ロックボックス対応の支払いシステム）**：このパネルは、ジョブの ScanLink プラグインによって制御されます。プラグインが要求すると表示されます。パネルのラベル付けもプラグインによって行われます。
- **WholesaleWorks 1（ロックボックス対応の支払いシステム）**：このパネルは、ジョブの ScanLink プラグインによって制御されます。プラグインが要求すると表示されます。パネルのラベル付けもプラグインによって行われます。

3.10. 文書の作成

ワークフローを最適化し、給紙エラーや画像不良などの問題を回避するためには、適切な文書の準備とスキャナへの設置が重要です。次の情報を参考にしてください。

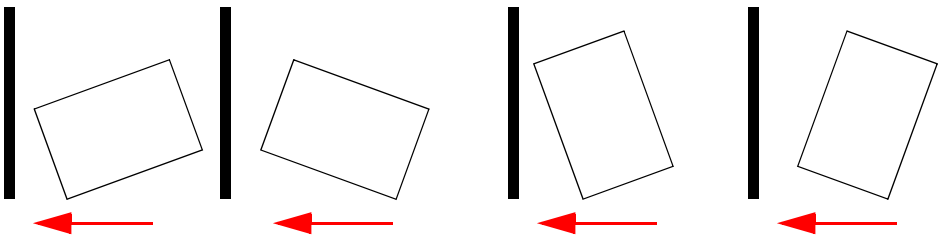
Removing items from an envelope (封筒から文書を取り出す)



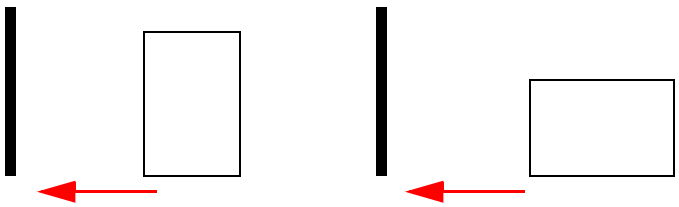
三つ折りにされていた文書は、上端と下端が浮き上がりがちです。三つ折りにされていた文書を配置する前に、特に先端部分を意識して端が平らになるようにのばします。

文書をコンベアに置く際は、フィーダーに入れる前に文書の端がサイドレールと密着するようにしてください。コンベアローラーは、コンベア上を流れる文書の端をサイドレールに揃えて置くように、角度を付けてあります。コンベア上に文書を置く際は、コンベアローラーに文書を揃える時間を与えるために、十分に手前の位置に置いてください。フィーダー部に入る文書の端が揃っていないと、文書の傾きによりジャムが発生する場合があります。また、各文書の間には十分な間隔を開ける必要もあります。画像を適切にキャプチャするには、文書間に少なくとも 1.3 センチ（1/2 インチ）の間隔を開けてください。

例：文書をコンベア上に置く際は、文書の端を揃えるための十分な時間が必要です。太い線はフィーダーの投入口を表します。赤い矢印は文書のパス方向を表します。



WRONG - 文書がフィーダーに近すぎて、揃えることができません



RIGHT - 文書は、揃えるためコンベアのサイドレールに近いところでフィーダーから離れたところに置きます。

3.10.1. Skew（傾き）

傾きとは、給紙時に文書が整列していない状態を指します。通常、文書が傾いているとスキャン画像が正確に認識されません。

文書の傾きは、文書がスキャナに入る角度によって決まります（図 3-25）。傾きの角度は LED の送信部と受信部のセットを用いて計算され、センサーの 1 つが遮蔽されていない状態がしばらく続くと、傾きとして検出されます。傾きの角度が 2 度を超える場合は、「傾き角度が大きすぎる」ためシステムは停止します。5 度以上の傾きで停止した場合は、OPEX の管理者に連絡してください。

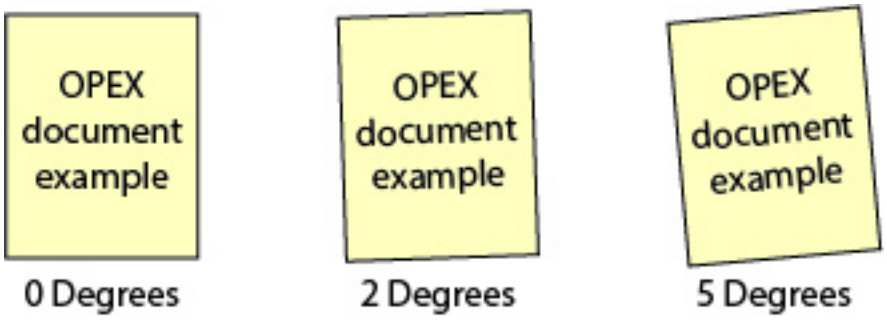


図 3-25： 傾きの例

3.10.2. 文書をスキャンする

- 表面を上に向けて文書を送ります。
- レターサイズ 8-½ x 11 インチの文書は、縦向きと横向きのどちらでもスキャンできます。
- 小切手やスタブは、作業者が読むのと同じ方向で置きます。ページの幅や高さが独自のものである場合は他の横長ページも自動的に検出されます。

付箋のついた 1 枚のページなどの、2 つ以上のアイテムをスキャンするには、最初に **`MFD Override`**（MFD 無効化）ボタンを押します。これによりスキャナの超音波マルチフィード検出器が無効になり、エラー状態にならずに文書がスキャナを通過できます。

3.11. ジョブの実行と文書のスキャン

1. CertainScan にログインして、スキャンする文書に応じて実行するジョブを選択します。
2. 実行画面で **Go (開始)** ボタンを押します。コンベアローラーが回り始めます。
3. コンベア上に、最初の文書を 図 3-26 のように置きます。文書がスキャナを通過すると、実行画面にサムネイル画像が表示され、画像ビューアウィンドウには文書の拡大画像が表示されます。

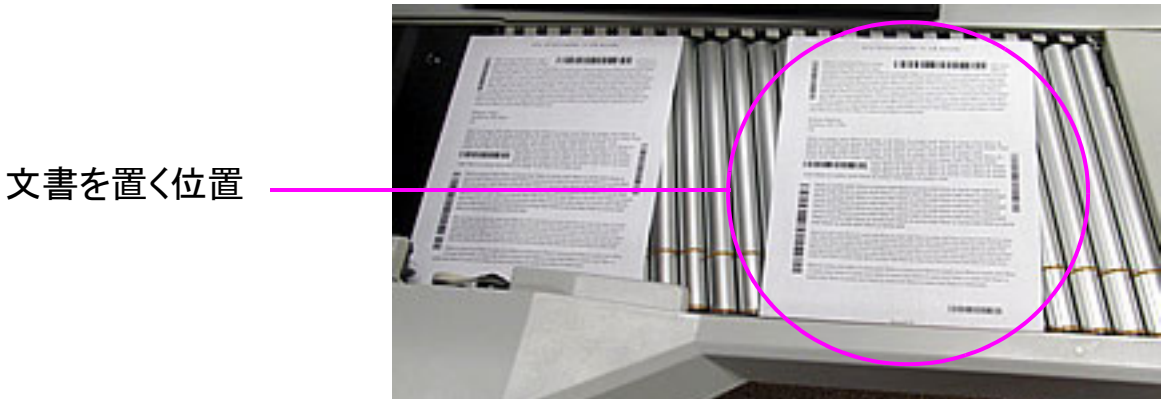


図 3-26 : 最適な配置位置

4. 文書を続けてコンベアに置いていきます。スキャナは、設定したジョブパラメータに応じて文書をスキャンし、分類します。

3.11.1. Stack Feeding (文書積み重ねフィード)

コンベア上には約 2.7 センチまで積み重ねた文書を配置できます。コンベアローラーは積み重ねた文書をフィーダーまで運び、文書束の一番上の文書から一枚ずつスキャナに送ります。フィーダーは文書束の上から取り込み、最後のページが供給されるまで続けます。

文書束を送り終えると、コンベアは束全体の給紙を停止します。停止したら、追加の文書束をコンベアに配置できます。フィーダーは文書束の上から文書を取り込むため、文書束のリードシートが最初にフィーダーに到達することになります。文書束の最後のページがフィーダーに最初に到達すると、給紙エラーが発生します。

備考 : コンベアの動作は、以下の Feed Mode（送りモード）設定により異なります。Normal（通常）、Stack（文書束）、Passive（手動フィード）文書束を送る際は、Stack（文書束）モードまたは Normal（通常）モードを選んでください。高さセンサーは Stack（文書束）モードで有効になります。

3.12. オペレータアカウントの管理

担当者または管理者レベルのアクセス権があるオペレータは、追加、削除、変更等の機能で他のオペレータのアカウントを管理できます（図 3-27 参照）。

***備考**：担当者が作成できるアカウントは、初心者、ユーザー、担当者のオペレータアカウントだけです。*

ジョブへのグループ別アクセスを設定するためにグループを追加できます。オペレータが実行できるジョブは、アクセス権が割り当てられたグループに基づいて制限される場合があります。

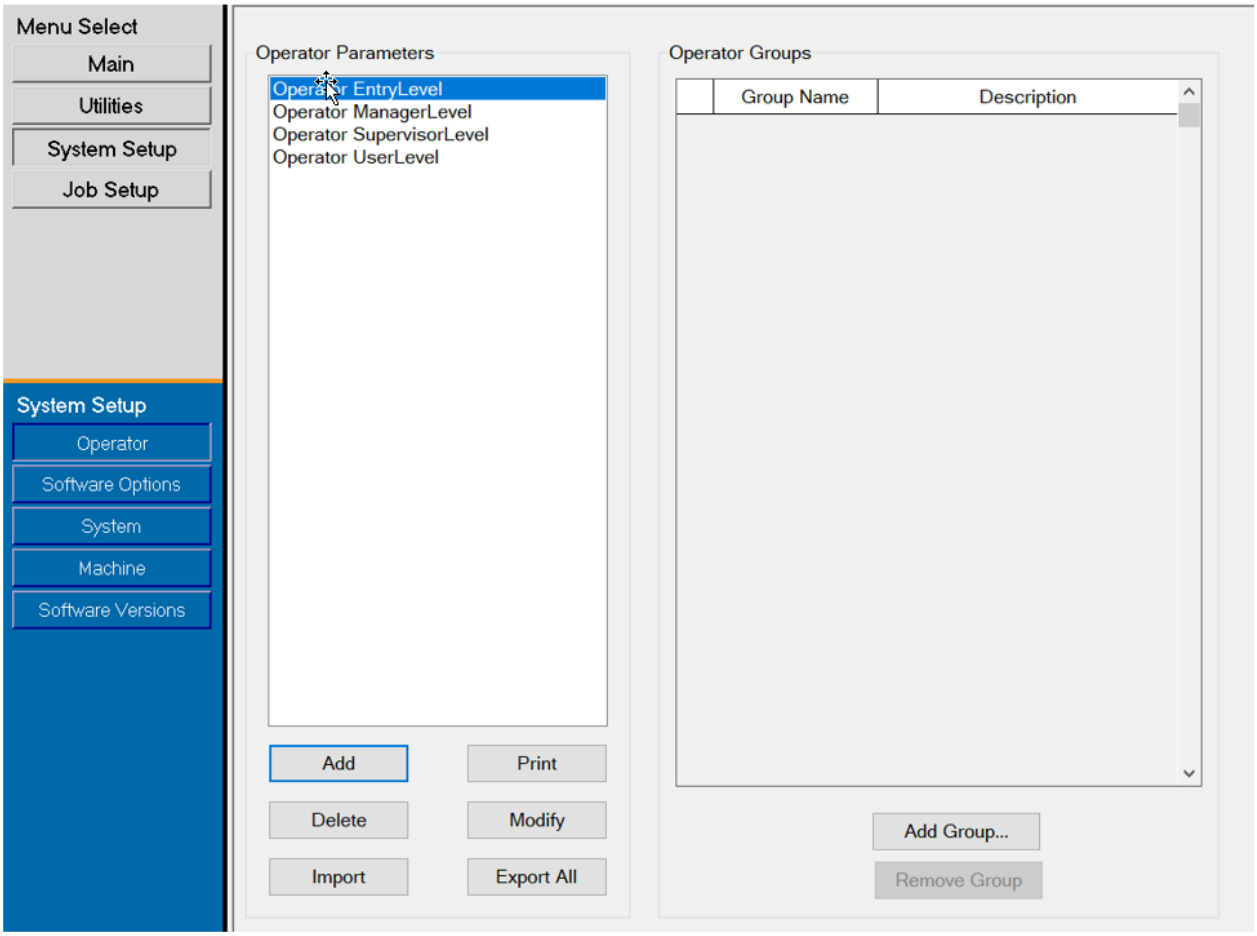


図 3-27： オペレータアカウントの管理

- **Add（追加）**：グループが追加・設定されている場合は「New Display（新規表示）」をクリックして、オペレータ名、アクセスレベル、シフト、パスワード、言語を入力しグループに割り当てます。

- **Delete（削除）**：削除する単数または複数のオペレータを選択します。
- **Import（インポート）**：保存したオペレータファイル（.SCAN）のインポート先を参照します。
- **Print（印刷）**：オペレータリストを印刷するために、単数または複数のオペレータを選択します。
- **Modify（変更）**：現在の設定を変更するオペレータを選択します。
- **Export All（すべてエクスポート）**：場所を参照して、ファイル名と保存したオペレータファイル（.SCAN）を入力します。
- **Add Group（グループの追加）**：これは、ジョブへのグループ別アクセスの参照用です。グループ名を入力します。説明フィールドは、グループに関する追加情報を入力するためのフリーテキスト欄です。
- **Remove Group（グループの削除）**：削除するグループを選択します。これで、グループは確認なしで削除されます。

3.12.1. 新規オペレータの追加

ポップアップウィンドウ（図 3-28）から **Add**（**追加**）をクリックして、新規オペレータ情報を入力します。グループを利用できる場合は、オペレータグループのメンバーシップを提供するグループを選択します。**Save**（**保存**）をクリックして新規オペレータを保存するか、**Cancel**（**取消**）をクリックして保存しないで終了します。

既存の OPEX デフォルトとして、「Modify（変更）」を選択できます。

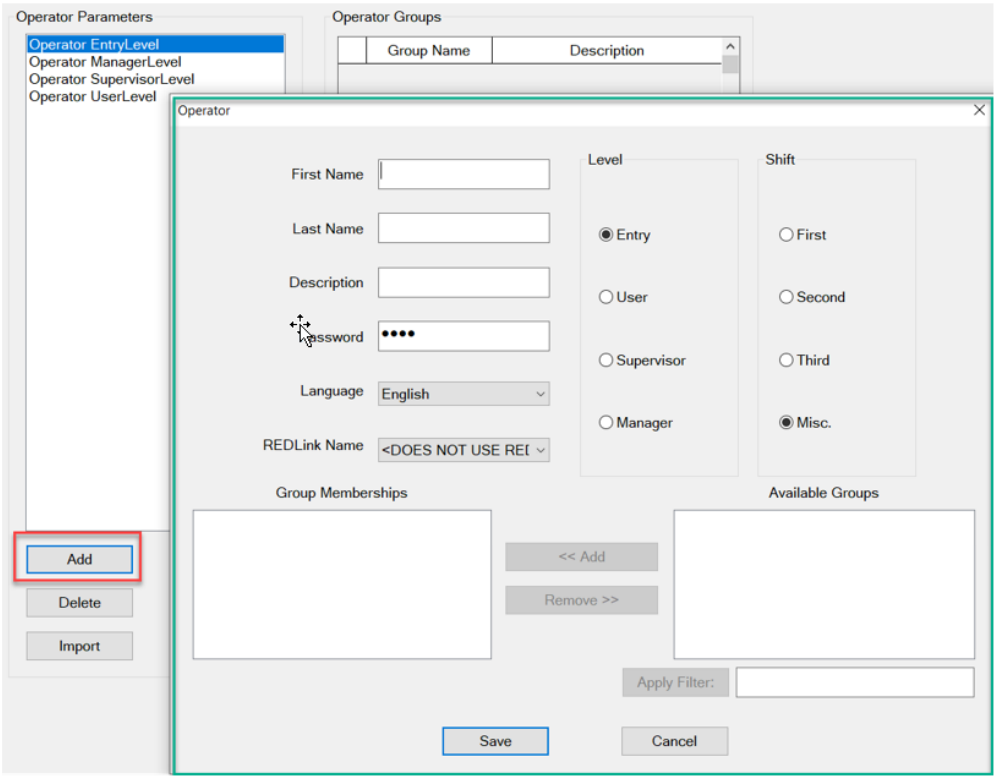


図 3-28： オペレータの追加

備考：必要なオペレータを設定した後は、OPEX のデフォルトオペレータを全て削除してください。

3.12.2. ジョブへのグループ別アクセス

この機能により、オペレータのグループ化、フォルダでのジョブ管理、ジョブを含むフォルダへのグループアクセスが可能になります。この機能を使用する場合、ジョブへのアクセスは、グループに割り当てられたオペレータに限定されます。全ジョブにアクセスする必要がある管理者や担当者などのオペレータは、すべてのジョブを含むフォルダへのアクセス権を持つグループに設定する必要があります。設定には、管理者によるログインが必要です。

3.12.2.1. 権限ファイルを設定する

備考：権限ファイルは最初に設定する必要がありますが、設定は 1 度だけです。

1. フォルダパスを定義して、「Permissions.txt」という名前でファイルを作成して保存します。
   - **System Setup（システム設定）> System（システム）> General Settings（基本設定）> Folder Permissions Configuration File（フォルダ権限設定ファイル）** (図 3-29)の順に移動します。
2. ナビゲーションパスのアイコンをクリックしてフォルダに移動し、用意されたテキストボックスに手動で入力して「Permission.txt」というファイルを作成した後、挿入します。
3. **Open**（開く）をクリックして「Permissions.txt」ファイルを保存します。
4. **設定したパラメータの横にある Apply（適用）**ボタンをクリックして、保存します。
5. **Operator Management（オペレータ管理）**パラメータ が **Legacy（レガシー）**に設定されているか確認します。
6. CertainScan を再起動します。

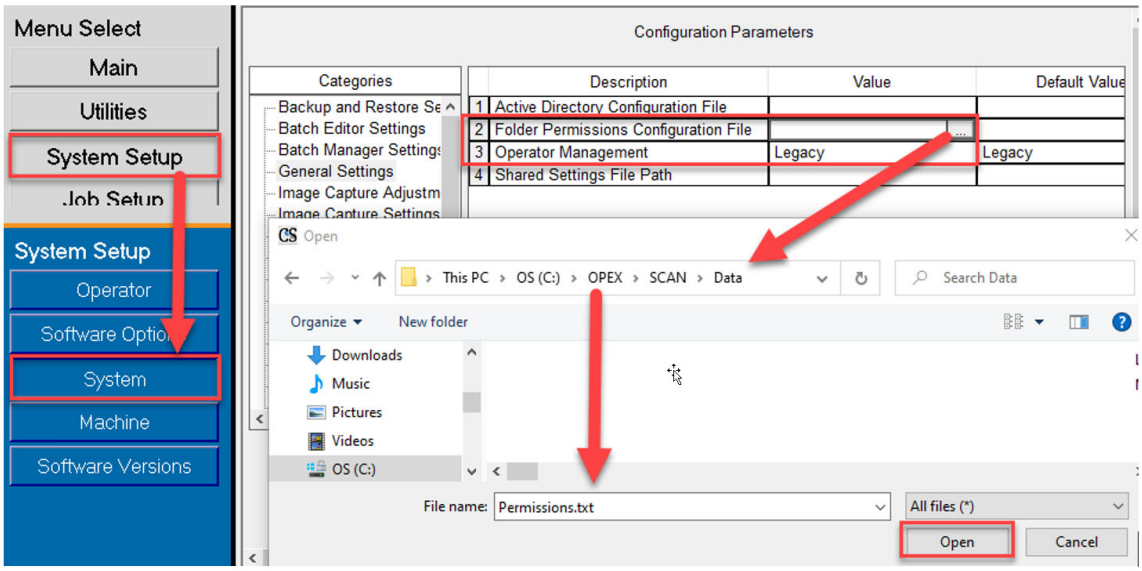


図 3-29： 権限ファイルの作成

3.12.2.2. グループ メンバーシップでのグループの追加とオペレータの変更

System Setup（システム設定）から Operator（オペレータ）に移動して、`Add Group`（グループの追加）をクリックして新しいグループ名を入力し、`OK` をクリックします。OK をクリックすると、新しいグループ名が **Description（説明）**フィールドと一緒に表示されます。Description（説明）フィールドボックスをクリックして、補足情報を入力します（図 3-30）。

例：

- グループ名 = First Shift
- 説明 = 銀行顧客のジョブ

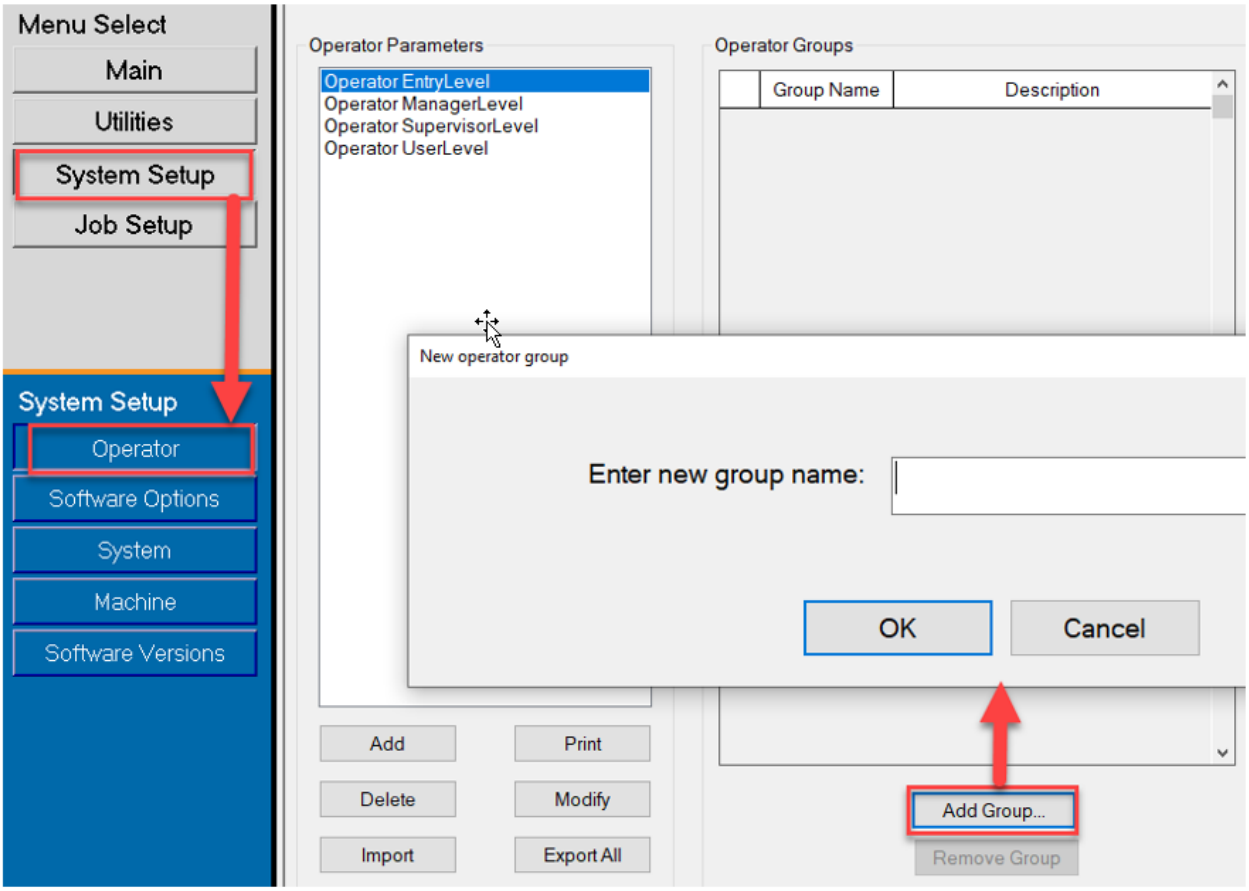


図 3-30： グループの追加

オペレータグループを追加した後、オペレータを選択して **Modify**（**変更**）ボタンをクリックします。オペレータのディスプレイから **Available Groups**（**選択可能なグループ**）を選択して、**Add**（**追加**）ボタンをクリックします。完了したら、**Save**（**保存**）をクリックします（図 3-31）。

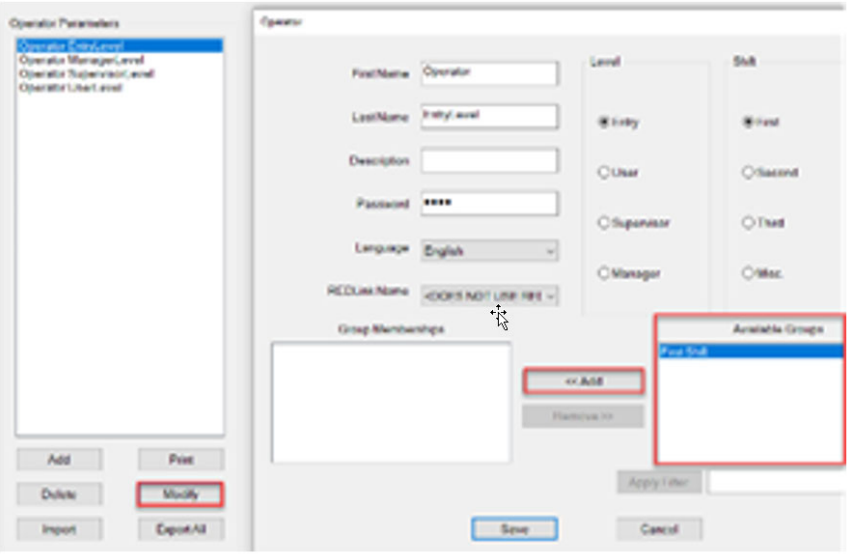


図 3-31： グループへのオペレータの追加

3.12.2.3. フォルダへのジョブの追加とグループアクセスの追加

Job Setup（ジョブ設定）から Folder（フォルダ）に移動して、フォルダ名をクリックしてから **Insert（挿入）**ボタンをクリックして グループにアクセス権を割り当てるフォルダにジョブを配置します。または新規フォルダを追加して、ジョブを挿入します（図 3-32）。

次に **Available Group(s)（選択可能なグループ）**を選択して **Add（追加）**ボタンをクリックし、選択したファルダに含まれるジョブにグループアクセスを配置します。

完了したら、CertainScan を再起動してグループ機能別にジョブアクセスを適用します。

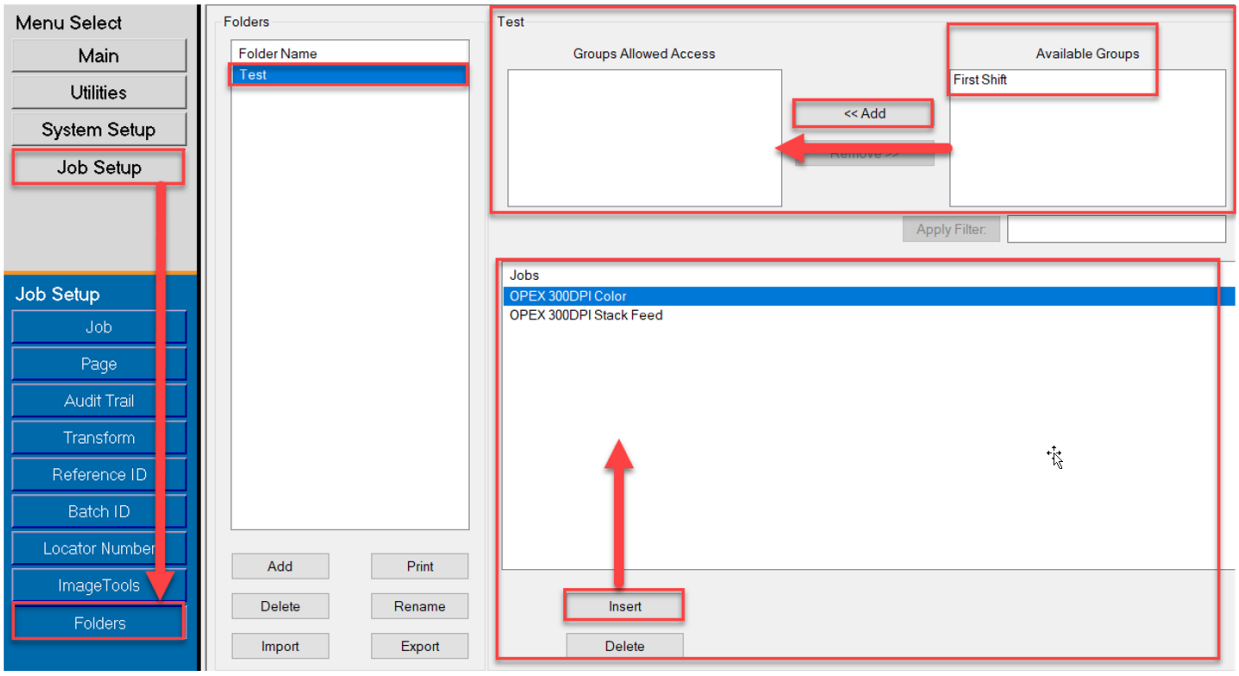


図 3-32： フォルダへのジョブの追加

（このページは意図的に白紙にしています）

4. ジョブの実行

4.1. 概要 67
4.2. ルール化されたジョブとルール化されていないジョブ 67
4.3. ページタイプの割り当て 68
4.4. ページタイプのロック 69
4.5. ページサブタイプ 70
4.6. 画質の調整 71
4.6.1. 読み込みパラメータの調整画面のボタン 71
4.7. 文書の再スキャン 74
4.8. バッチから文書を削除する 75
4.9. 新しいバッチを開始する 76
4.10. 文書とセット/トランザクションの無効化 77
4.11. スキャン中のバッチの編集 80
4.12. 複数バッチの中断と再開 81
4.12.1. CertainScan に搭載されているバッチエディタ 82
4.12.2. バッチを閉じる 83
4.13. 再スキャンフィーダー 84
4.13.1. スキャナの一時停止と再スキャンフィーダーの使用 84
4.13.2. スキャン中止時の再スキャンフィーダーの使用 85
4.14. マルチフィード検出（MFD） 87
4.14.1. スキャン中の MFD 無効化 87
4.14.2. スキャナの一時停止と MFD の無効化 88
4.14.3. スキャン中止時の MFD フィーダー経路の使用 88
4.15. ID Assist 89
4.15.1. ID Assist を使用する 89

4.16. マルチスロット ID Assist 91
4.17. Key Assist 93
4.18. 紙詰まりを解消する 94
4.19. トレイから文書を取り出す 96

4.1. 概要

CertainScan ソフトウェアは、様々なスキャン環境に対応しています。オペレータによる操作は、設定されたジョブやページタイプによって異なります。本章では、ジョブのタイプ、オペレータによるページタイプの操作、CertainScan の使用法について説明します。

4.2. ルール化されたジョブとルール化されていないジョブ

ルール化されていると設定されたジョブでは、オペレータはページタイプを順番にスキャンする必要があります。たとえば、ルール化されたジョブでは、CertainScan はオペレータに最初にバッチチケットをスキャンし、次いでスタブ、小切手や文書、そして最後にセットの終わりを示す封筒の順にスキャンすることを求めます。ページタイプが順番にスキャンされない場合、CertainScan はオペレータに警告を発します。

ルール化されていないと設定されたジョブでは、どのような順序でもページタイプをスキャンできます。唯一の制約事項として、境界（ほとんどの場合は封筒）をスキャンする必要があります。境界は、現在のセットが完了したことをシステムに伝え、次のセットを開始させます。

4.3. ページタイプの割り当て

ジョブでの設定時に適切な Page Type（ページタイプ）ボタンを押すことで、次の文書に手動でページタイプを割り当てます (図 4-1)。

図 4-1 :　ページタイプボタンの例

ルール化されたジョブの場合、ページタイプの各ボタンは、次に来ると想定される文書のページタイプを通知します。たとえば、セットを開始する際にバッチチケットまたはスタブが来ると想定される場合は、対応するページタイプボタンが色で表示されます (図 4-2)。

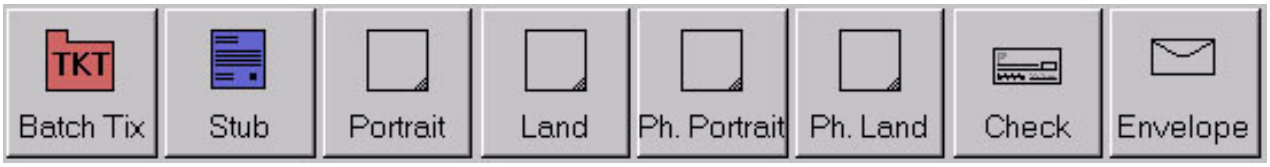


図 4-2 :　ページタイプボタンの例（ルール化されたジョブの場合）

4.4. ページタイプのロック

ジョブでの設定時に、複数の文書にページタイプを適用します。**Page Type**（**ページタイプ**）ボタンを 2 回押して、ページタイプボタンを押したままロックします。ページタイプをロックすると、セット / トランザクションが終了するか、またはロックが解除されるまで、スキャンされた以降の文書はすべて同じページタイプとして分類されます。ページタイプボタンが赤枠で囲われている場合は、ロックがかかっていることを示します（図 4-3）。

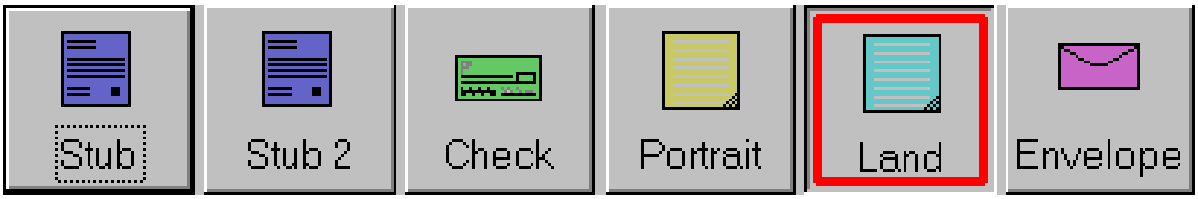


図 4-3 :　ロックされたページタイプ

***備考**：この機能は仮想ページタイプでは使用できません。仮想ページタイプは、スキャンされず、保存された画像から挿入される文書です。仮想ページタイプは、ボタンの周りに破線で表示され、ボタンをクリックすると挿入されます（図 4-4）。*

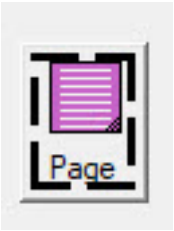


図 4-4 :　仮想ページタイプの例

4.5. ページサブタイプ

ページサブタイプはページタイプ内で設定されます。ジョブの 1 つ以上のページタイプにサブタイプが含まれている場合、スキャンの前にサブタイプの文書を割り当てる必要があります。

ページのサブタイプの割り当て方法：

1. ジョブを実行時に、ページサブタイプで設定されたページタイプボタンを押します。
2. ポップアップディスプレイから、関連するページサブタイプを選択します（図 4-5）。
3. ページサブタイプの文書のスキャンを続けます。

図 4-5： ページサブタイプ

4.6. 画質の調整

実行画面の **Adjust**（**調整**）ボタンをクリックして、全画像またはひとつの画像のガンマ、輝度、色の除去を変更します（図 4-6）。

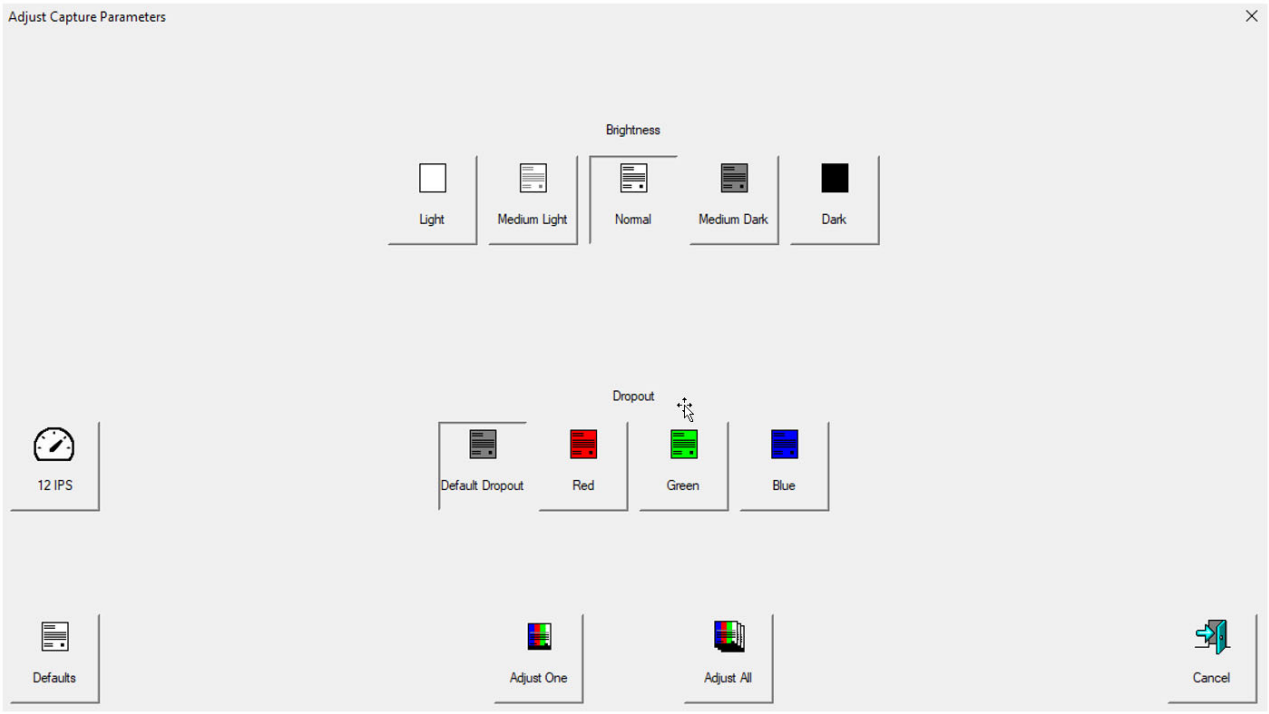


図 4-6 :　読み込みパラメータの調整

4.6.1. 読み込みパラメータの調整画面のボタン

表 4-1: Adjust Capture Parameters（読み込みパラメータの調整）画面のボタン

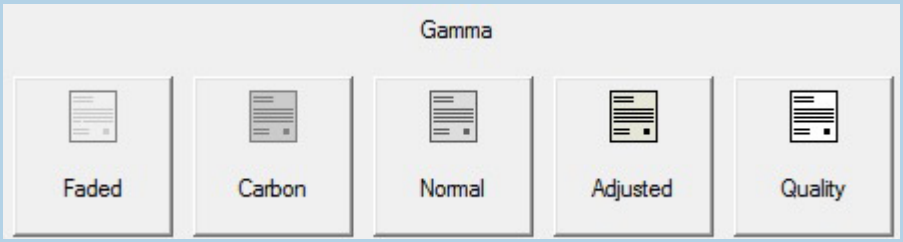
Gamma（ガンマ）	 有効にすると、Gamma（ガンマ）ボタンで画像の明部と暗部のバランスを調整できます。

表 4-1: Adjust Capture Parameters（読み込みパラメータの調整）画面のボタン （続き）

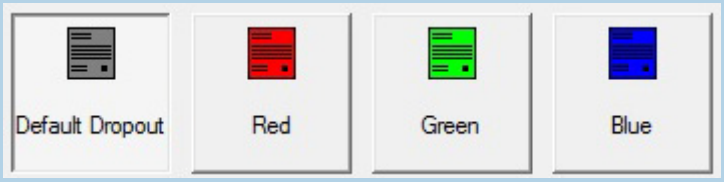
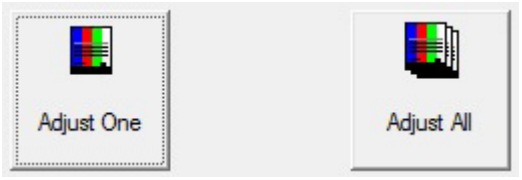
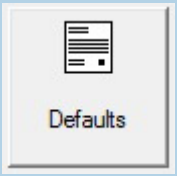
Brightness（輝度）	 文書画像の輝度を **Light（明るい）**から **Dark（暗い）**の間で調整できます。輝度はボタンを押して調整します。デフォルトは、**Normal（通常）**です。
Dropout（色の除去）	 特定の色（**Red（赤）**、**Green（緑）**、**Blue（青）**）を文書画像から除去します。 ***備考**：色の除去は、設定された出力ファイルタイプがバイトーンまたはグレースケールに設定されているページタイプでのみ機能します。*
Adjust All/ Adjust One（全文書 / 単一文書の調整）	 現在のジョブ内で画質の変更を全文書に適用するには、**Adjust All（全文書の調整）**ボタンを押します。後続のスキャンされた文書にのみ適用する場合は、Adjust One（単一文書の調整）ボタンを押します。 ***備考**：これらのボタンは、代替トラック速度や代替 DPI モードには影響しません。*

表 4-1: Adjust Capture Parameters（読み込みパラメータの調整）画面のボタン （続き）

Alternate Track Speed mode（代替トラック速度モード）	このボタンで、代替トラック速度モードへの切り替えが可能です。トラック速度を下げてスキャンする必要がある時や、内容が複雑な文書に役立ちます（長い処理時間が必要となる文書など）。ボタンを押すたびに有効 / 無効が切り替わります。ボタンが選択されている状態では、代替トラック速度モードが有効になります。代替モードが不要になったら、ボタンの選択を解除して通常のトラック速度モードに戻す必要があります。
Alternate DPI Mode（代替 DPI モード）	このボタンで、代替画像解像度モードへの切り替えが可能です。24 ips で 600 DPI の解像度が必要とされる文書のスキャンに使用します。**600 DPI** ボタンをクリックすると、自動的に 24 ips まで速度が低下し、選択を解除するまでその速度を維持します。ボタンは押すたびに有効 / 無効が切り替わります。ボタンが選択されている状態では、代替 DPI モードが有効です。代替モードが不要になったら、ボタンの選択を解除して通常の DPI モードに戻す必要があります。
初期設定	 キャプチャパラメータをデフォルトに戻します。

4.7. 文書の再スキャン

ジョブで設定すると、CertainScan でジョブの実行中に画像を再スキャンできます。実行画面の Action（アクション）ボタンをクリックすると、Rescan（再スキャン）ボタンが表示されます（図 4-7）。

1. 文書のサムネイルを選択します。
2. 仕分けトレイから文書を取り出します。
3. バッチ内の文書を置換するには、実行画面の **Rescan（再スキャン）**ボタンを押します。
4. スキャンする文書をコンベアに置きます。

備考：*初めてスキャンされたときに検査履歴が印刷された場合、***Rescan NP（NP を再スキャン）***（印刷不要）を押してバッチ内の文書を置き換えます。これにより、追加の検査履歴が印刷されることはありません。*

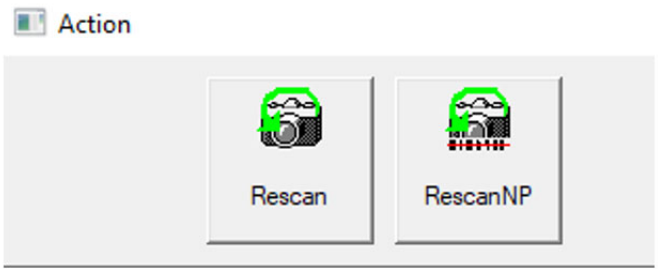


図 4-7： Rescan Action （再スキャン実行）ボタン

4.8. バッチから文書を削除する

ジョブでの設定時に、バッチから文書を削除します。

スキャナが停止した場合、2 つの Delete（削除）ボタンのオプションがあります。

- **Delete Last Item（最後の文書を削除）**- CertainScan は最後にスキャンされた文書をバッチから削除します。
- **Delete to End（最後まで削除）**- 文書を選択し、選択した文書とその文書の後にスキャンされたすべての文書を削除します。

Delete to End（最後まで削除）ボタンを押すと、削除の確認ウィンドウ（図 4-8）が表示されます。

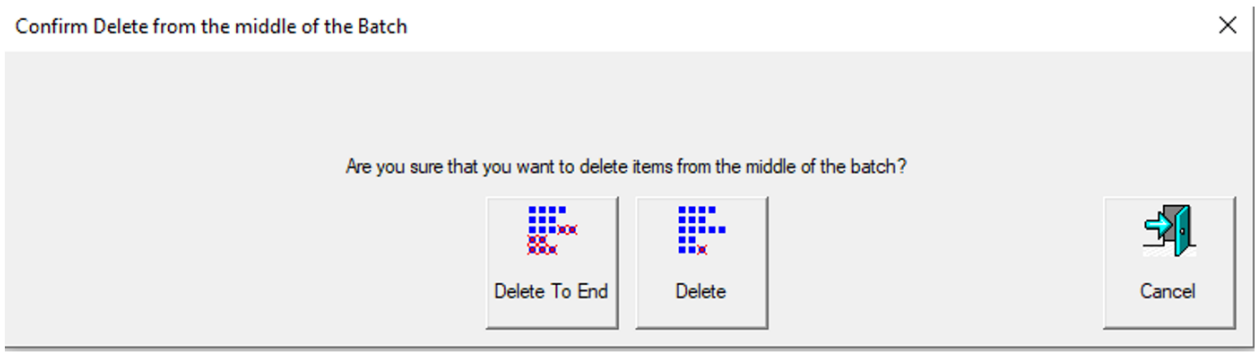


図 4-8： 削除の確認ウィンドウ

備考：画像やスニペットは個別に削除することもできます。バッチの途中から画像を削除する場合、実行を停止し、削除する画像を右クリックしてから **Delete（削除）** ***を選択します。***

4.9. 新しいバッチを開始する

（手動、自動、制限上のクローズ、パッチバッチパラメータ）

設定されたジョブに基づいてバッチを開始するには複数のオプションがあります。

- ジョブ実行中に、**Action**（**実行**）ボタンをクリックして **New Batch**（**新規バッチ**）を選択して、次にスキャンする文書で新規バッチを開始します（図 4-9）。

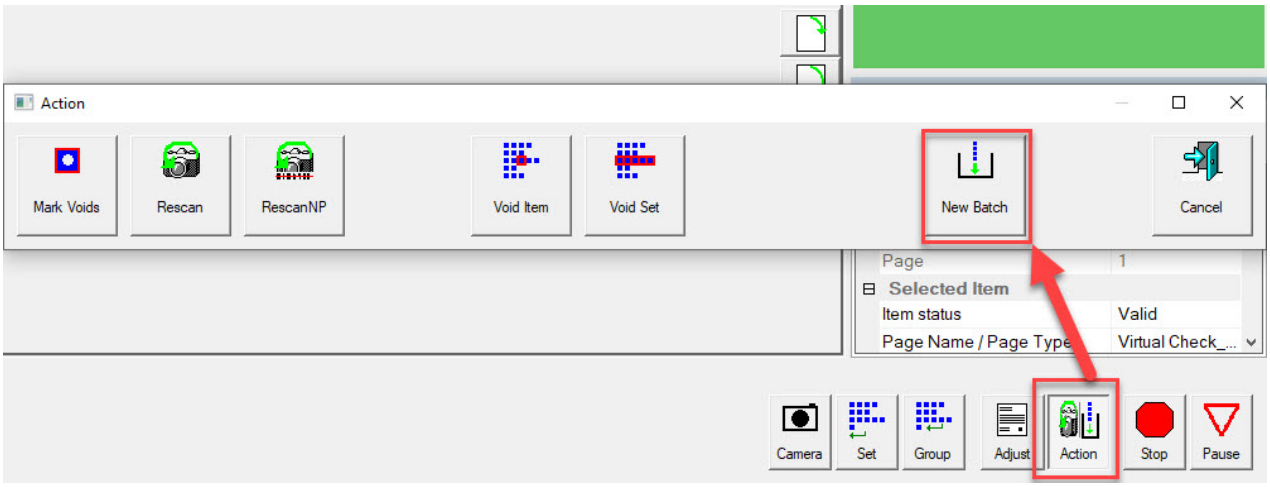


図 4-9： Action（アクション）- New Batch（新規バッチ）

- **Close Batch**（**バッチを閉じる**）ボタンを押して、新しいバッチチケットか、新規バッチの最初の文書をスキャンします。
- バッチチケットをスキャンして新規バッチを開始します。

4.10. 文書とセット / トランザクションの無効化

ジョブ設定時に、無効化機能により文書画像に VOID（無効）記号を挿入し、文書やセットが無効であることを伝えることができます。

文書画像に VOID（無効）記号を挿入する場合、文書のサムネイルを選択して、**Action**（アクション）ボタンをクリックします。Action（アクション）機能が表示されます (図 4-10)。**Void Item（文書の無効化）**を押して選択された文書のみを無効化するか、**Void Set/Transaction（セット / トランザクションの無効化）**を押して選択された文書とセットに含まれるその他全文書を無効化します。**Cancel（中止）**ボタンをクリックすると、処理を実行せずに Action（アクション）ウィンドウを閉じます。

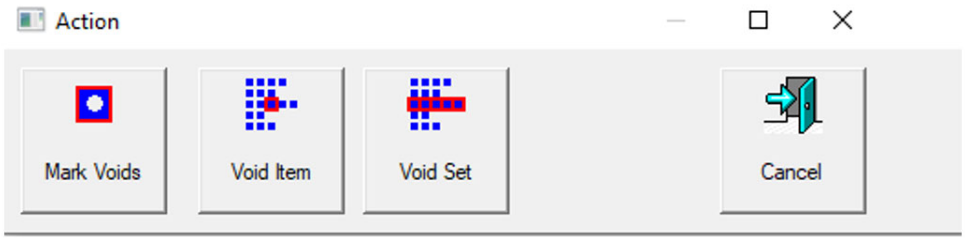


図 4-10 ： Action Window（アクション）- Void Item（文書の無効化）

バッチパラメータ **Allow Void Batch（バッチの無効化を許可）**が **Yes with Marked Image (はい、マークされた画像あり)** に設定されている場合、VOID（無効）記号が実行画面上に表示され、文書はバッチファイル内で無効として指定されます（図 4-11）。

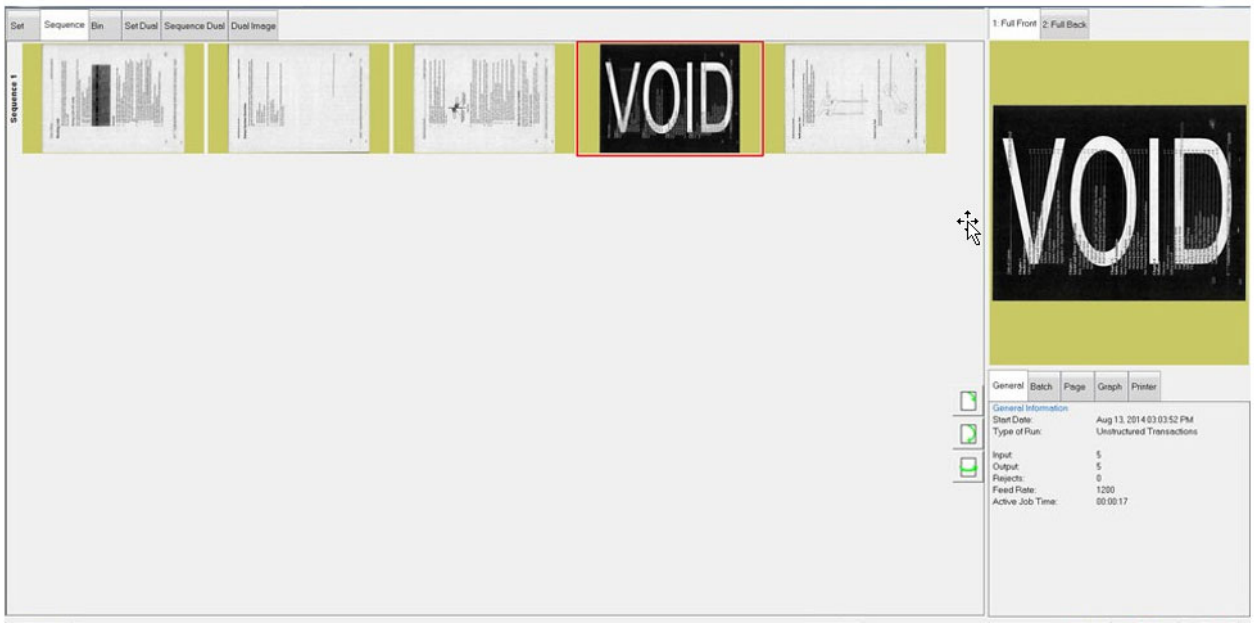


図 4-11 ： 無効化記号が挿入された文書画像

バッチパラメータ **Allow Void Batch（バッチの無効化を許可）**が **Yes without Marked Image（はい、マークされた画像なし）**に設定されている場合、VOID（無効）記号は実行画面上に表示されません。ただし、出力ファイルではステータスが無効の文書として処理されます（図 4-12）。

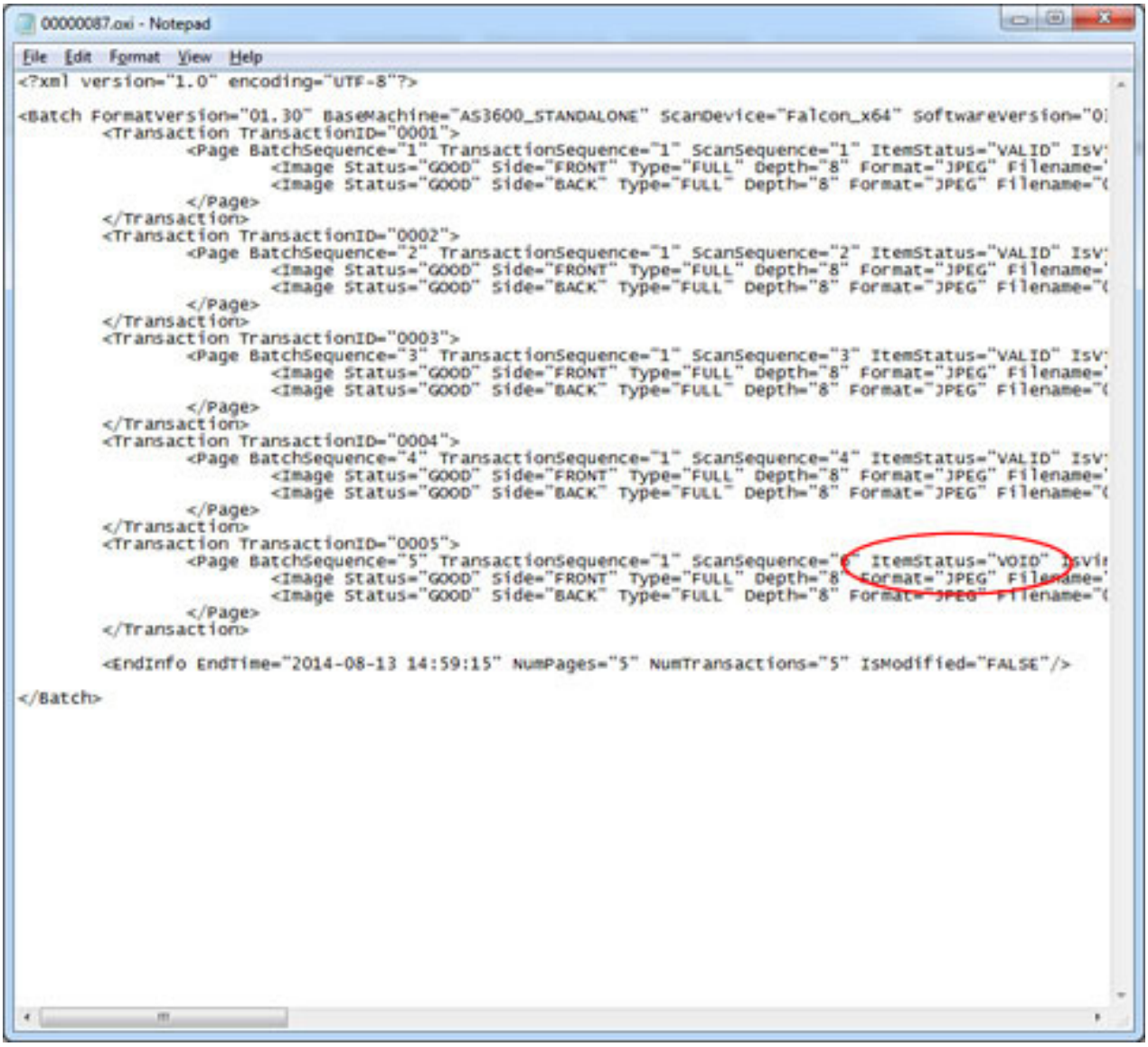


図 4-12： XML バッチ出力ファイルの例

文書画像から VOID（無効）記号を削除する場合、無効化を解除する文書を選択して、**Action**（アクション）ボタンをクリックします。Action（アクション）機能が表示されます（図 4-13）。**UnVoid Item**（**文書の無効化を解除する**）ボタンを押して無効記号を削除するか、または **UnVoid Set**（**セットの無効化を解除する**）ボタンを押して、選択した文書とセットに含まれる他の全文書の無効記号を削除します。**Cancel**（**中止**）ボタンをクリックすると、処理を実行せずに Action（アクション）ウィンドウを閉じます。

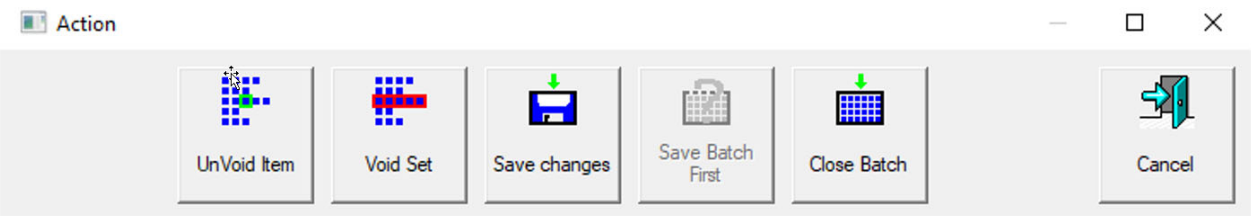


図 4-13： Action Window（アクション）- Unvoid Item（文書の無効化を解除する）

4.11. スキャン中のバッチの編集

設定されたジョブに基づいて、CertainScan は 3 つのバッチ編集オプションを提供します。各オプションによって、編集機能の程度が異なります。必要に応じて、バッチは CertainScan Edit が搭載されたスタンドアロンのコンピュータ上で中断し、編集することができます。

- クリーンアップ編集のみ：中断されたバッチを回復するために必要な編集のみを許可します。バッチの中断は、コンピュータやスキャナのハードウェアまたはソフトウェアの故障時に発生します。
- メタデータのみ：ページ名、ページタイプや DLN の変更など、文書のメタデータのみ編集できます。
- 全高度編集：文書のメタデータの編集、文書の挿入、削除、移動、回転が可能です。

編集によってバッチに加えられた変更は、スキャナの画像処理では必ず処理されるとは限りませんが、既存のメタデータや出力画像、スニペットは、移動やコピー＆ペーストの際に保存されます。

画像の再処理が行われないので文書仕分けのために ScanLink のプラグインが呼び出されず、挿入・貼り付けされた文書や画像に対して ImageTools のプラグインなどのスキャン後の画像処理も実施されません。

フィーダーやコンベアが動作している場合は、最初の編集で自動的に一時停止します。変更は蓄積され、オペレータが変更を適用するまでは元に戻すことができます。バッチを閉じる、中断する、または **Go**（**開始**）を押してスキャンを続行することで、変更が確定します。

高度編集が有効になっている場合、文書のコピーや貼り付けができます。すべてのメタデータと画像は、指定された保存先に複製されます。

***備考**：画像をコピーすると、複数の画像に同じ DLN（ドキュメントロケータ番号）が付与されてしまう場合があります。監査証跡は再生成されませんが、OPEX Transform を使用して、新しいシーケンス番号またはその他の利用可能なバッチ変換オプションで監査証跡を再生成できます。*

4.12. 複数バッチの中断と再開

CertainScan を使って、ジョブでの設定時に、ルール化されていないバッチの無制限の開放や中断、他のバッチが中断している間の別のバッチのスキャンが可能です。これには、主に次の 2 つの利点があります。

- ジョブを終了してバッチを再スキャンすることなく、ジョブおよびページタイプの各設定を作成・編集できます。
- 実行時間内に完了できないバッチは中断して、後で再開できます。

実行画面の終了時に、実行画面を終了する際にバッチを中断できるオプションが表示されます（図 4-14）。

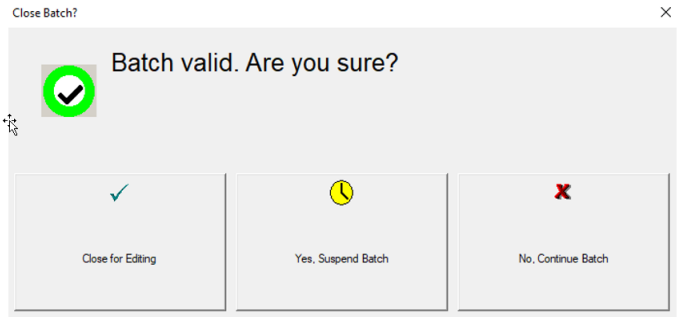


図 4-14： バッチを中断する

中断されたバッチのリストを表示するには、メインメニューから Batch Resume（バッチの再開）ボタンをクリックします。バッチを選択して、スキャンを再開します（図 4-15）。

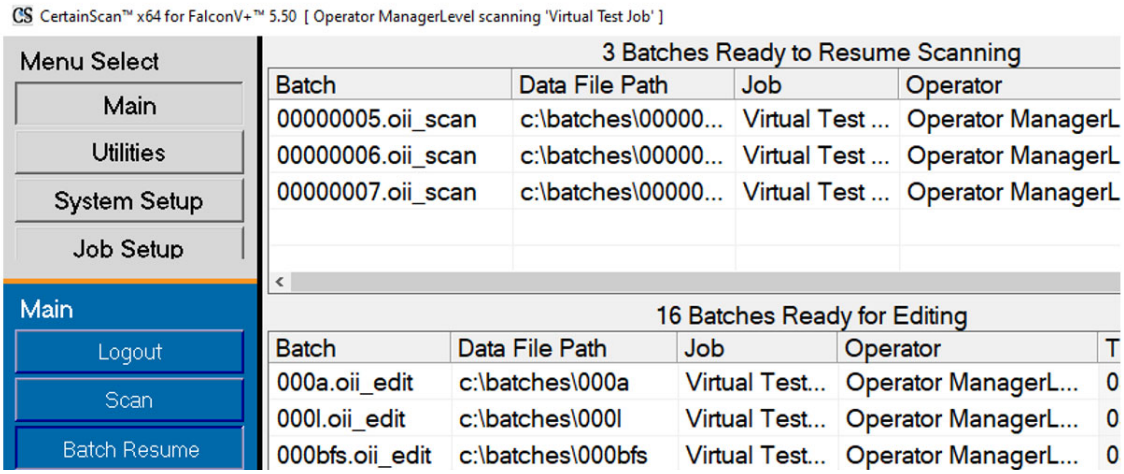


図 4-15： バッチを再開する

4.12.1. CertainScan に搭載されているバッチエディタ

スキャナに問題がある場合や、スキャン中に CertainScan が正常に終了されなかった場合は、バッチの終了と保存が正しく行われていないことがあります。この場合、CertainScan の再起動時に、バッチの一時ファイルが存在することが通知されます (図 4-16)。

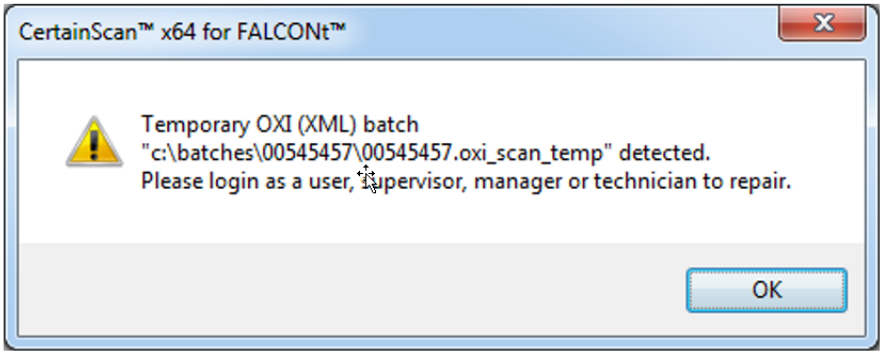


図 4-16 : 一時バッチエラー

続行するには **OK** ボタンをクリックし、システムにログインします。ログイン後、次のメッセージが表示されます（図 4-17）。

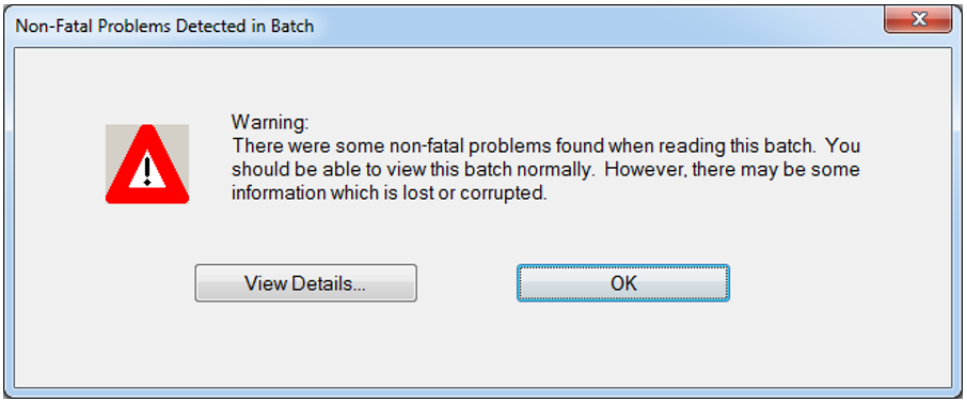


図 4-17 : エラーメッセージ : 致命的ではない問題がバッチで検出された

OK ボタンをクリックして続行します。バッチエディタが開き、別のエラーメッセージが表示されます。少なくとも 1 枚の文書画像（通常は最後にスキャンされた文書画像）を削除し、バッチを閉じて修復するように指示されます（図 4-18）。

文書画像を削除したら、**Exit**（**終了**）ボタンをクリックしてバッチエディタを閉じます。バッチが正しく修復されると、バッチが現在有効であることを通知するダイアログボックスが表示されます。

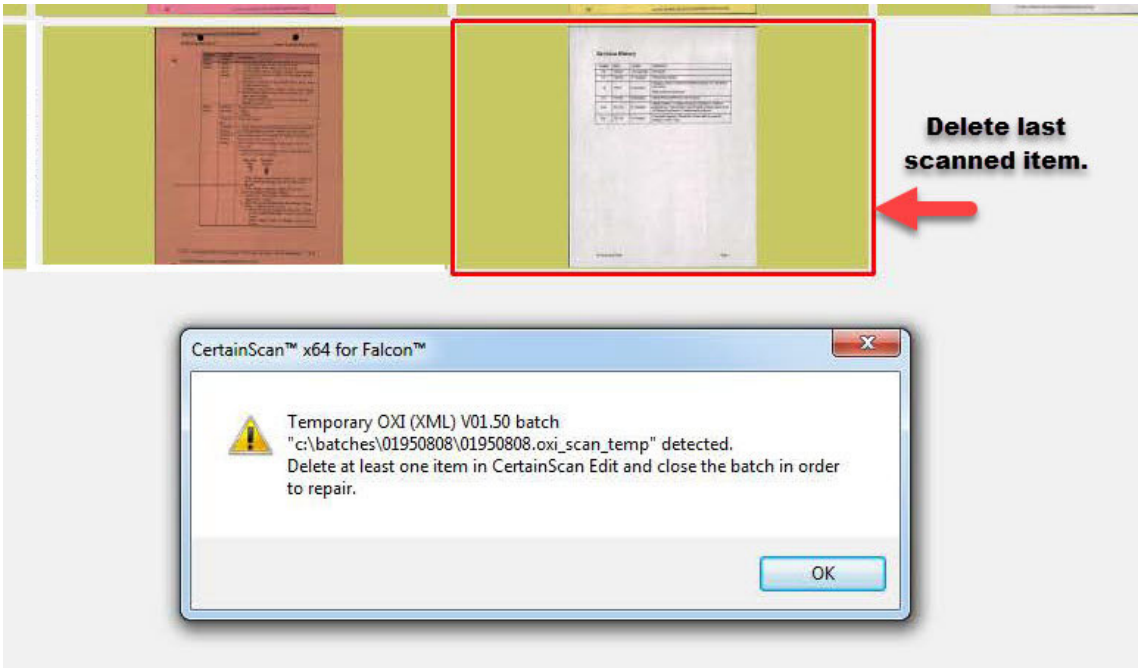


図 4-18： 無効なバッチを修復する

4.12.2. バッチを閉じる

スキャンが終わったら、**Stop**（**停止**）ボタンを押してから、ポップアップディスプレイの **Exit**（**終了**）ボタンを押して、バッチを閉じます（図 4-19）。

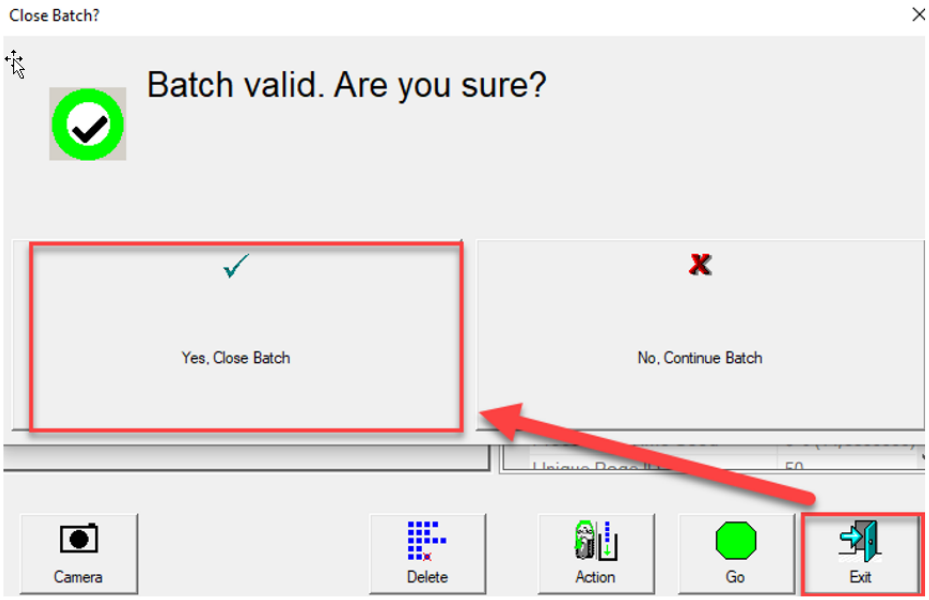


図 4-19： バッチを閉じる

4.13. 再スキャンフィーダー

再スキャンフィーダーは、点灯するスキャンベッドカバーの溝付き投入口と、再スキャンフィーダーのオン / オフを切り替えるボタンから構成されています（図 4-20）。再スキャンフィーダーのボタンは、スキャナが一時停止またはスキャン中止状態にある時だけ有効です。

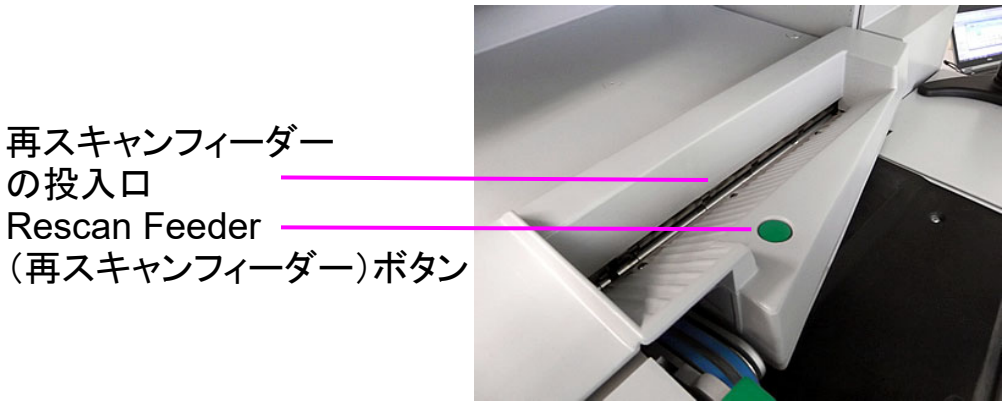


図 4-20： 再スキャンフィーダー

4.13.1. スキャナの一時停止と再スキャンフィーダーの使用

実行画面で **Pause**（**一時停止**）を選択すると、再スキャンフィーダーの投入口が青く点滅します。これは、再スキャンフィーダーに単一または複数の文書が挿入される可能性があることをオペレータに警告するための点滅です。

一時停止状態で、マルチフィード検出を無効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 実行画面で **Pause**（**一時停止**）を選択して、再スキャンフィーダーの投入口が青く点滅したら、**Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンを押すと、投入口が青く点灯した状態になります。
2. 文書を 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

一時停止状態で、マルチフィード検出を有効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 実行画面で **Pause**（**一時停止**）を選択して、再スキャンフィーダーの投入口が青く点滅したら、再スキャンフィーダーの投入口が高速点滅を始めるまで **Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンを押し続けます。
2. 文書を 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

4.13.2. スキャン中止時の再スキャンフィーダーの使用

スキャン中止状態になると、実行画面に状況（図 4-21）が表示され、再スキャンフィーダーの投入口が青く点滅します。オペレータは、再スキャンフィーダーを使わずに続行するか、再スキャンフィーダーボタンを押して再スキャンフィーダーを使用するか選択できます。再スキャンボタンを押すと、表示されていた実行画面の状態が終了します。**Cancel**（**取消**）を押すと、実行中のジョブが停止します。

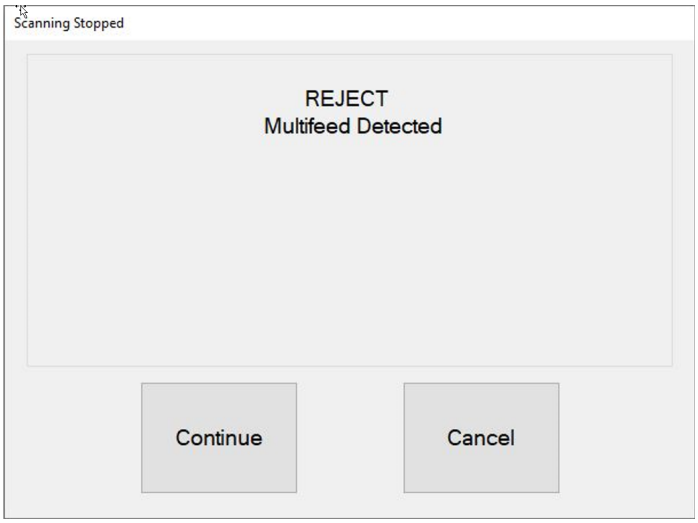


図 4-21： スキャン中止状況の例

スキャン中止状況で、マルチフィード検出を無効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 再スキャンフィーダーの投入口が点滅している間に、**Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンを押すと、実行画面ダイアログが閉じて、投入口は青く点灯した状態になります。

2. 文書を 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

スキャン中止状況で、マルチフィード検出を有効にして再スキャンフィーダーを使用する：

1. 再スキャンフィーダーの投入口が点滅している時に、再スキャンフィーダーの投入口が速い点滅に変わるまで **Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンを押し続けます。実行画面ダイアログが閉じます。
2. 文書を 1 枚ずつ投入口に挿入します。
3. 終了したら、**Rescan Feeder**（**再スキャンフィーダー**）ボタンをもう一度押します。投入口の点灯が消え、自動フィーダーによる給紙が再開されます。

4.14. マルチフィード検出（MFD）

MFD は、フィードベルトのすぐ右に配置された左右のプレフィードホイールと、MFD 無効化 LED と、MFD 無効化ボタンで構成されています（図 4-22 参照）。

MFD では、スキャン時に超音波マルチフィード検出器を無効にすることで、付箋付き文書やラミネート紙など、厚さが異なる単一文書の給紙が可能です。このフィード経路は、再スキャンフィーダーのドロップスロットの代わりに使用できます。

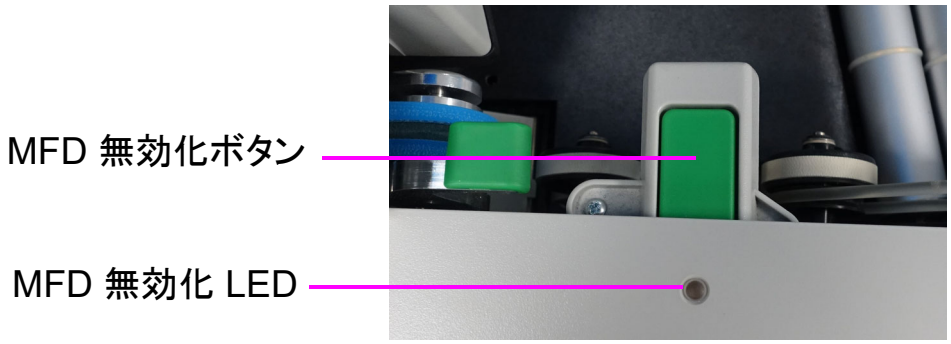


図 4-22： プレフィード MFD 無効化ボタン

4.14.1. スキャン中の MFD 無効化

1. 厚さが異なる文書をスキャンする前に、**MFD override（MFD 無効化）**ボタンを押して、超音波マルチフィード検出器を無効にします。
2. LED が赤で表示されます。
3. スキャンする単一文書を、プレフィーダーの投入口の前のコンベアに置きます。
4. 文書はマルチフィードとして検出されずにスキャンされます。
5. MFD 無効化 LED が消灯して、スキャンを再開します。

*備考：複数の文書を次々とスキャンする場合、***MFD Override**（MFD 無効化）*ボタンを長押しすると、LED が赤色に点滅します。複数の文書のスキャンが終了したら、***MFD override（MFD 無効化）****ボタンをもう一度押すと MFD が消灯してスキャンが再開されます。*

4.14.2. スキャナの一時停止と MFD の無効化

1. 実行画面で **Pause**（**一時停止**）を選択します。MFD 無効化 LED が緑色に点滅して、コンベアローラーが停止します。
2. スキャンする文書を、フィーダーの投入口の前のコンベアに置きます。
3. **MFD override** （**MFD 無効化)** ボタンを押します。LED が赤と黄色に点滅して、マルチフィード検出が有効になっていないことを示します。
4. 実行画面の **Resume** （**再開**）ボタンを押します。
5. 文書がスキャンされ、LED が消灯してスキャンが再開されます。

4.14.3. スキャン中止時の MFD フィーダー経路の使用

1. スキャン中止状況では、実行画面にエラーが表示され（図 4-23）、スキャンが自動的に停止します。
2. LED は緑色に点滅します。
3. 再スキャンフィーダーのドロップスロットの代わりに、コンベアに再スキャンする文書を置きます。
4. **MFD Override**（**MFD 無効化**）ボタンを押すと、LED が赤と黄色に点滅します。
5. 実行画面の **Continue**（**続行**）ボタンを押して文書を再スキャンします。
6. 文書がスキャンされ、LED が消灯してスキャンが再開されます。

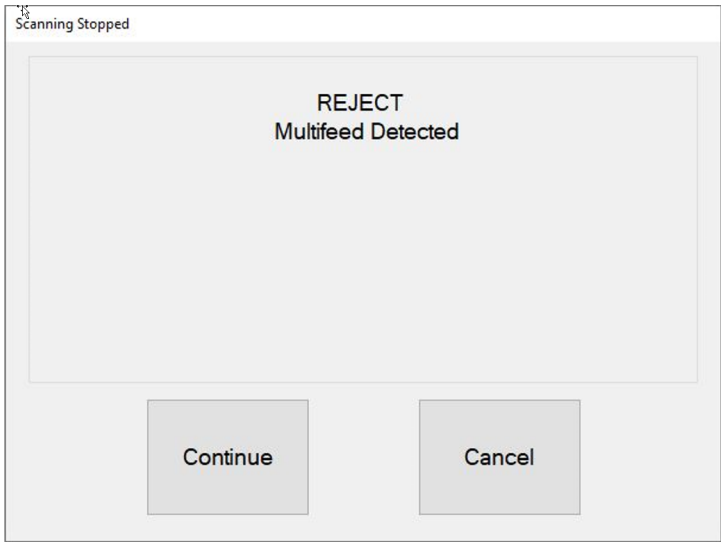


図 4-23： スキャン中止状況

4.15. ID Assist

ジョブおよびページタイプごとに設定された ID Assist は、スキャン中の文書を識別して、アクションを実行するための追加の方法を提供します。ID Assist はスタックフィードモードでは機能しません。

ID Assist は、3 個の全通ビームセンサーを使用します。ID Assist 機能を起動するには、ID Assist 1 と ID Assist Verify を併用します。ID Assist 2 は、ID Assist を起動した後にコンベア上に置かれた文書を追跡するために使用します。

4.15.1. ID Assist を使用する

ID Assist を起動するには、ID Assist Verify と ID Assist 1 センサーの前で左から右に文書をスワイプしてから（図 4-24）、文書をコンベアでリリースします。ID Assist Verify センサーは、ID Assist 機能を有効にして、文書を右に移動させたまま ID Assist 1 をブロックします。文書が右に完全にスワイプされない場合、ID Assist は起動しません。

ID Assist を使用するジョブが実行されると、ID Assist インジケータ LED が点灯します。ID Assist が起動すると、インジケータ LED が点滅して起動したことを通知します。文書がスキャンされると、ID Assist LED は消灯します。

左から右に完全にスワイプしても文書をリリースしない場合、またはリリースした後にコンベアから文書を取りあげた場合は、センサーがタイムアウトして ID Assist 機能が適用されなくなります。

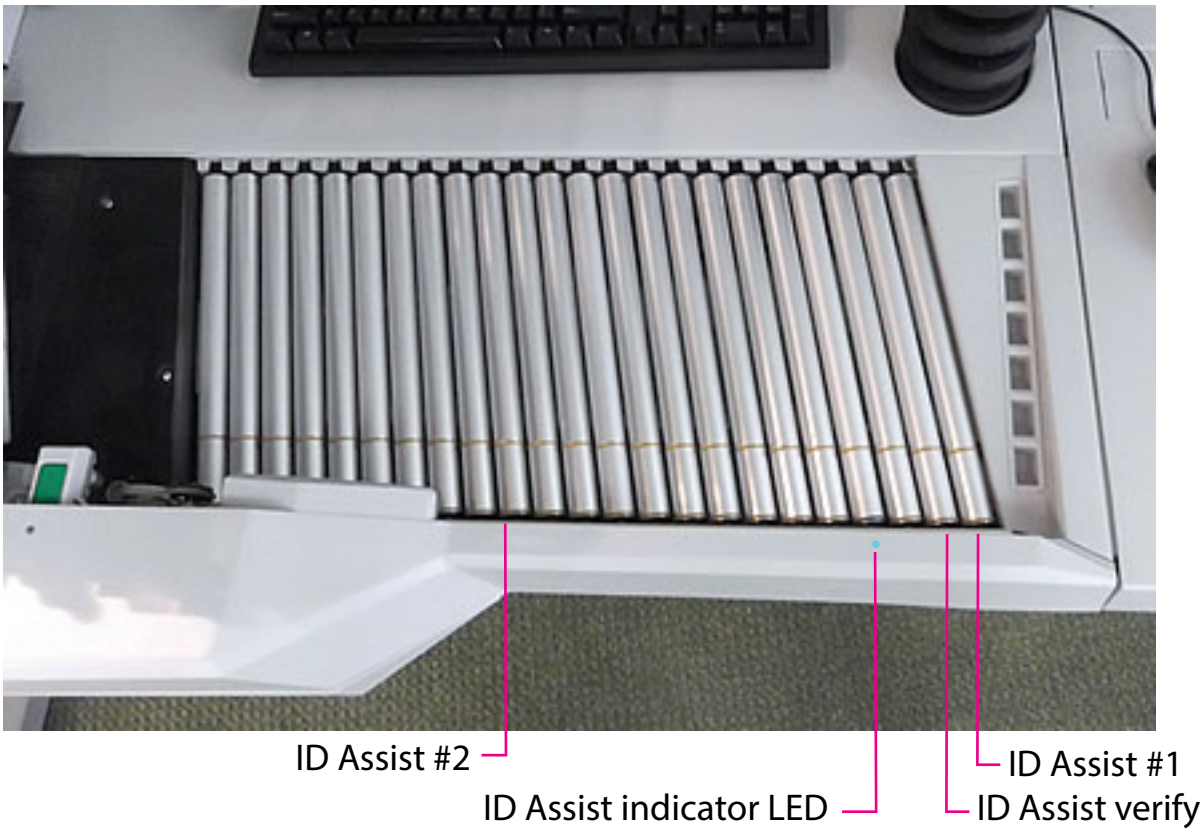


図 4-24 : ID Assist

4.16. マルチスロット ID Assist

オプションのマルチスロット ID Assist 機能は ID Assist と同じ機能ですが、ジョブごとに最大 9 種類の事前割り当て機能を利用できます (図 4-25)。ジョブでマルチスロット ID Assist が設定されている場合、ID Assist は無効になります。

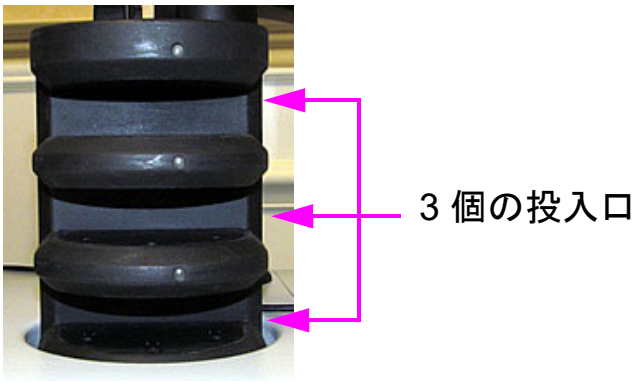


図 4-25 : マルチスロット ID Assist タワー

マルチスロット ID Assist タワーには 3 個の投入口があり、それぞれ 3 つの機能を選択できます。各機能には、それぞれ起動に使われるスワイプ方法があります。下記の 3 つのスワイプ方法を使って、スロット別に各機能を選択できます。

- 投入口内で文書を左から右にスライドさせる
- 投入口内で文書を右から左にスライドさせる
- 文書をまっすぐ差し込み、まっすぐ引き出す

スキャン中に、オペレータのためのマルチスロット Assist の説明が情報ウィンドウに表示されます。文書のスワイプ方向が色と矢印でグラフィック画像が表示されるようになりました（図 4-26）。

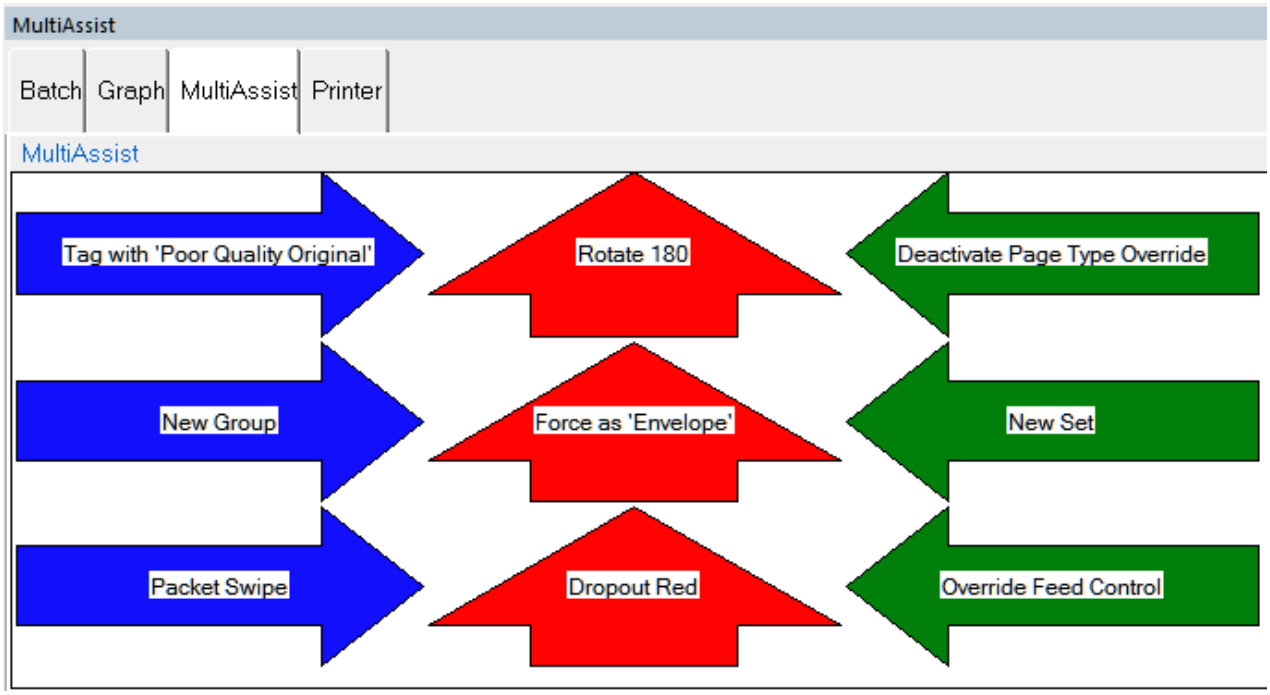


図 4-26： マルチスロット ID Assist を使用したジョブにおける情報ウィンドウの例

4.17. Key Assist

オプションの Key Assist により、ページタイプの選択、ジョブの開始と停止、画像の回転など実行画面で特定の機能を実行する外部キーパッドを使用できます（図 4-27）。モニターをタッチする代わりに、この機能を使用できます。

Key Assist のキーマッピングはジョブタイプに応じてハードコードされています。マッピングは、以下の 2 つの形式があります。

- マッピング形式 1：オリジナルの Key Assist 形式は、8 種類のページタイプに対応していますが、新規グループキー機能には対応していません。
- マッピング形式 2：ダブルキーを組み合わせることで 12 種類のページタイプと新規グループボタンに対応しています。New Transaction（新規トランザクション）および Solicit Custom Data （ユーザーデータを挿入）では、2 つのキーを素早く順に押すとマッピングが変更されます。

Key Assist 機能は、ルール化されたジョブや参照 ID のあるジョブでは動作しません。参照 ID にはキーボード入力が必要です。

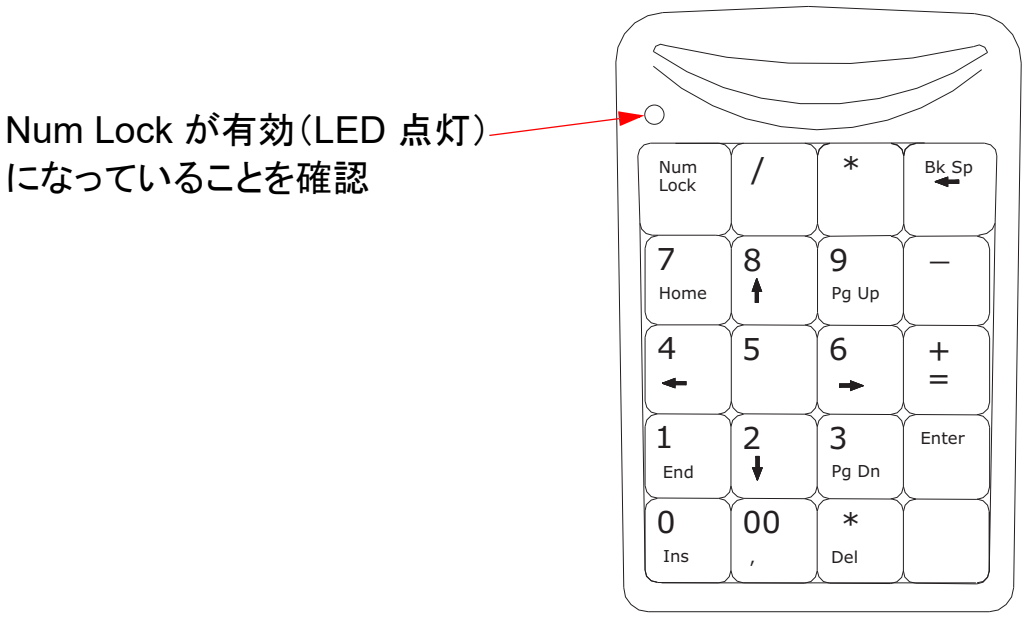


図 4-27： 外部キーパッド

4.18. 紙詰まりを解消する

スキャナへのアクセス：

1. ラッチを反時計方向に回して、スキャナカバーを外します。スキャナカバーを開位置になるまで回します (図 4-28)。

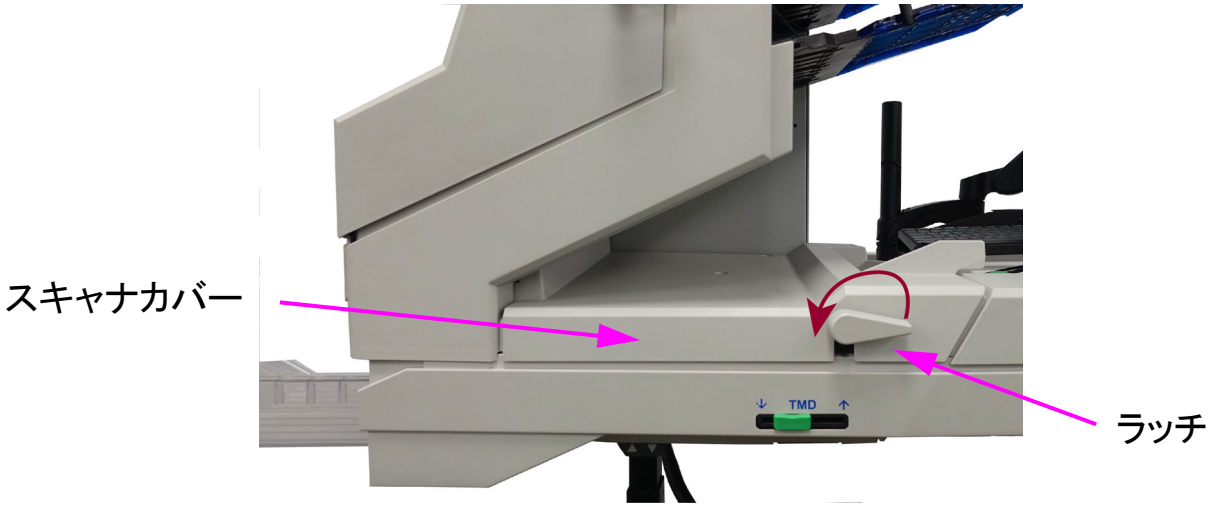


図 4-28： スキャナへのアクセス

2. 詰まった紙や紙片を取り除きます。
3. スキャナカバーを閉じるには、ラッチを持ちカバーをゆっくりと引きます。
4. カバーが閉位置に届いたら、カチッと固定されるまでラッチを時計回りに回します。

通告

スキャナカバーを下に強く押し込むと、画像センサーが損傷する危険があります。

搬送部へのアクセス：

1. 搬送ラッチを反時計方向に回し、搬送カバーを引きながらスキャナから取り外します（図 4-29 参照）。
2. 搬送部に残った紙や紙片を取り除きます。

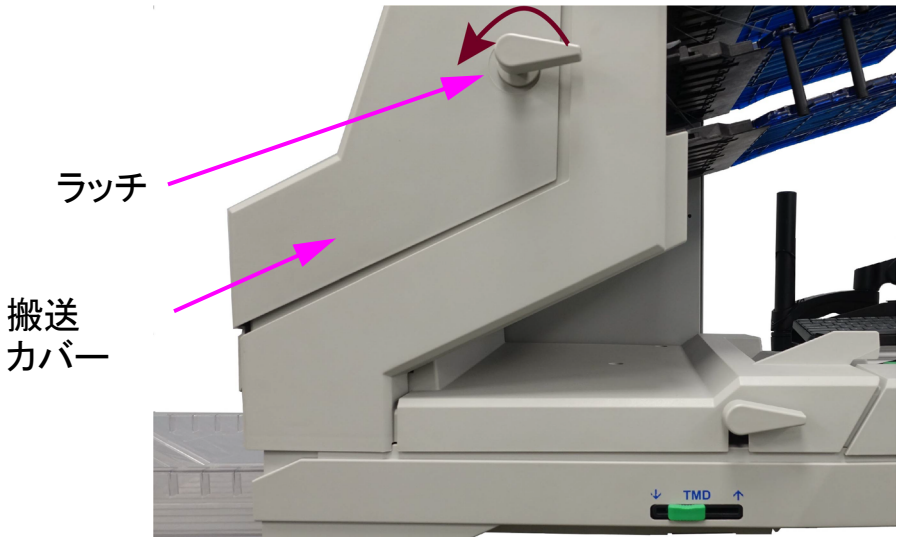


図 4-29： 搬送カバーを開く

3. 搬送カバーを閉じるには、ラッチを持ちドアをゆっくりと引きます。
4. カバーが閉位置に届いたら、カチッと固定されるまでラッチを時計回りに回します。

4.19. トレイから文書を取り出す

仕分けトレイから文書を取り出すときは、文書をトレイの側面から引き出します (図 4-30)。トレイは文書枚数が少ない状態でも取り出せ、トレイから文書が落下しないように設計されています。各トレイに配置された緑色のリリースボタンを押すと、押さえタブ（上部のフィンガー）が上ります。搬送部に残った文書は、ここから簡単に取り出して再給紙できます。

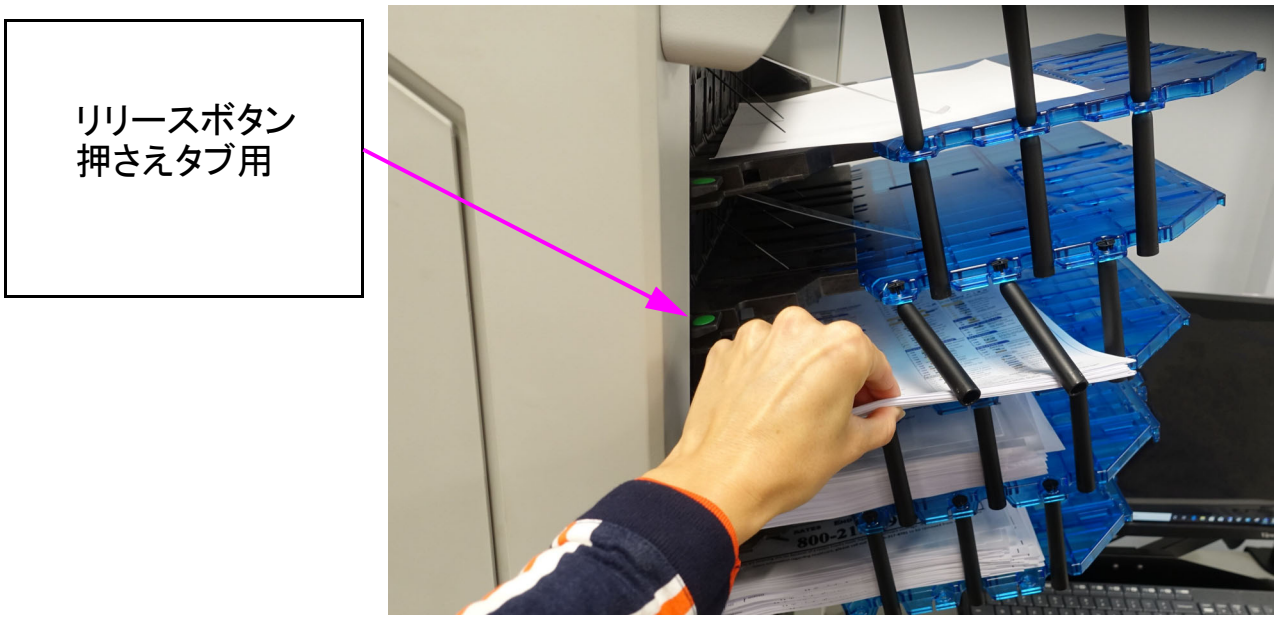


図 4-30 ： トレイから文書を取り出す

5. メンテナンス

5.1. タッチスクリーンモニターの較正 98
5.2. プリンタカートリッジの取り外し/交換 99
5.3. グラフィックプリンタの取り外し/交換 101
5.4. トレイとペーパーガイドの取り付け 105
5.4.1. 下部のペーパーガイド 105
5.4.2. 上部のペーパーガイド 106
5.4.3. ペーパーガイドの取り付け 107
5.5. トレイ 109
5.6. スキャナの清掃 110
5.6.1. コンベアと搬送ブロック 110
5.6.2. コンタクトイメージセンサー 111
5.6.3. フィードブロック 112

Falcon®+

オペレータマニュアル

5.1. タッチスクリーンモニターの較正

Falcon+ は ViewSonic® タッチスクリーンモニター（OPEX # 2887800）を使用します。この 21.5 インチの LED バックライト付きタッチスクリーンモニターには 3 センサー光学タッチスクリーンが搭載されていて、OPEX から出荷される前にタッチ感度が調整されています。

モニターの較正手順

1. **タブレット PC 設定** ウィンドウを開きます。検索フィールドに **Tablet PC Settings (タブレット PC 設定)** と入力して、**Enter** キーを押します。
2. **Tablet PC Settings（タブレット PC 設定）**ウィンドウの **Display（ディスプレイ）**タブ で、ドロップダウンメニューから調整するモニターの名前を確認します (図 5-1 参照)。

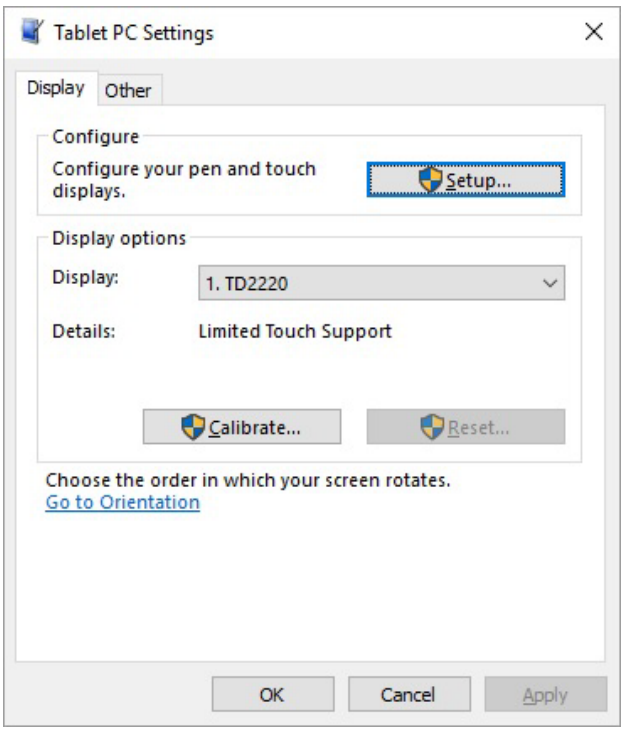


図 5-1 :　ディスプレイの選択

3. **調整 (C)...** ボタンをクリックし、画面上の指示に従います。

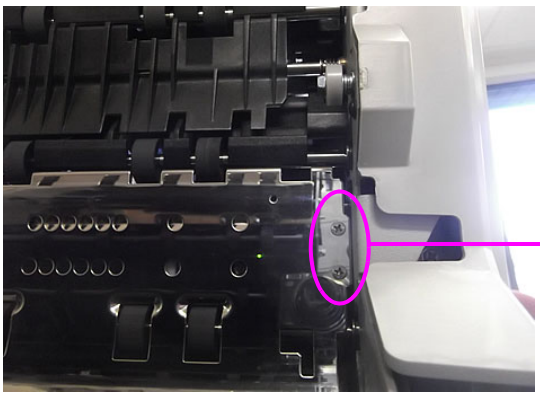
5.2. プリンタカートリッジの取り外し / 交換

スタッカーのカバーを開くと、スキャナのインプリンターと HP 製インクカートリッジにアクセスできます。カートリッジを取り外すときは、交換時に正しく装着できるように、カートリッジの位置と向きに注意してください。

新品のプリンタカートリッジを取り付ける際は、新しいカートリッジの有効期限が切れていないか確認してください。密閉容器に収納されたプリンタカートリッジの使用期限は、製造日から 2 年間です。

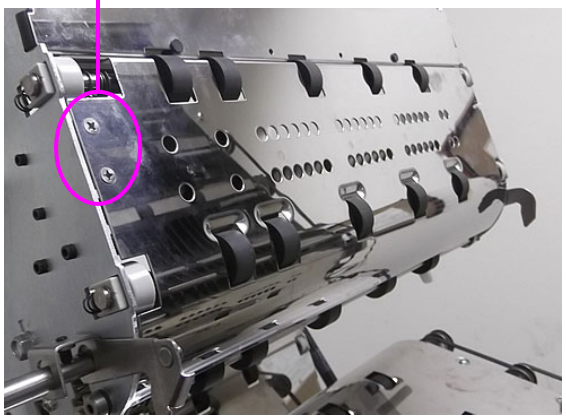
プリンタへのアクセス

1. ラッチハンドルを回して解除し、スタッカーのドアを開きます。
2. 前方 / 後方の標準プリンタのアクセス方法：
   - ヒンジ付きのペーパーガイドを押して、ラッチを解除します (図 5-2)。ペーパーガイドを押す位置は、2 本の小ネジの間です。
   - ペーパーガイドを開き、プリンタブロックを引き出します。



前方プリンタへのアクセス

ヒンジ付きのペーパーガイドを押す



後方プリンタへのアクセス

図 5-2 :　プリンタへのアクセス

標準プリンタカートリッジの取り外し / 交換：

1. プリンタカートリッジ後部のタブを引っ張り、外側に回します（図 5-3 参照）。

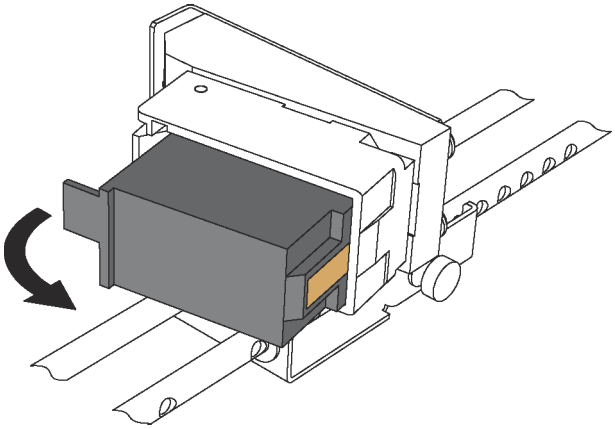


図 5-3： プリンタカートリッジ

2. 新しいカートリッジを挿入する時は最初にカートリッジの前端を押し込み、「カチッ」と音がするまでカートリッジの後部を押し込みます。
3. **Diagnostics > Printer**（診断 > プリンタ）を開き、**Replace Ink Cartridge**（インクカートリッジの交換）を選択し、インク残量表示をリセットします。

5.3. グラフィックプリンタの取り外し / 交換

1. ラッチハンドルを回して解除し、スタッカーのドアを開きます。
2. 図 5-4 に表示されたつまみネジを緩めます。

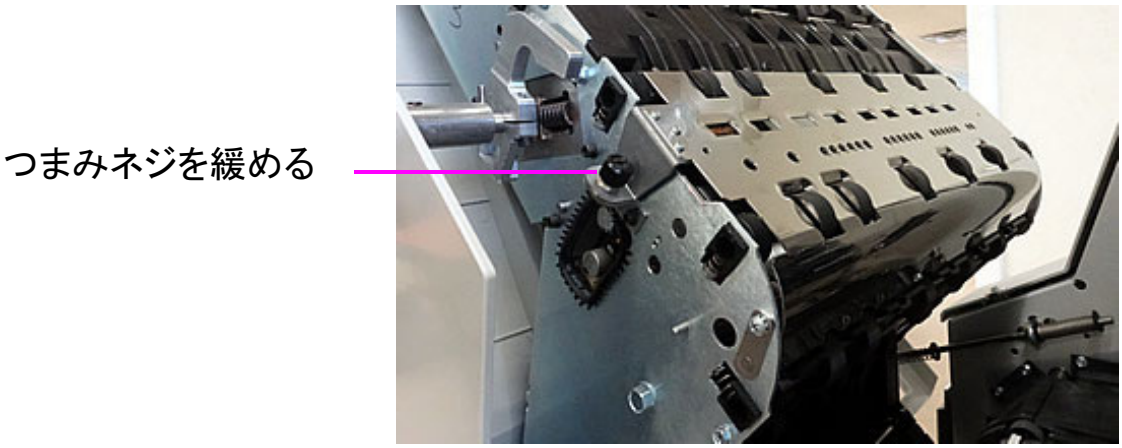


図 5-4 :　グラフィックプリンタのつまみネジを緩める

3. 図 5-5 のようにペーパーガイドを開き、グラフィックプリンタを引き出します。

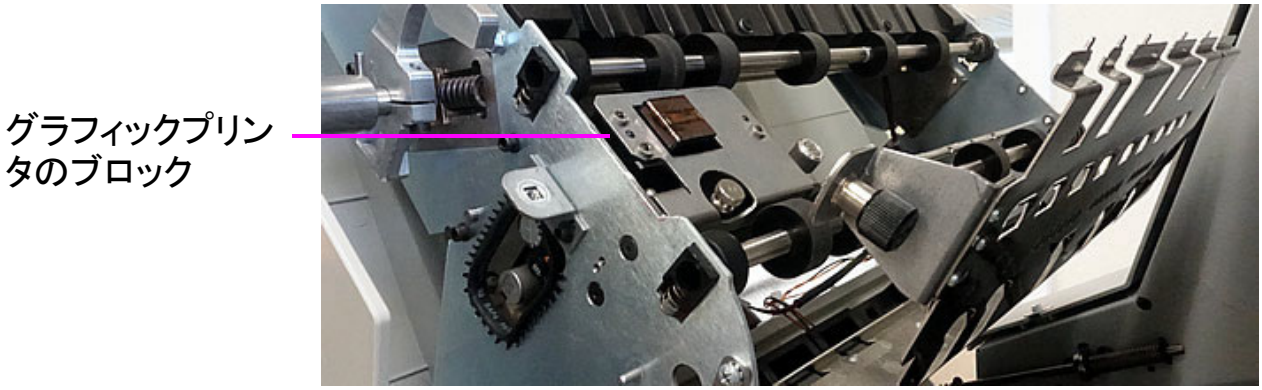


図 5-5 :　グラフィックプリンタのブロック

4. IMTECH 製グラフィックプリンタブロックのつまみネジ（図 5-6）を緩めます。

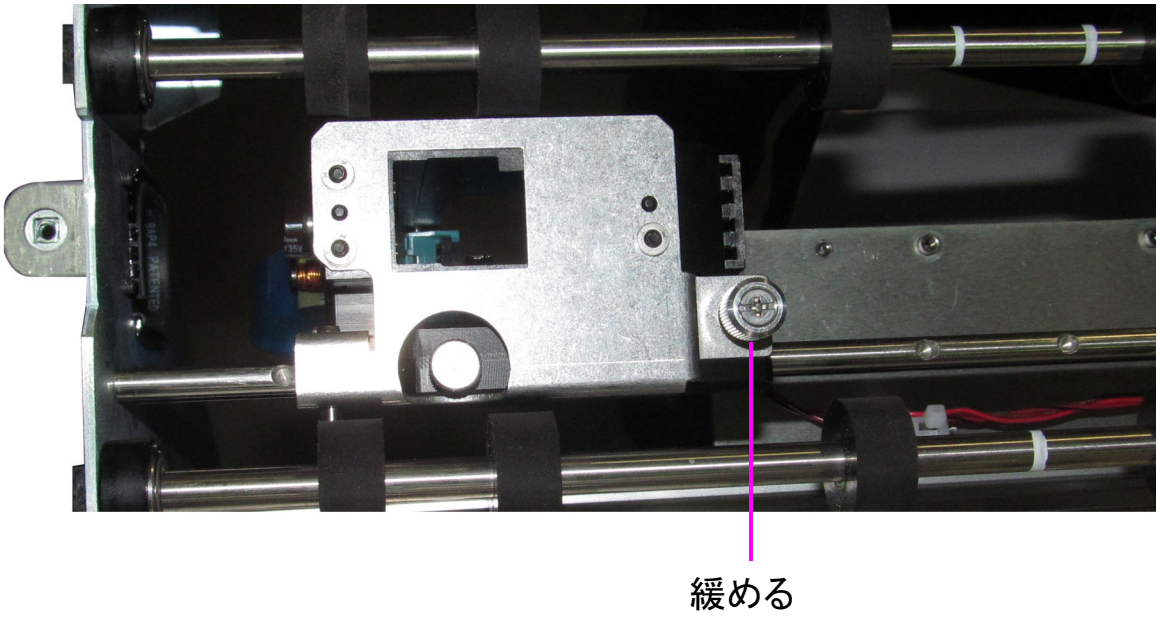


図 5-6：　つまみネジを緩める

5. プリンタブロックを手前に回転させながら引き出します。
6. カートリッジのリリースレバーを押し出します（図 5-7 参照）。

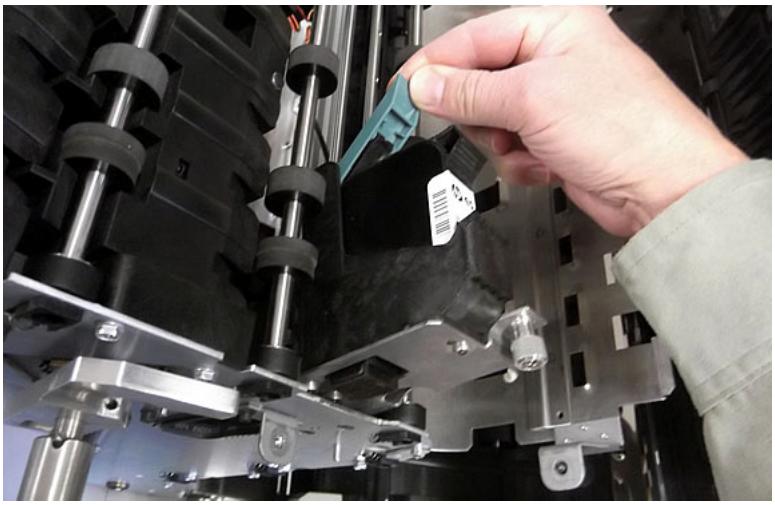


図 5-7：　カートリッジのリリースレバー

7. レバーを押し出したら、プリンタカートリッジを背面方向に引いてプリンタブロックから取り外します (図 5-8 参照) 。

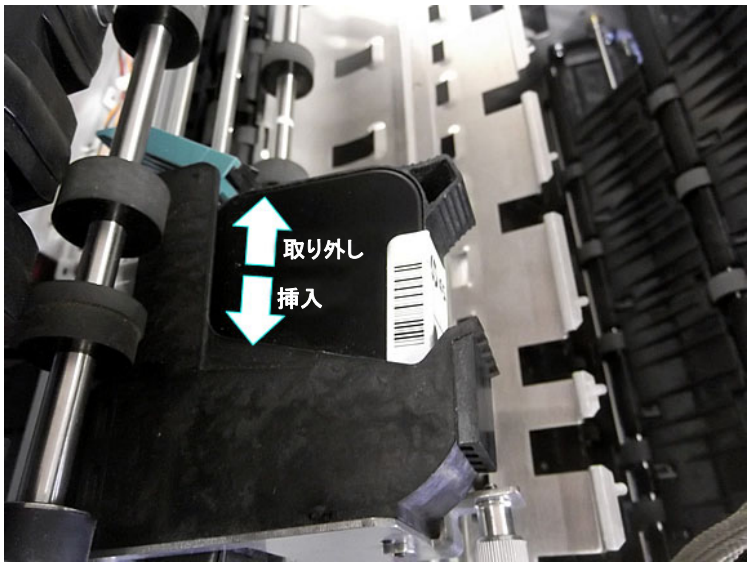


図 5-8 :　プリンタカートリッジの取り外し / 挿入

8. 新しいカートリッジを、図 5-8 の方向に挿入します。
9. リリースレバーを上に持ち上げて、カートリッジを所定の位置で固定します。
10. プリンタブロックを回転させながらスタッカーのカバー内に戻し、つまみネジを締めます。IMTECH 製プリンタのドアはインターロック機構を備えており、つまみネジが完全にかみ合っていないときに作動します（図 5-9 参照）。

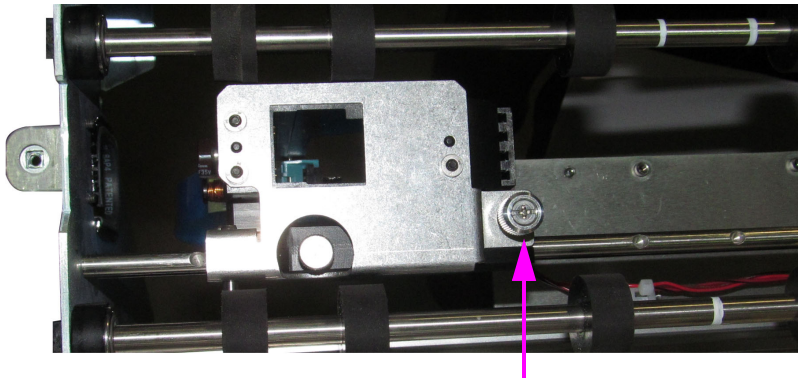


図 5-9 :　グラフィックプリンタのインターロック機構

11. ペーパーガイドをグラフィックプリンタの上に戻し、つまみネジを締めます。
12. スタッカーのカバーを閉じます。

プリンタキャリッジの位置調整

プリンタキャリッジを動かして、垂直方向の印刷位置を調整します。プリンタキャリッジは止め穴付きシャフトに固定されていて、印刷時はプリンタがこの位置で用紙ガイドの穴からインクを吹き出します。プリンタはつまみネジでシャフトの止め穴に固定されています。プリンタが止め穴で固定されていないと、つまみネジが突出し、ペーパーガイドを閉じることができません。

キャリッジの位置を調整するには、つまみネジを緩め、キャリッジをシャフトの新しい位置までスライドさせてから、つまみネジの増し締めをします（図 5-10 参照）。

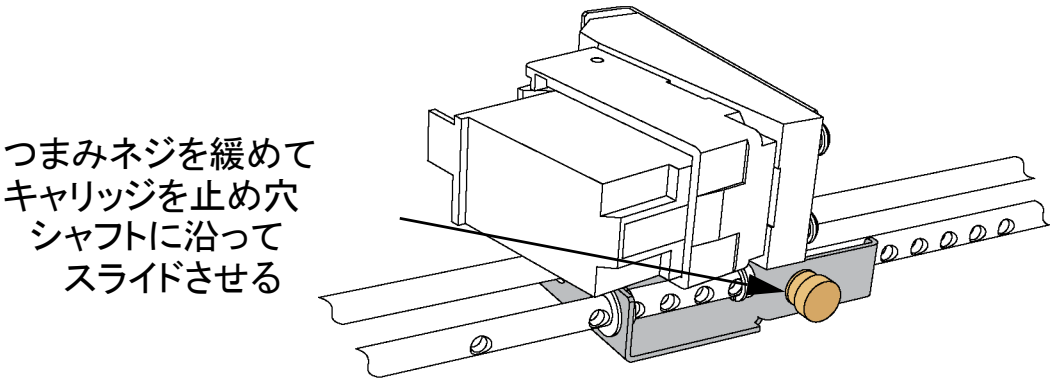


図 5-10： プリンタキャリッジの位置調整

5.4. トレイとペーパーガイドの取り付け

この項では、上下のペーパーガイドを装着する方法を説明します。ペーパーガイドが外れた時や壊れた時は、ガイドを再装着する必要があります。ペーパーガイドを再装着する際は、作業を容易にするため、トレイを取り外すことをお勧めします。トレイは引っ張ると取り外せます。

5.4.1. 下部のペーパーガイド

下側のペーパーガイドは組み立てた状態で出荷されますので、そのまま所定位置に設置してください。各トレイ本体の底にある差込口にそれぞれ取り付けます (図 5-11)。

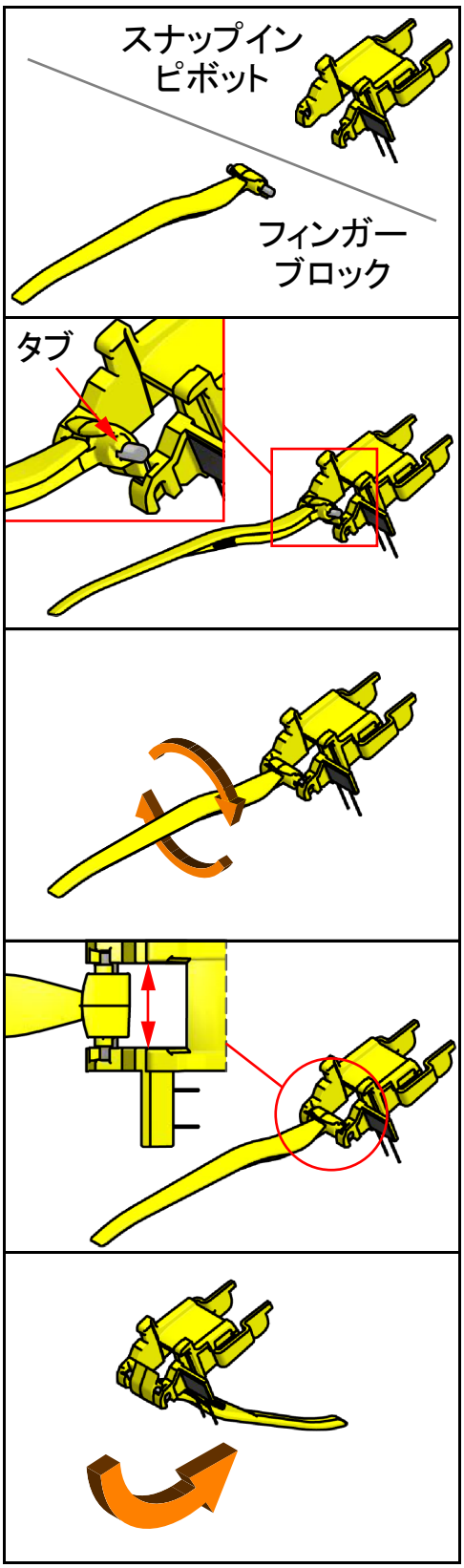
ペーパーガイドの端を差込口の中央に合わせ、フィンガーの両側の突起が下の溝に入るまで底部を押し下げます。ペーパーガイドを放しても、内側のバネによってタブの所定位置に固定されます。

***備考**：下側のペーパーガイドを取り付けるときは、図のようにペーパーガイドが上向きになる状態で押し込みます。ペーパーガイドを平らに下へ押さえてしまうと、装着できません。*

図 5-11： 下部のペーパーガイド

***備考**：実機で使用されるペーパーガイドは黒色です。上図のペーパーガイドは白色ですが、これは撮影のために色を変えています。*

5.4.2. 上部のペーパーガイド



ブロック

上部のペーパーガイドは取り付けられた状態で出荷されますが、簡単に取り外せます。次の手順で 2 つの部品を再装着できます。

フィンガーブロックを、スナップインのピボットに対して斜めに差し込みます。フィンガーブロックの回転軸の小さな突起が上を向くようにします。

フィンガーブロックを回転させ、軸が平らになるようにします。

フィンガーブロックがスナップインピボットの中心になるようにします。

フィンガーブロックを回し、スナップインピボットの下に来るようにします。

図 5-12： 上部のペーパーガイド

5.4.3. ペーパーガイドの取り付け

ペーパーガイドブロックの可動部分と、スタッカートレイのガイドのリリースボタンは、正常に機能するように正しく整列させてください。正しく整列させるには、ボタンの下に物を挟んで作業中に動かないようにし、ペーパーガイドを持ち上げた状態で取り付けます。

正しく取り付けられると、ペーパーガイドのレバーがリリースボタン軸上のタブの後ろに来ます（図 5-13）。

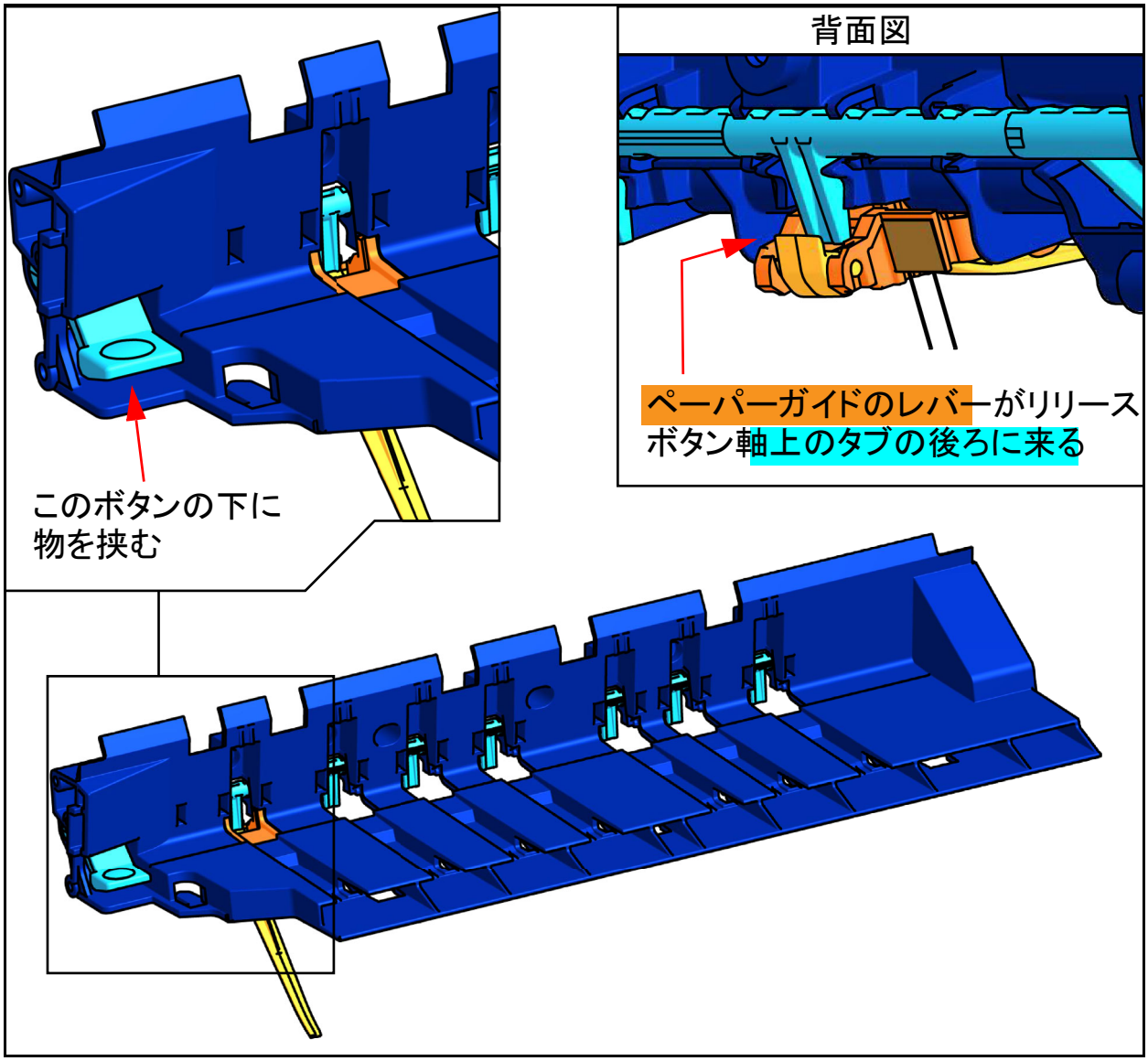


図 5-13： ペーパーガイドの取り付け

ペーパーガイドブロックを斜めに差し込み、背面上部にあるフックを、トレイ本体の背面にあるノッチにスライドさせます。

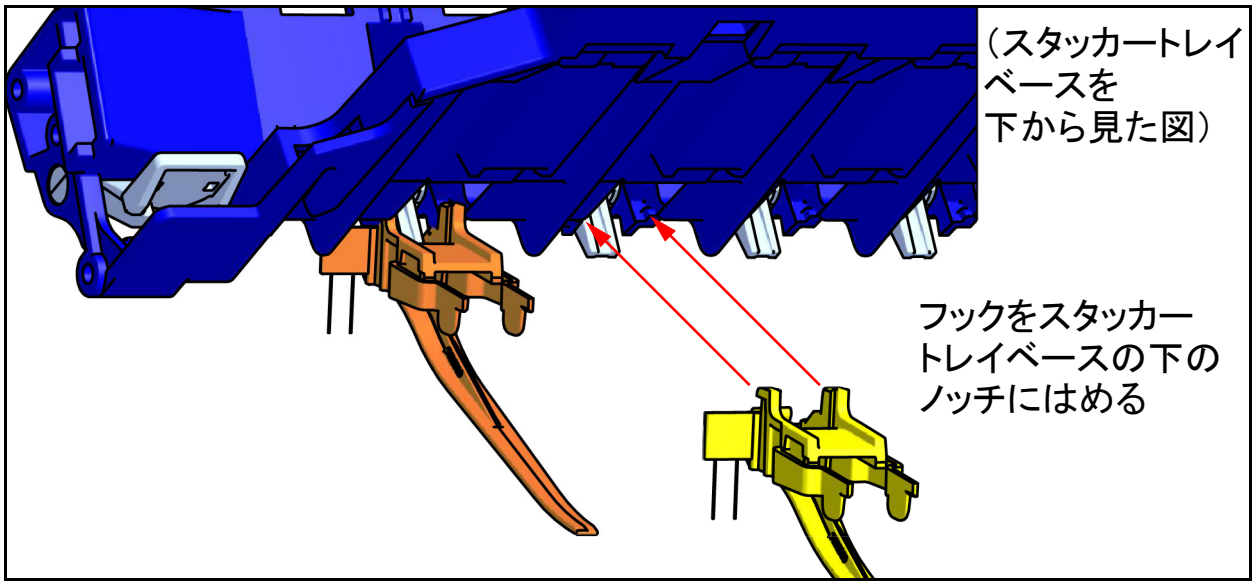


図 5-14： ペーパーガイドの取り付け

前面のタブを軽く押しながら、ブロックを所定の位置まで回転させます。所定の位置に達するとスナップインとなります。

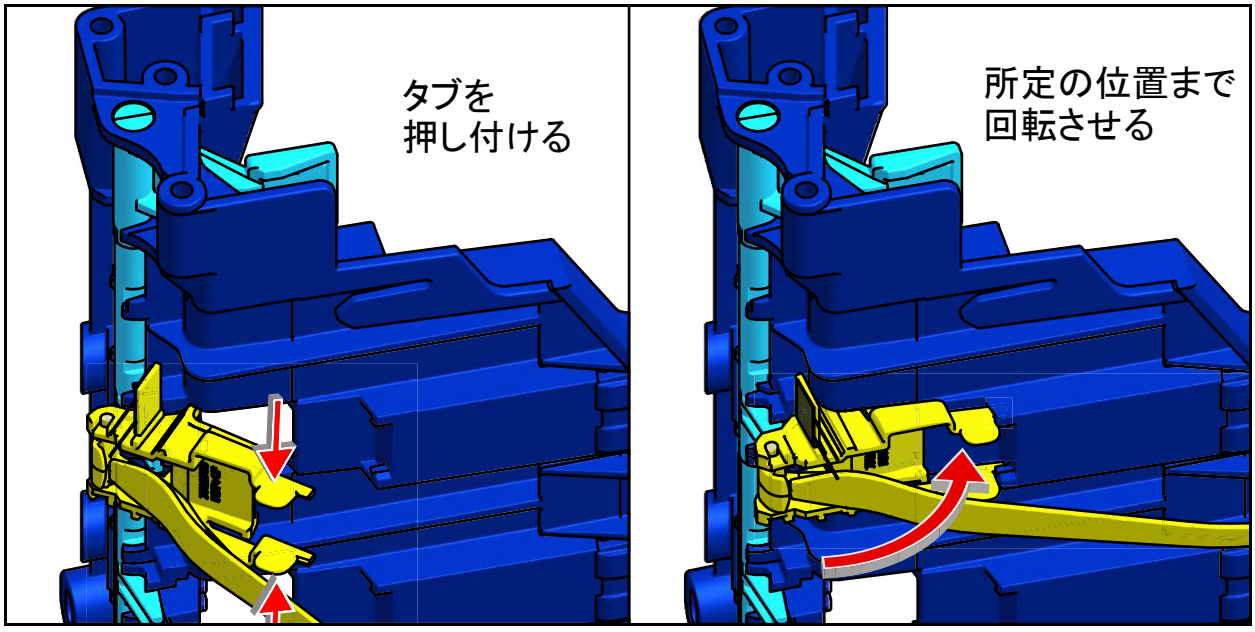


図 5-15： ペーパーガイドの取り付け

5.5. トレイ

スタッカートレイを挿入します（図 5-16 参照）。スタッカートレイの位置は次のとおりです。

- 上段：上下の側面整列デバイス
- 中央の 3 段：下の側面整列デバイス
- 下段：側面整列デバイスなし

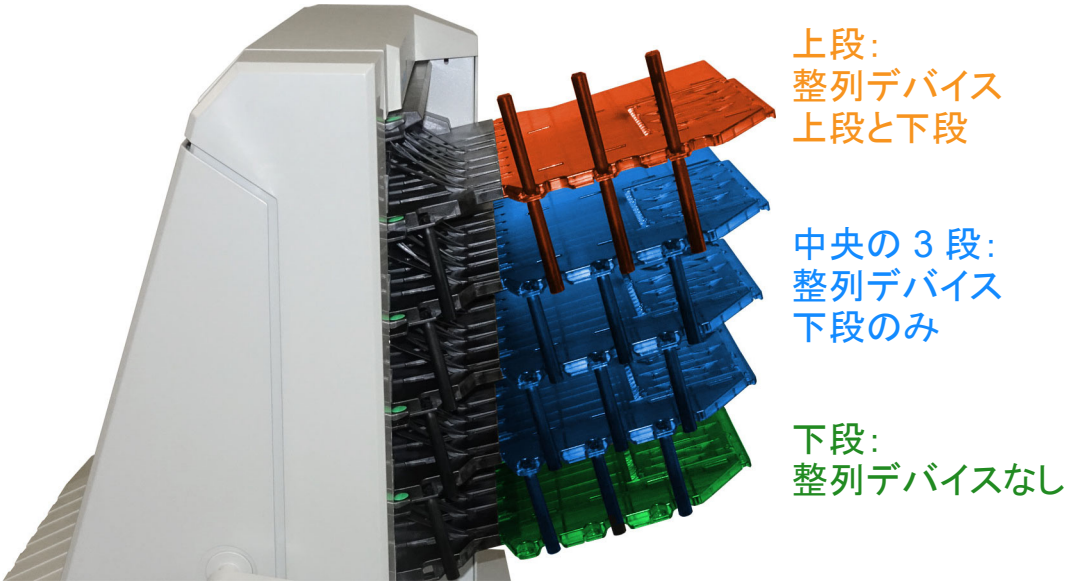


図 5-16： スタッカートレイ

5.6. スキャナの清掃

メンテナンスにより、Falcon+ は効率的に稼働し続けます。しかし、時間の経過に伴いホコリや汚れが蓄積すると性能が低下して、原稿の傾き、複数ページのフィード、詰まりなどの問題を引き起こします。コンベア、スタッカーブロック、フィードブロック、CIS は定期的な清掃が必要です。

メンテナンスを定期的に実施することにより、Falcon+ はダウンタイムを最小限に抑え、最大限の効率で機能し続けます。メンテナンスでは、ホコリやゴミの除去と、全般的な清掃を行います。

⚠ 注意

クリーナーを使用する際は注意が必要です。クリーナーを含ませた布などは、稼働部を清掃する際には決して使用しないでください。モーターの動作中はベルトやローラーを清掃しないでください。布きれなどを可動部に使用すると、重症を負うおそれがあります。ベルト、ローラー、プーリーなどの部品は、手で回しながら掃除するか、静止している間に掃除してください。

5.6.1. コンベアと搬送ブロック

1. 全ての作業を中止して、スキャナの電源を切ります。
2. 搬送部は、毎回の勤務シフトごとに点検してください。スキャナのカバーを開けて、紙くずやほこりや封筒の切り屑などを除去します。
3. スタッカートレイから、必要に応じてゴミやホコリを掃除機で吸出します。
4. コンベアローラーから、必要に応じてゴミやホコリを掃除機で吸出します。

5.6.2. コンタクトイメージセンサー

ガラスのコンタクトイメージセンサーは、各シフトの開始時または終了時、あるいは必要に応じて清掃することをお勧めします。実行画面の画像プレビューに線が出る場合は、コンタクトイメージセンサーのガラスにトナー、修正液、紙、糊などが付着している可能性があります。コンタクトイメージセンサーのガラスをリントフリーの布か Windex などのガラスクリーナーで拭きます。コンタクトイメージセンサーの上部と下部も清掃してください。コンタクトイメージセンサーは搬送ドアの下に設置されています（図 5-17）。

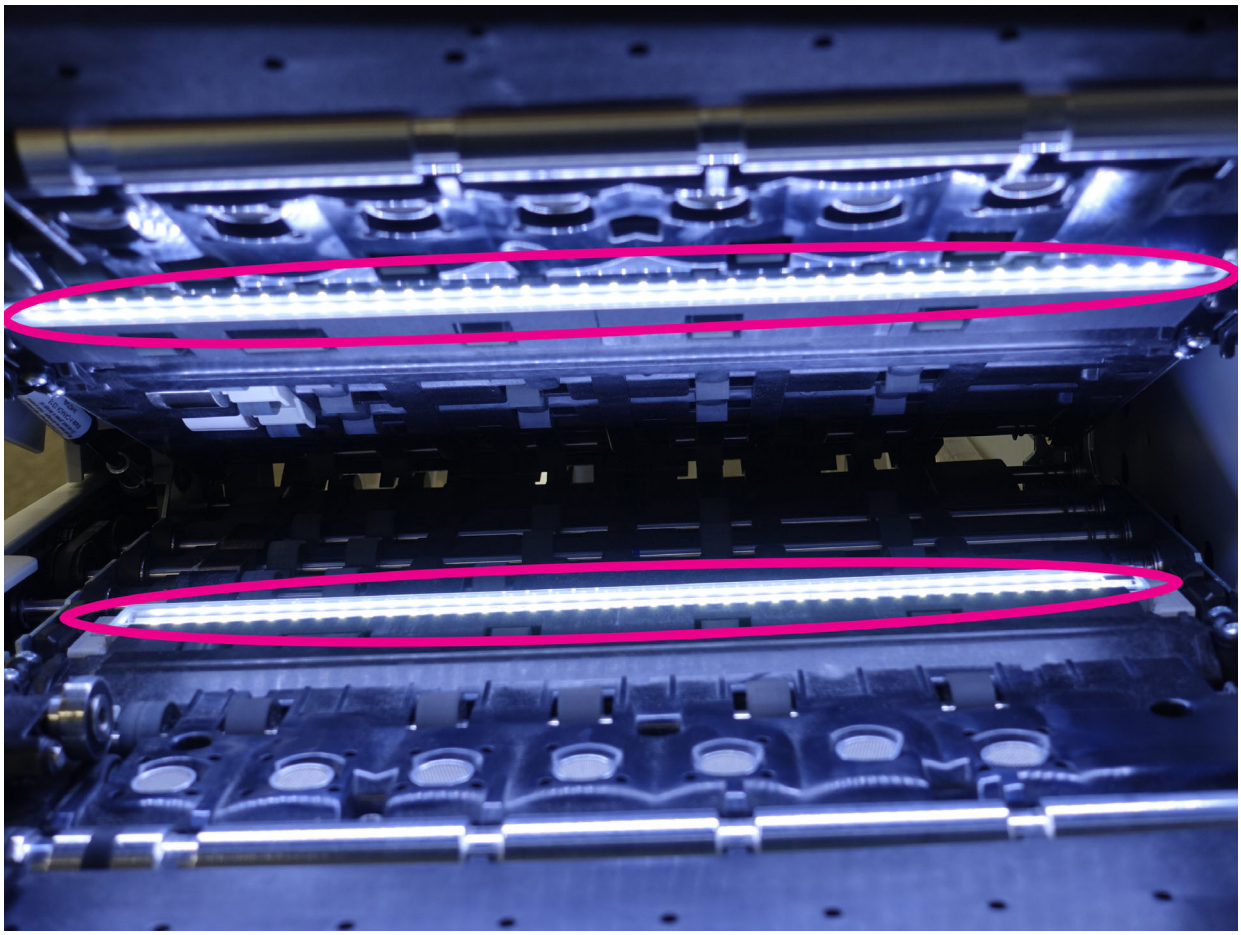


図 5-17： コンタクトイメージセンサー

5.6.3. フィードブロック

フィードブロックのタブを持ち上げ、下側の文書分離用パッドを清掃します（図 5-18）。フィーダーに給紙する送りローラーも同時に清掃してください。Formula 409 などのクリーナーを使用して、フィードのメカを毎週または必要に応じて清掃してください。

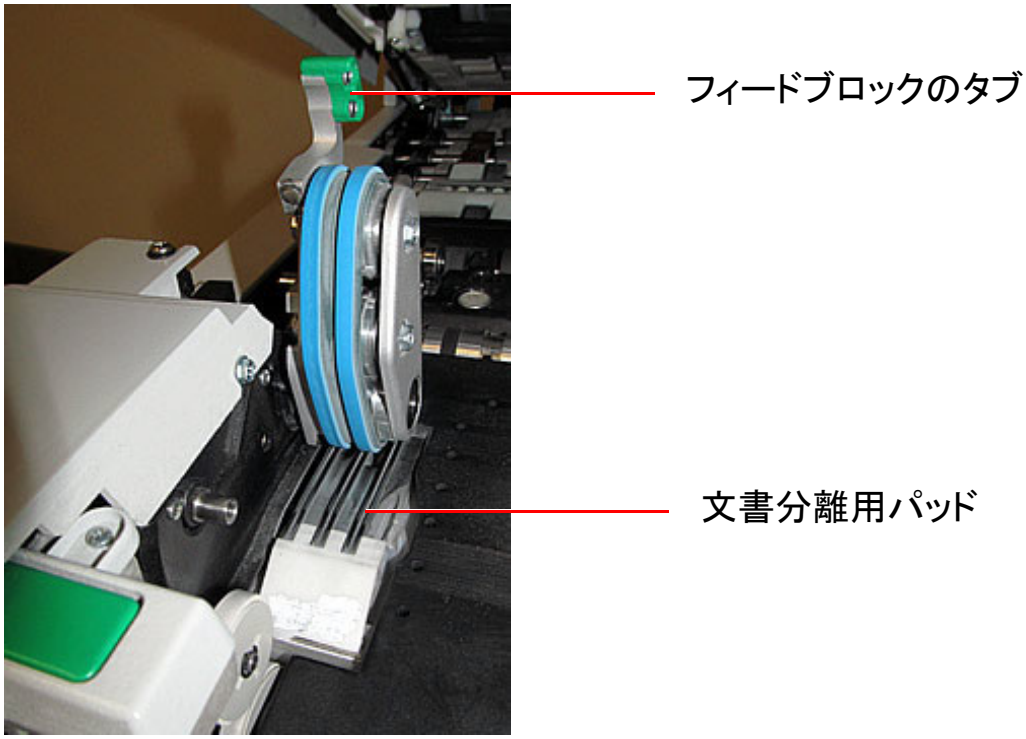


図 5-18： フィードブロック

6. 統計とバッチ出力ファイル拡張子

6.1. Falcon+ 統計情報 114
6.1.1. 統計レポートの作成 114
6.1.2. General Information（一般情報） 116
6.1.3. 全体的なシステム性能評価 117
6.1.4. 性能詳細 118
6.1.5. リジェクト用語 119
6.1.6. 停止問題 123
6.1.7. Stops（停止） 128

6.2. バッチ出力ファイル拡張子 130
6.2.1. 拡張子: 130

Falcon®+

オペレータマニュアル

6.1. Falcon+ 統計情報

管理者、担当者、ユーザレベルのオペレータは、下記のレポート機能にアクセスできます。

- 統計レポートの作成
- 統計情報のバックアップ
- 統計情報の復元

統計レポートを使用して、ジョブの稼働効率を評価できます。Falcon+ では、下記のレポートを作成できます。

- 個別レポート：各実行ジョブに関する情報が掲載されています。個別レポートを作成するために選択した条件に一致するジョブが複数見つかった場合は、ジョブごとに個別レポートが作成されます。
- 要約レポート：「Statistics Reports Criteria」（統計レポートの基準）ウィンドウで定義された範囲のジョブについての情報が掲載されています。

上記 2 種類のレポートには、いずれも次のセクションが含まれます。

- General Information（一般情報）
- Overall System Performance Measures（全体的なシステム性能評価）
- 性能詳細

6.1.1. 統計レポートの作成

1. メインメニューから、`Statistics`（**統計情報**）を選択します。
2. **Statistics Reports Criteria**（**統計レポートの基準**）ウィンドウで、レポートのパラメータを設定します。
   - **ジョブ数**：ジョブを選択します。個別、複数、全部から選択します。
   - **オペレータ**：オペレータ、シフト、または全オペレータから選択します。
   - **日付**：ドロップダウンで開始日と終了日を設定します。
   - **時刻**：ドロップダウンで開始時刻と終了時刻を設定します。
   - **Job/Operator Lists**（**ジョブ / オペレータリスト**）：次のラジオボタンのいずれかを選択します。
     - 現在のジョブ / オペレータ：ジョブとオペレータリスト内のセットとして使用します。

- 過去の実行数の読み取り：現行のジョブとオペレータのリストから削除されたジョブを検索します。ジョブは削除されても統計情報ファイルにまだ保存されています。このラジオボタンを選択してアクセスし、**Refill（再充填）**ボタンをクリックするとフィールドが再入力されます。

3. **Summary（概要）**セクションで、次のいずれかのラジオボタンを選択します。
   - **全部**：選択した条件に該当するジョブのすべての統計レポートを作成します。
   - **ジョブ数**：ジョブ名で分類された統計レポートを作成します。
   - **オペレータ**：オペレータ名で分類された統計レポートを作成します。OPEX 技術者によって生成されたジョブを統計レポートから除外するには、このボックスにチェックを入れます。
4. **Matching Runs（条件に一致するジョブの実行回数）**ボタンをクリックすると、上記で選択した条件に一致するジョブの実行回数を確認できます。
   - **N/A** がボタンの右側に表示されている場合、基準に一致するジョブはありません。検索条件を変更してください。
   - **Matching Runs（条件に一致するジョブの実行回数）**ボタンの後に数字が表示された場合は、次のステップに進みます。
5. 画面下部にある **Summary Report （概要レポート）**ボタンをクリックします。

Statistics Report（統計レポート）の下部にあるツールバーには、次の情報が表示されます。

- **左右の矢印**：レポート内でコンテンツを移動するために使用します。
- **プリンターボタン**：クリックすると、プリンターダイアログウィンドウが開き、レポートが印刷されます。
- **エクスポートボタン E**：クリックすると、**System Setup > System > Statistics Settings > Statistics Report Export Filename** パラメータで指定された場所にレポートが自動的にバックアップされます。
- **終了ボタン X**：クリックすると、Statistics Report（統計レポート）ウィンドウが閉じます。

6.1.2. General Information（一般情報）

次の表は、統計レポートの General Information （一般情報）セクションに表示される用語の一覧です。

表 6-1: General Information （一般情報）の用語

用語	定義
ジョブ名	レポート作成対象のジョブの名前です。2 つ以上のジョブについて作成する要約レポートでは、**All（すべて）**がこのフィールドに表示されます。
オペレータ	レポートに含まれるオペレータの名前です。2 人以上のオペレータの要約レポートを作成する場合、**All（すべて）**がこのフィールドに表示されます。
実行タイプ	**Default Batch Type**（デフォルトのバッチタイプ）のバッチパラメータで設定された実行タイプです。初期設定のバッチには、次のタイプがあります。 • **シングル** • **マルチ** • **スタブのみ** • **チェックのみ** • **ページ付きマルチ** • **ルール化されていないトランザクション（取引処理）** • **ページのみ** • **ルール化されたトランザクション（取引処理）** • **ミックス** **Default Batch Type**（デフォルトのバッチタイプ）のパラメータは、**Prompt Operator for Process & Recv Dates**（プロセスと受領日についてオペレータに確認画面を表示する）のバッチパラメータが **Yes**（はい）に設定されている場合、ジョブの初回実行時に表示される Modify Batch Information（バッチ情報の変更）ウィンドウにて設定できます。
Start Time（開始時刻）	指定された時間枠内で最初のジョブが開始された時刻です。
End Time（終了時刻）	指定された時間枠内で最後のジョブが停止した時刻です。
Jobs Included（含まれるジョブ）	（要約レポートでのみ表示）レポートに含まれるジョブ数の一覧です。
Jobs Ended（終了ジョブ）	（要約レポートでのみ表示）指定された時間枠で終了したジョブ数の一覧です。

6.1.3. 全体的なシステム性能評価

次の表は、統計レポートの Overall System Performance Measures（全体的なシステム性能評価）に表示される用語のリストです。

表 6-2: Overall System Performance Measures（全体的なシステム性能評価）セクションにおける用語

用語	定義
Input（給紙枚数）	装置にフィードされた文書の枚数です。
Output（処理枚数）	装置によって正常に処理された文書の枚数です。この数字は、給紙枚数からスキャン中止枚数を引いた数です。
Jam Rate（停止率）	ジョブ 1 回あたりの停止した回数です。停止率は次のように計算されます。 $\text{停止率} = \frac{\text{給紙枚数}}{\text{停止した回数}}$
Rejects（スキャン中止数）	スキャン中止文書の枚数です。
Feed Rate（フィード速度）	Falcon®+ の現在の 1 時間当たりのフィード枚数。送り速度の計算式： $\text{フィード速度} = \frac{\text{給紙枚数} * 3600}{\text{ジョブのアクティブ時間（秒）}}$
Output Rate（処理速度）	Falcon®+ の現在の 1 時間あたりの処理枚数。処理速度の計算式： $\text{処理速度} = \frac{\text{処理枚数} * 3600}{\text{ジョブのアクティブ時間（秒）}}$
Jam Clear Time（停止解消時間）	オペレータが停止対応をする間、Falcon®+ が停止していた平均時間。停止解決時間の計算式： $\text{停止対応時間（秒）} = \frac{\text{停止した時間（秒）}}{\text{停止した回数}}$
Reference Feed Rate（基準フィード速度）	Falcon®+ に 1 時間あたりに給紙された文書の枚数です。基準フィード率は次のように計算されます。 $\text{基準フィード速度} = \frac{\text{給紙枚数} * 3600}{\text{実行時間（秒）} + (\text{停止回数} \times \text{停止対応時間（秒）})}$

表 6-2: Overall System Performance Measures（全体的なシステム性能評価）セクションにおける用語 （続き）

用語	定義
Reference Output Rate（基準処理速度）	Falcon®+ によって処理された文書の枚数です。基準処理率は次のように計算されます。 基準処理速度 = 処理枚数 * 3600 / 実行時間（秒）+（停止回数 x 停止対応時間（秒））
Reference Jam Clear Time（基準停止対応時間）	停止対応に要する推定時間です。この値は 20 秒に固定されています。

6.1.4. 性能詳細

次の表は、統計レポートの Performance Details Statistic（システム性能の詳細な統計情報）セクションに表示される用語のリストです。

備考：表内の数式における時間単位は、すべて秒です。例えば、Active Job Time（ジョブのアクティブ時間）が "00:01:49" であれば、1 分 (60 秒)+ 49 秒 = 109 秒を意味します。

表 6-3: Performance Details（システム性能の詳細）の用語

用語	定義
ジョブ時間	Falcon®+ がスキャン処理を実行していたか、あるいは停止していた時間です。アクティブな時間は、次のように分類されます。 • 実行時間 • 停止時間
Run Time（実行時間）	実行処理の合計時間です。
Jam Time（停止時間）	Falcon®+ が停止していた合計時間。
アイドル時間	オペレータがジョブの実行ウィンドウを操作しており、かつ Falcon®+ によるスキャン処理が行われていなかった時間です。

6.1.5. リジェクト用語

「Rejects（スキャン中止）」セクションには、文書のスキャン中止の理由と、各中止毎の枚数が表示されます。

表 6-4: 文書スキャン中止の理由

Length Too Long（長すぎ）	スキャン可能サイズよりも長い文書や、仕分け設定でスキャン中止と指定した最大長さよりも長い文書の場合
Length Too Short（短すぎ）	仕分け設定でスキャン中止と指定した最小寸法よりも短い文書の場合
Gap Too Small（間隔が狭すぎ）	文書間の間隔が、スキャナのパラメータで定義された最小フィード間隔よりも短い場合
Too Thin（薄すぎ）	仕分け設定でスキャン中止指定した最小厚さよりも薄い文書の場合
Too Thick（厚すぎ）	仕分け設定でスキャン中止指定した最大厚さよりも厚い文書の場合
Unable to Capture Image（画像の読み取りに失敗）	予期された時間内にスキャナが画像をキャプチャ出来ない場合
Unable to Process Image（画像の処理に失敗）	処理時間の不足以外の理由で、画像処理に失敗した場合
Blank Image Detected（空白原稿の検出）	ジョブ設定で空白原稿をスキャン中止に指定し、また文書がブランクだと検出された場合
Does Not Match Expected Page Types（想定されたページタイプに不一致）	文書が、特定ジョブ内で設定されたページタイプのいずれにも一致しない場合
Bad MICR Read（無効な MICR 読み取り結果）	結合 MICR 読み取りで、有効な文字やチェックサムが十分に検出されなかった場合
Batch Ticket Expected（バッチチケットを想定）	バッチチケットが想定されている際に、バッチチケット以外の文書が確認された場合

表 6-4: 文書スキャン中止の理由 （続き）

Stub Expected（スタブを想定）	スタブが想定されている際に、スタブ以外の文書が検出された場合
Check Expected（小切手を想定）	小切手が想定されている際に、小切手以外の文書が検出された場合
Page Expected（ページを想定）	ページが想定されている際に、ページ以外の文書が検出された場合
Envelope Expected（封筒を想定）	封筒が想定されている際に、封筒以外の文書が検出された場合
Money Order Expected（郵便為替を想定）	郵便為替が想定されている際に、郵便為替以外の文書が検出された場合
Cash Expected（現金を想定）	現金が想定されている際に、現金以外の文書が検出された場合
Check Listing Expected（小切手リストを想定）	小切手リストが想定されている際に、小切手リスト以外の文書が検出された場合
Batch Limit Detected（バッチ限度数の検出）	バッチパラメータで定義されているトランザクション数、文書枚数、スタブ枚数、小切手枚数が最大値に達した場合
Last Transaction Not Complete（最後のトランザクションが未完了）	現在のトランザクションが定義されたトランザクションの基準と一致しておらず、文書は新しいトランザクションを開始するページタイプとして識別された場合
Current Transaction Already Complete（現在のトランザクションは既に完了済み）	トランザクションは定義された基準を満たしているが、新しいトランザクションを開始することを定義しない文書が新たに認識された場合
Batch Ticket Not Expected（想定外のバッチチケット）	有効なバッチチケットがバッチにすでに含まれているにも関わらず、別の文書がバッチチケットとして認識された場合（自動バッチモードの使用時を除く）

表 6-4: 文書スキャン中止の理由 （続き）

Ran Out of Time Processing Image（画像処理のタイムアウト）	ソフトウェアが問題の画像を処理する際に、許容時間を使い切った場合。許容時間はトラック速度によって変わる。
Could Not Detect Document Edges（文書端の検出に失敗）	画像処理時にスキャンされた文書端を検出できなかった場合
No Page Sub-Type Selected（ページサブタイプが未選択）	ページサブタイプを含む原文書が検出されたもののが、デフォルトのページサブタイプが指定されておらず、オペレータもページサブタイプの選択を行なわなかった場合
ScanLink Plug-in Requested a Reject （ScanLink プラグインがスキャン中止を要求）	ScanLink プラグインが文書のスキャン中止を要求した場合
ScanLink Plug-in Timed Out（ScanLink プラグインのタイムアウト）	ホストが ScanLink プラグインから応答を所定時間内に受信しなかった場合
Could Not Create a Batch（バッチの作成に失敗）	システム内で新規ファイルを開いて書き込みできないために、あるいはシステム内のエラーにより、ソフトウェアがバッチを作成できなかった場合
Detected a Duplicate Batch（重複バッチが検出）	使用されたバッチリスト内に、またはバッチディレクトリ内に同じバッチ番号を持つバッチが検出された場合
Failed Saving Image（画像の保存に失敗）	バッチ内で文書の追加または再スキャンを試みた際に、エラーが発生した場合

表 6-4: 文書スキャン中止の理由 （続き）

Magnetic MICR Response Missing（磁気 MICR が未応答）	磁気 MICR からの応答が想定されている際に、応答が受信されなかった場合
Cannot Process Printer Data （プリンタデータの処理に失敗）	検査履歴情報をプリンタに送信する際にエラーが発生した場合
Required Item Expected（必要文書を想定）	トランザクション内で順位の不正確な文書が検出された場合（ルール化されたバッチのみ）
Only One Item of this Type Expected （唯一の特定タイプの文書を想定）	スキャンされた順位の文書は 1 枚のみ存在が許可されているものの、必要な文書はすでにバッチ内に存在している場合（ルール化されたバッチのみ）
New Transaction Required（新規トランザクションが必要）	この文書をバッチに追加するためには、新しいトランザクションを開始する必要がある場合（ルール化されたバッチのみ）
Jamsorts（停止の原因となった文書以降の文書）	「Stop Machines for Rejects（スキャン中止時に装置を停止）」のジョブパラメータが「No（いいえ）」以外に設定されている場合、スキャン中止がクリアされるまでの問題の文書以降のすべての文書。停止状態が解消されるまでの停止文書以降のすべての文書。

6.1.6. 停止問題

Jams（停止セクション）には、停止の原因が記載されます。

表 6-5: 停止の原因

Duplicate Batch Detected（重複するバッチを検出）	同じ名前のバッチがすでに存在するため、バッチを開始できなかった場合
Too Many Consecutive Rejects（連続スキャン中止の発生回数）	連続スキャン中止発生数が、スキャナパラメータで設定された許容回数を超えている場合
Software Problem Detected（ソフトウェア問題検出）	Controller がホストから無効な情報を受け取ったか、あるいは Controller 内に Assert（例外）が発生した場合
Vertical Turn Sensor Missing（垂直回転センサーの検出に失敗）	Controller が垂直回転センサーによる文書の通過検出を想定していたものの、想定時間内に検出されなかった場合
Stacker Entry Sensor Missing（スタッカー投入口センサーが検出せず）	Controller がスタッカー投入口センサーによる文書の通過検出を想定していたものの、想定時間内に検出されなかった場合
Bin 2 Gate Sensor Missing（トレイ 2 用ゲートセンサーの検出に失敗）	Controller がトレイ 2 用ゲートセンサーによる原稿の通過検出を想定していたものの、想定時間内に検出されなかった場合
Feed Entry Multifeed Sensor Blocked （フィード投入口のマルチフィード検知センサーがブロック）	フィード投入口のマルチフィード検知センサーがブロックされている場合
Feed Input Multifeed Sensor Blocked （フィード入力のマルチフィード検知センサーがブロック）	フィード入力のマルチフィード検知センサーがブロックされている場合
Unexpected Piece at Stacker Entry Sensor （スタッカー投入口センサーで想定外の文書）	スタッカー投入口センサーにより、ソフトウェアにとって想定外の文書が検出された場合。通常はスタッカーのバイパストレイに排紙される予定だった文書が時間内に正常な処理が出来なかったことが原因です。ゲートが適切に作動しなかったことが原因の場合もあります。
Unexpected Piece at Bin 2 Sensor （トレイ 2 用センサーで想定外の文書）	トレイ 2 用センサーにより、ソフトウェアが想定外の文書を検出した場合。ゲートが適切に作動しなかったことが原因です。
Invalid Piece Complete Response （原稿完了時の応答が無効）	文書の処理終了時に、無効な文書 ID をホストから受信した場合

表 6-5: 停止の原因 （続き）

Piece Thickness Sensor Null Below Minimum （文書厚みセンサーの検出値が最小 Null 値以下）	文書厚みセンサーの検出値が、スキャナパラメータで定義された最小 NULL 値を下回った場合
Piece Thickness Sensor Null Above Maximum （文書厚みセンサーの検出値が最大 Null 値以上）	文書厚みセンサーの検出値が、スキャナパラメータで定義された最大 NULL 値を上回った場合
Piece Thickness Sensor Runout Problem （文書厚みセンターの測定範囲問題）	原稿厚みセンサーの測定範囲が、スキャナパラメータで定義された最大測定範囲値を上回った場合
Missing Piece at Straight Through Path （ストレートパスで文書が未検出）	スタッカーバイパストレイに排紙される予定だった文書が、他のトレイに排紙された場合
Batch Manager has an Internal Error （バッチマネージャーで内部エラーが発生）	Batch Manager 内で内部エラーが発生した場合
Detected a File Write Error（ファイル書き込みエラー）	指定されたディレクトリーに画像ファイルまたはバッチファイルを書き込む際に、ソフトウェアが問題を検出した場合
ScanLink Plug-in Failed（ScanLink プラグインの異常）	ScanLink プラグインへの情報送信に失敗した場合
ScanLink Plug-in Requested a Jam （ScanLink プラグインが停止を要求）	ScanLink のプラグインから停止が要求された場合
Host to Controller Report Missing （ホストから Controller へのレポートの未検出）	Controller ではホストから文書情報が送られることを想定していたが、想定時間内に情報を受信できなかった場合。システムの処理能力が限界付近にて使用された場合や、何らかの理由によりシステムが同期できない場合に発生します。
Jam Caused by Reject（文書スキャン中止による停止）	Jamsorts（停止原因文書以降の文書）以外のスキャンが中止された場合。Jamsorts（停止原因文書以降の文書）以外のスキャン中止発生回数は、すべてこのカテゴリとして数えられます。装置を停止させるには、「Stop Machines for Rejects（文書スキャン中止時に装置を停止する）」のジョブパラメータを「No（いいえ）」以外に設定する必要があります。No（いいえ）以外に設定した場合、スキャン中止文書は中止トレイに送られ、スキャン処理は続行されます。
Double Detected（複数ページの検出）	マルチフィード検知センサーが、2 枚の文書がフィードされたことを通知します。

表 6-5: 停止の原因 （続き）

MFD Skew Angle Exceeded Sensor Blocked （MFD 傾斜角検出センサーのブロック）	MFD 傾斜角検出センサーがブロックされています。
MFD Skew Damage Exceeded Sensor Blocked （MFD 傾斜損傷検出センサーのブロック）	MFD 傾斜損傷検出センサーがブロックされています。
Out Of Bounds Sensor Blocked（スキャン可能範囲センサーのブロック）	スキャン可能範囲センサーがブロックされています。
Out of Bounds Detected（スキャン可能範囲検出）	スキャン可能範囲に対して、文書が長すぎます。
Justification Sensor Blocked（文書整列センサーのブロック）	文書整列センサーがブロックされています。
Feed Singulation Defeat Button Stuck （フィード無効化ボタンが復帰せず）	フィードコントロール無効化ボタンが押下状態のまま戻りません。
Skew 9 Sensor Blocked（傾きセンサー 9 のブロック）	傾きセンサー 9 がブロックされています。
Skew 8 Sensor Blocked（傾きセンサー 8 のブロック）	傾きセンサー 8 がブロックされています。
Skew 7 Sensor Blocked （傾きセンサー 7 のブロック）	傾きセンサー 7 がブロックされています。
Skew 6 Sensor Blocked（傾きセンサー 6 のブロック）	傾きセンサー 6 がブロックされています。
Skew 5 Sensor Blocked（傾きセンサー 5 のブロック）	傾きセンサー 5 がブロックされています。
Skew 4 Sensor Blocked （傾きセンサー 4 のブロック）	傾きセンサー 4 がブロックされています。
Post Feed MFD Trail Sensor Blocked（ポストフィード MFD 追跡センサーのブロック）	ポストフィード MFD 追跡センサーがブロックされています。
Stepper Stall Detected（ステッパー停止の検出）	ステッピングモーターが停止しました。
Pre Crush Roller Sensor Blocked （プレクラッシュローラーセンサーのブロック）	プレクラッシュローラーセンサーがブロックされています。
Feed Entry RX Present Sensor Blocked （フィード投入口 RX 検出センサーのブロック）	フィード投入口 RX 検出センサーがブロックされています。

表 6-5: 停止の原因 （続き）

Fan Failure Detected（ファン異常の検出）	ファンの動作が停止しました。
Roller Bed Motor Fault Detected （ローラーベッドモーター異常の検出）	ローラーベッドモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
Feeder Motor Fault Detected（フィーダーモーターの異常検出）	フィーダーモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
Scan Bed Motor Fault Detected （スキャンベッドモーター異常の検出）	スキャンベッドモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
Stacker Motor Fault Detected（スタッカーモーター異常の検出）	スタッカーモーターのジョブ起動中に、機能停止、過電流、過小電流、過熱警告、または過熱遮断がステッピングコントローラーによって検出されたときに稼働します。
ID1 Assist Verify Jammed（ID1 アシスト停止の確認）	ID1 ASSIST VERIFY センサーが調整可能な許容時間よりも長くブロックされたときに稼働します。ここでのタイムアウト時間は、**id assist sensor jammed time (5000)（ID アシストセンサーによる停止時間（5000））**のスキャナパラメータで設定します。デフォルトは 5000 ミリ秒（= 5 秒）です。
Servo Fuse 1 Fault Detected（サーボヒューズ 1 異常の検出）	上流または右側のプレフィードアームを制御するサーボモータ用ヒューズがオープンになっている場合か切れたことを検出した場合に稼働します。
Servo Fuse 2 Fault Detected（サーボヒューズ 2 異常の検出）	下流または左側のプレフィードアームを制御するサーボモータ用ヒューズがオープンになっている場合か切れたことを検出した場合に稼働します。
Roller Bed Fan Fault Detected（ローラーベッドファン異常の検出）	ローラーベッドモーター用ファンの動作を検出できないときに稼働します。
Feeder Fan Fault Detected（フィーダーファン異常の検出）	フィーダー用モーターのファンの動作を検出できないときに稼働します。

表 6-5: 停止の原因 （続き）

IO Link Down Detected（IO リンクダウンの検出）	IO ステッパボードと OPEX IO リンクポート間の RJ45 ケーブルが抜かれている場合、および IO ステッパボードの電源がオフのときに稼働します。これらの条件のいずれかに該当し、スキャナが動作している場合、Controller が **IO Link Down Detected（IO リンクダウン）**停止を通知します。CertainScan では停止ダイアログ画面が表示され、「リンクがダウンしています。ケーブルと電源を確認してください」とのメッセージが出ます。 このイベントは、**Machine Parameter（スキャナのパラメータ）> Module Disable Parameters（モジュール無効化パラメータ）> disable io link down detection（IO Link ダウン検出の無効化）**の設定と関連付けられています。**disable io link down detection（IO Link ダウン検出の無効化）**を **0**（デフォルト）に設定している場合、前述のように、このイベントが検出され、必要に応じて停止されます。**disable io link detection（IO Link 検出の無効化）**が 1 に設定されている場合、イベントは検出されません。
Imager Error Detected （画像エラーの検出）	画像キャプチャの準備ができていないことが検出されたにも関わらず、装置のジョブが開始されたときに稼働します。
Unexpected Piece detected at Drop Slot （ドロップスロットで想定外の文書が検出）	ドロップスロットが作動していない時に、文書が「システムエントリ」センサーで検出されると発生します。
Reduced TMD accuracy has been detected （TMD 精度低下の検出）	（CertainScan バージョン 3.10.274、3.10.275 および 3.20.25 に導入）その目的は、保守点検が必要だと Falcon+ が判断した場に技術者に注意を喚起することです。 直近 2 週間で TMD DAC の自動設定に狂いが 3 回以上検出された場合、保守点検が必要だと判断されます。自動設定が狂う大半の原因は、TMD マグネットやセンサーチップの周囲に蓄積しているホッチキスの針です。 TMD DAC の自動設定の履歴は、TMD_DAC_Settings _Log.dat ファイルに記録されます。TMD の修理点検後にこのエラーメッセージが表示されることを防ぐため、C:\OPEX ディレクトリーからログファイルを削除することをお勧めします。

6.1.7. Stops（停止）

Stops（停止）セクションには、以下の停止理由が記載されます。

Table 7: 停止の理由

Feeder Jammed（停止問題が発生したフィーダー）	下側の傾き検出センサーが指定時間にブロックされた場合この指定時間は、停止時間とフィード稼働時間の両方によって決まります。
Upper Skew Detect Sensor Blocked（上部傾き検出センサーのブロック）	システムの起動時に、上部傾き検出センサーにてブロックされた場合
Middle Skew Detect Sensor Blocked（中部傾き検出センサーのブロック）	システムの起動時に、中部傾き検出センサーがブロックされた場合
Lower Skew Detect Sensor Blocked（下部傾き検出センサーのブロック）	システムの起動時に、下部傾き検出センサーがブロックされた場合
System Entry Sensor Blocked（システム投入口センサーのブロック）	システムの起動時に、システム投入口センサーがブロックされた場合
Vertical Turn Sensor Blocked（垂直回転センサーのブロック）	システムの起動時に、垂直回転センサーがブロックされた場合
Stacker Entry Sensor Blocked（スタッカー投入口センサーのブロック）	システムの起動時に、スタッカー投入口センサーがブロックされた場合
Bin 2 Gate Sensor Blocked（トレイ 2 用ゲートセンサーのブロック）	システムの起動時に、トレイ 2 用ゲートセンサーがブロックされた場合

Table 7: 停止の理由 （続き）

Stacker Door Open（スタッカードアが開いた）	スキャン中またはシステムの起動時に、スタッカードアの開いた状態が検出された場合
Transport Door Open（搬送ドアが開いた）	スキャン中またはシステムの起動時に、搬送ドアの開いた状態が検出された場合
ScanLink Plug-in Requested a Stoppage（ScanLink プラグインが停止を要求）	ScanLink のプラグインから停止を要求された場合
Too Skewed（傾斜が大きすぎる）	文書の傾きが大きすぎてスキャナを安全に通過できない場合

6.2. バッチ出力ファイル拡張子

OPEX アプリケーション（CertainScan、CertainScan Edit、CertainScan Transform）間のバッチの受け渡しには、OII（OPEX Interchange Interface）と呼ばれる内部バッチファイルフォーマットが使用されます。これにより、途中で変更を加え、最終的なアウトプット（OXI、ODI、カスタム）を作成してバックエンドユーザーに提供できます。OII バッチファイルでは、拡張子「.oii」を使用します。CertainScan バッチパラメータの設定が、OII ファイルを使ったバッチ処理の方法やタイミングに影響を与える可能性があります。

6.2.1. 拡張子：

バッチの状態はファイル拡張子で表されます。ODI、OXI、OII は次の状態に対応します。

- **Final**：*.odi、*.oxi、*.oii
- **Suspended Scanning**：*.odi_scan、*.oxi_scan、*.oii_scan

  この拡張子は、次のバッチパラメータの設定に基づいて表示されます。
  - 画像とバッチの編集を要求 = **いいえ**
  - オペレータにバッチを中断するよう指示 = **はい**
- **Suspended Editing**：*.odi_edit、*.oxi_edit、*.oii_edit

  この拡張子は、編集のためにバッチが閉じられているときに表示されます。
- **Suspended Transform**：*.odi_transform、*.oxi_transform、*.oii_transform

  この拡張子は、変換のためにバッチが閉じられているときに表示されます。
- **Temp Scanning**：*.odi_scan_temp、*.oxi scan_temp、*.oii_ scan_temp

  この拡張子は、バッチが最初に表示されるときに一瞬だけ表示されます。
- **Temp Editing**：*.odi_edit_temp、*.oxi_edit_temp、*.oii_edit_temp

  この拡張子は、CertainScan Edit でバッチを開いているときに表示されます。
- **Corrupt**：*.odx、*.oxx、*.oix

***備考**：これは、サポートされているすべての形式のリストですが、すべての形式が使用されているわけではありません。*

OPEX Corporation 企業情報

OPEX Corporation では機械メーカーの枠組みを超えて、お客様の未来のために常にテクノロジーを再構築しています。

弊社では革新的な手法により、お客様が現在および将来の差し迫ったビジネス課題を解決するための独自の自動化ソリューションを設計しています。拡張性に優れた弊社の倉庫、文書、メール自動化ソリューションは、ワークフローを改善し、変革を加速させ、インフラの効率化を促進します。

弊社は家族経営の組織で、1,200 人以上の献身的な社員が日々産業の変革に貢献する製品の革新、製造、設置、サービスに従事しています。弊社はお客様の声に耳を傾け、お互いを尊重し、自動化ソリューションによって未来を再構築するために力を合わせています。

OPEX は次世代のオートメーションそのものを体現した企業です。

Falcon+®

OPEX®

OPEX Corporation | 305 Commerce Drive | Moorestown, NJ 08057-4234 | USA

http://www.opex.com